

した、けれど忽ち「お氣の毒に」と心から御同情申し上げました。

そこで生徒は思ひ／＼に金を出し合ひ、せめては先生の靴代なりと差し上げませうと云ふ事になりました、之をきいた校長は「私もまけてくれ」と云はれて外套代五十圓、服代十圓、帽子代三圓、カバン代十二圓、併せて七十五圓の小切手を出されました、生徒からの靴代は十圓とすこしです。

「此金をたゞ送つては面白くない、何とか奇抜な方法で、思ひがけぬところへ上げたい」と一同は申して色々と考をこらしました。

考はまとまりました、うまい仕組が出来ました、かくて早速「先生のはなれ技を特別に拜見したいから夫人同道御來校を願ふ」と校長が手紙をムリッツエ先生に出しました。

其日に浮かない顔して夫人同伴先生はやつて來られました、そして汗を流して、馬をとんだり、飛箱に逆立をしたり、繩を渡つたり、水平棒にぶら下つたり、澤山のはなれ技を見せて下さいました、之れが濟むと茶話會と云ふ事になりました、ひとわりお茶が出、お菓子がまはると今度は餘興になり、ラザラ先生の朗讀につれて二人の生徒は所作をし出しました、即ち一人はムリッツエ先生に扮し、忙し相にカバンと外套なんかをさけて玄關に出で、忘れ物をとりに内へひつかへ

す一場を巧にやりました、すると搔ツ攫ひになつた他の一人は外套をつかんでにつこと凄い笑みをもたらすところから、カバンを取り上げてふつて見た上、「之はうまい」と許りうなづいてひつかへ雲をかすみと逃げる一幕です、ムリッツエ先生は、義理笑ひをしながらつまらな相に見て居られました、やがてかつさらひがにけたあとには一人の天使があらはれました、天使に扮したのは校長です、天使はラザラが「すりのおくりもの……すりのおくりもの」と面白い節で讀み上げる毎に、靴代、外套代、服代、帽子代、カバン代の小切手をヒラリ／＼と、ムリッツエの頭に投げかけられました、ムリッツエ先生は愈々つまらな相にうつむかれました、然し……間もなく其紙片がたゞのもので無いと云ふ事に氣がついたとき、「どうしませう、マダム」と先生は云ふ言さへ調子外れに、小切手をにぎつたま、天使の足下にひざまづかれました。

### 其二十四 意外の小包

學友や先生方から誕生日は何時かと私はよく尋ねられました、しかし、私なんかの誕生日は祝ふがもの、價値ないと思つて、決つて知らせたことはありません、けれども何ぞの折りにつひうっかり、十二月なりと口が滑つたと見えて、一同は心ひそかにこの日を待つてゐたのださう

です。

十二月一日お晝何気なく食堂に参りますと、校長は眞赤なバラのつぼみの花束を持つて居られます、一卓には特別な食事の用意がしてあります、「お客様がある相な！」と私は思ひました、處が不思議、校長は私をさしまねいで其特別席につかせました、私がお客様なのです、何だかわけが分らないので、大にまごつきました、すると校長は一同に向つて、「立つて日本學生の誕生日を祝福せよ」と命じました、一同はヒツブ、ヒツブ、ハラーを三唱して、急霰の如き拍手を與へました、私は「さてはとう／＼やられた」と残念な様な嬉しい様な氣分で上氣しました、校長はにこやかに「あなたの誕生日は十二月也と聞き及ぶ、日はたしかならねど、今日は芽出たくもわがアレキサンダー皇太后陛下第六十九回の御誕生日に相當するので、この吉日を以てあなたを祝ひたいのです、願くば多幸なれ、こゝに私共一同は心からあなたの誕生をことほぎまゐらす」と述べられました、私は手にとらせられたバラの花束を捧げて校長を始め一同に謹んで謝しました。思へば自分さへ忘れてゐた誕生の月を、かうして祝つていたゞかうとは實にかたじけないぢやありませんか、餘りの感謝に胸は一分に感激を加へて、何をいたゞいてゐるのか實は夢中でした。

部屋に歸ればこれはまた所せきまで並べられたるプレゼント、花瓶、畫、書籍、ナイフ、スプ

ーン、果實、菓子、毛糸、コーヒー茶碗、お皿、等まるで雜貨店のやうです、私はありがたい學友のなさけにした、か感動させられました。

「ふだんは音信不通でも誕生日には何か來るでせう」と一同待つて居ます、何も來るあてが私にはありません、こんな事なら送つて貰ふやうに頼めばよかつた」と思ひました、あかの他人さへかうして祝つてくれるものを、生れた國の人々から贈物が無くてはまことに早や面目が立たない、どうかみんなは私の誕生日の事を忘れてくれればよいとも念じました、中々忘れてくれませぬ、「おくりものは未だ？」と毎朝きかれます、困つたな、何とか一工夫せにやなるまいと考へてるところへ不思議……不思議……實に不思議、大きなみかん箱がしかも二箇、日本から到着致しました、一箇は母より、一箇は由井夫人の名を以て明治三十七年文科卒業生一同より給

誕生日祝として校長より與へられた寫眞です私が非常に気に入つた動物が好きな事を校長は知つておりました



其二十四 意外の小包

つたものです、私は聲を出して泣きました、そして「小包が来たから見て下さい」と廊下に出てみんなを呼びました、自分へでも来たもの、やうに喜んで、みんなはとんで参りました、みんなに手傳つてもらつて包をあけますと、母の方からは仙臺名物九重、政岡豆、よし飴、鹽煎餅、松島織のハンカチーフ、味つけ海苔が出ました、母は私の誕生日におくりものする事を忘れはしませなむだ、そしてよく「煮た米をそのま、御馳走されます」と書いてやりましたので「味つけ海苔」をおくりこしたものと見えます、同級生諸姉からの小さくさいの目にきつた芋菓子と、そして政岡豆とです。

母も人も豆を送つて下さるとは「まめ」を祈る誠からせう、學友達は豆をおいしいとほめました、然し他のものは駄目でした、ことに味つけ海苔は「ペーパー」と呼び「よもや之れは食べるものではあるまい」と申しました、「いい、やたべるもの」とはどうしても私に云へませんでした、夫れ故折角おくつてもらつても賞味する折りがありませんでした、若しもみんなと一所の食堂内で、御飯に海苔なんかかけていたゞいたらそれこそ大ごと、ペーパーを食べる狂人と騒がれるでせう。

母の恵は母のめぐみとして、同級生の御恩の程はありがたいとも辱じけないとも眞實云ふべき

詞がありませんでした、思へば在學中は御迷惑許りおかけ申しました、卒業後はまた言語道斷の御無沙汰です、かう云ふ私をかくまで御親切にして下さるかと思へば只勿體もなう涙が出ます。

嘗て、私共が卒業の間際に一同集つて、別れむ後の事ども何かと規約を結びました、結婚祝には五圓、初産祝には三圓などと云ふのが主なるものでした、私は何時になつても此五圓も三圓も頂戴するには餘りに縁遠い者だと云ふ自覺を持つてゐました、夫れ故……でもありませんが一般の眞理として「ミス十年祭をして下さい」と一同に申し出ました、「夫れは何んの事ですか」と幹事は問ひかへしました、「妻ともならず母ともならず、職務一途に盡瘁して十年になつた時、祝つて下さいと云ふ意味です」と説明しました、二三の賛成者はあつた様でしたが、大部分は「それは必要がない、そんな縁起でもない人を我級より出さないやうにしませうよ」と直ちに否認されました、祝はなくなつて、妻となつた人や母となつた人の芽出たさは既定の問題です、しかるに女の細腕一つに重荷をか、へて、せちからひ世渡りする者をこそ、何とかせねばなるまいに、はてさて世はさかさまと感じたから、かう云ふ發議をしたのでした。

處で、留學の命を辱じけなうした時、當時の幹事藤尾夫人は「どうして上げませう」と本人の私に相談せられました、「三圓は入りませんよ、出産ちや無いから、五圓は猶以ていたゞきませぬ、

婚禮ちやございませんから、香奠の十圓、病氣見舞の十五圓、みんなお断り申します」とやりました、處が莫大な御祝儀を下さいました、りきんでは見たもの、お手厚うお祝を受けては却て濟まない氣がしました、然るに今またかう思ひがけない贈物をいたゞいては、重ね々のお厚恩心苦しう覺えました、けど年を繰れば卒業後丁度十年になります、「ありがたやミス十年の祭染料」あはれかくてミス十年祭は偶然にも實現されました、固よりさう云ふ意味でおくつて下さつたのではないのでせう、又誕生日の事も御存じなかつたでせう、しかも之れ等に對して重大なる意味を有するもの、如く折りも折り私の手に落ちましたのは、之れぞ皆様の誠があふる、證據、誠にありがたう御禮を申し上げます。

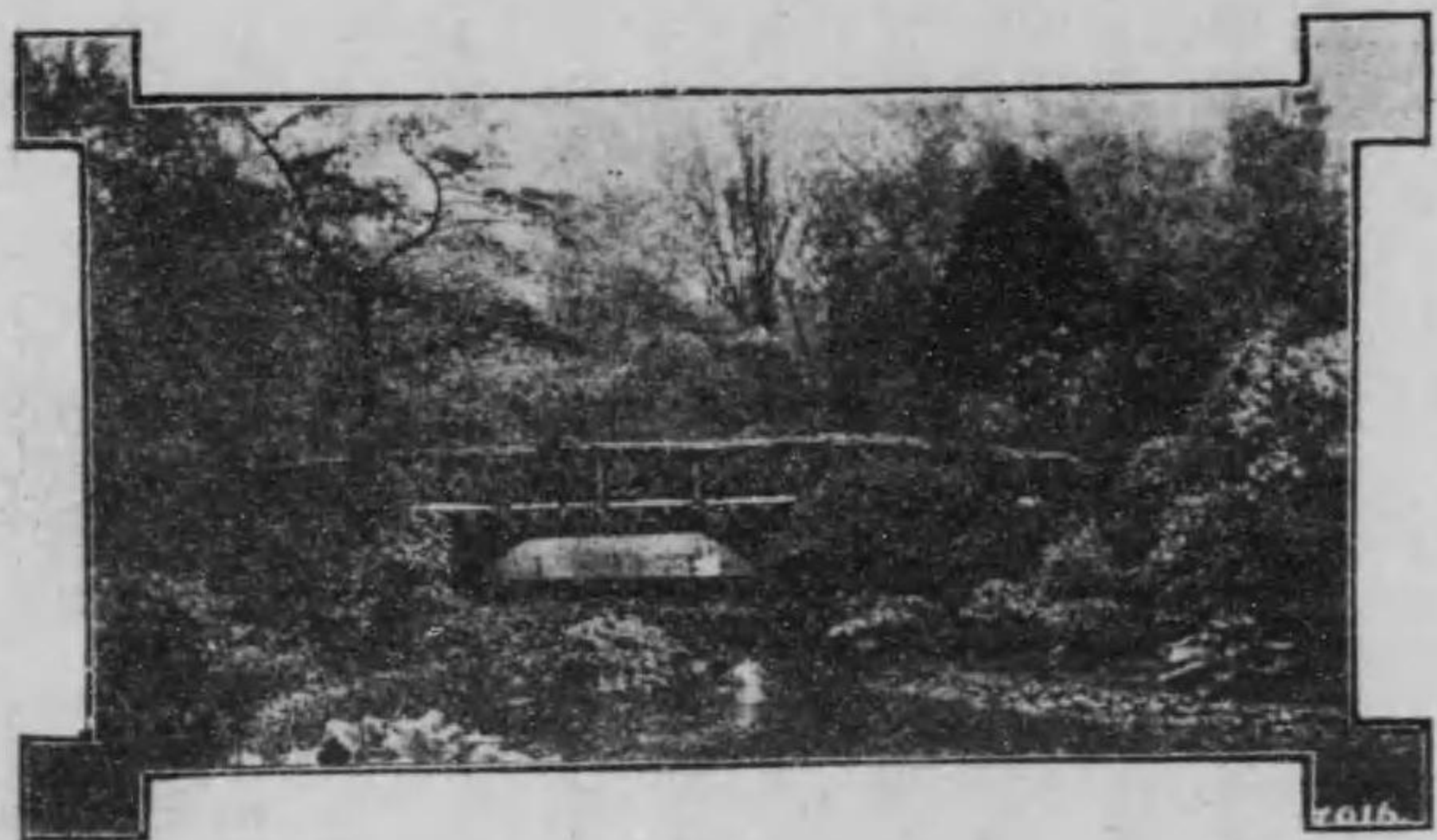
其二十五 見すて聞きすてならぬ事共

「今宵あなたは自分の室を成るたけ離れない様になさい」とある時ミスラザラから云はれました、はてどうした事だらうと怪しみながら、私はおとなしく室に居りました、すると、どうでせう、宵すぎと覺しき頃、何やら青い火の玉……人魂らしいものがスーッと私の方へやつて來ます、冬枯の淋しい森を出てしづがに低く飛んで……私は驚きました、思はず窓ぎはに立つて眺めました、

驚く勿れ、續いても一つ、またも一つ、いくつでも人魂があらはれます、之れは不思議とよく見れば、人魂には脚がありません、飛んでるのではなくてあるいて來るのです、手も見えます、顔もあります、ハハア之れは生徒達の提灯行列だなと思ひました、何時の間にもあこんな催しを獻立たのだらう、油断のならない人達、かう云ふものを見せやうとて私を部屋に押し込めたんだと、さつきからの不審が始めて氷解しました。

西洋人はどうもいたづら氣があります、何か人に對して事をやらうとする時は、出来るだけ技工を凝らし、不意を襲ひアツと云はせる様にします、私をだました舞踏會だつてさうです、ムリツツエ先生を義理笑ひさせた餘興だつてさうです之れぢや人のためにやるんだか、自分等のためにやるんだか分りませんよ、そりや私だつて舞踏會の時は散々樂しませら

倫敦パ  
スイーパ  
部の一  
川には  
鳥が浮  
魚が泳  
で居ま  
數寄を  
した木  
りの橋  
往きつ  
どりつ  
人しづ  
に散歩  
る人も  
ります



其二十五 見すて聞きすてならぬ事共

れました、しかしみんなは私以上に楽しみました、「だまされて感心してる實にかしい」と散々以上の興味を以て、云は、人をおもちやにした様なものです、ムリツツエ先生も同様です、美しい同情のおくりものを受ける前には、思ふ存分おもちやにされました、先生をおもちやにして得た皆の楽しみは大きなものでした、之れに對する料金ですもの、數多の小切手も實は禮云ふに及ばぬものです。

「今夜も亦何こそやるか分つたもんどちや無い」と用心しながら窓をあけ顔を出して見ました、八十人許りが一間位づ、間を隔て、一列になり、しづかに、行進して私の窓下に集まりました、何を始めるんだらうと氣づかつてるますと、やがて一同はクリスマスキャロルを五つ六つ唱ひました、高く低く太く細く實に美妙なる合唱です、うたひ終ると又一列になり行進を始め、花畑をめぐり、運動場を横ぎり、校地を一周して食堂にはいりました。

食堂には私も呼ばれました、そして「所感を」と一同から尋ねられました、「日本名物の提灯行列をこゝで見るのは大變に嬉しい事です」と云ふのが第一に述べた所感です、然しこゝの提灯行列は、日本のにくらべると大變に趣が違つてゐます、一言にして之を評すれば、日本のは陽でこゝのは陰ですと第二の所感を申しました、なぜ？ なぜ？ と一同はき、耳ひき立てました、「日

本では行列を行ふ人の大部分が非常な勢で、足が地につかない程に躍りあるきます、處があなた方は、穏な風に吹かれて波なき湖上を滑る帆かけ船のやうです、陰陽の比較何と無理ではありますまいがな、又あなた方はいさゝかのゆるぎも與へまいとして、戦々兢兢と提灯を捧けて居られました、日本では一寸の間も靜に持つてはるませぬ、提灯が柄から離れる程ふりまはします、又あなた方は口を閉ぢ足音をしのび恰も「哀の曲」に従ふ行列の様に行進されましたが、私共は樂隊ではやしなから一歩毎にうたをうたつて目出たいとも嬉しいとも云ひやうの無い行進をします、一體私共の提灯行列は嬉しくてたまらない時、たまらない嬉しさを形にあらはすためにやるのですから、萬事が其調子に行きます、ヤソの降誕は嬉しい事なんでせうが、どうしてあなた方はあんなに沈んでしまはれたのです」と今度は私の方から質問に及びました、「夫はしくじつた」「馬鹿を見た」と一同が口惜しがりました、なぜ？ なぜ？ と私はさつきみんなが私に云つた様に云ひました、「日本人はすべて靜な事を好むと聞いているので、わざと靜かであるいたんぢやありませんか、足音をひそめ、口を閉ぢ、大事に提灯を捧げて……あ、つまらない、あなたに日本のやうな提灯行列を不意に見せてほめてもらはふと思つたら此始末、實は私共だつてあんなのが大嫌ひ、躍つて、はやして、振つてあるきたいんです、これは大しくじり」とがっかりしました、

何時も人をおもちやにするから、たまにはかうした失敗を招いで、落膽するも薬でせうと私は思ひました、「もう一度やりなほし」と誰やらが叫びました、「あなたが先頭になつてみんなに模範を示しなさい」なんと云ふのもありました、衆議は忽ち一決して「やりなほさう」と云ふ事になり、やりました、今度は私が音頭とりになつて、桃太郎さんのところで先刻なじみの「ドンブリコッコスッコッコ」を一步毎にはやし立てました、そして學校を一周し終つた時、みんなは柄ばかりの提灯を持つて「今度はうまく出来た」と大した御自慢です。

米國からレオナルド博士が英國の體育界を視察に來られました、博士は夫人同伴三つになるお兒さへ連れて居られます、キングスフールド校では、米國斯界の大家にして且つ解剖生理専門の學者なる博士を迎ふべく、大々的の準備をやりました、何でも應接間なんかは今までの額がすつかりとりさられて、俄に米國畫家の油繪もしくは米國大家の肖像畫などに變りました、其他之に準じて何でも出来るだけ米國式の氣分を漂せました、一夜二日を博士は滞在せられて歴史ある學校のすべてを視察なさいました、そしてもうお歸りと云ふ時、「こゝで日本人のあなたにお目にかつた事を嬉しく存じます、私は嘗て米國に遊學した木内嬢を知つてゐます、あの方は大變に愛くるしい女學生でした、私は他日アフリカより日本の方へ旅行しやうと思つてゐますから、何

卒私を覚えて、下さい」と私に申されました。

此事あつて間もなく校長は「どうも日本男子は妻君に不親切だと思はれる、レオナルド博士の様な人は一人も日本人に見た事が無い」と云ひ出されました、私は聞き咎めました「だつてね、此學校にも之れまで、一人ならず日本男子が來られたけれども、誰れ一人レオナルド博士及其他の人々のやうに夫人を同伴せられた方は無い、二年三年と云ふ長い間妻に留守させて、自分一人外遊するなどは殘酷極まつた話、どうも日本男子はひどい」と云ふ事でした、「そりや解釋が違ひますよ、日本男子の海外留學は戰地に出征するやうなものです、いとしい妻にどうして戰地の憂き目を見せられませうぞ」と眞の所を詳に打あけました、「うそ、うそ、大うそ、戰地ぢや無い、面白い所だ、どうしても日本男子は妻に不親切也」と校長はきめてしまひました。

土曜の競技を見に學校へ來た婦人の一人が日本では方々に「女と夫とは入場を禁ず」と云ふ立札をしてあるときいたが、夫は眞實かと問はれました、「そんな事はありませぬ、尤も佛法の方で女人禁制は無いでも無いが、夫と女とはなんかと云ふ事は、絶対にございませぬ」と答へました、「さうでせうとも！　いくら何だつてね、餘りだと私は憤慨してゐたんですよ、只今事實で無いと伺つて胸がすき／＼致しました、實は私は女權擴張論者の一人です、希くはあなた方日本

婦人が一日も早く覺醒して、私共同様に女權擴張論を主唱されん事を切望します」と熱心に述べられました。

日本男子は智仁勇を兼ねた天晴の人間です、女權擴張論を叫ばねばならぬやうな憂き目を、女なんかに見せはしませぬ、ですから、私共は何時になつても、そんな論者には無らないでせうときつぱり云つてのけました。

或時また「日本人は何時になつたら、お箸をつかはないまでに發展するでせう」と之れも矢張り學校へ競技を見に来た田舎の婦人が申されました、「早くナイフやフォークで食事をする程度の文明の域に進みなさい、一體お箸なんかは原始時代のものですよ、歐米列強と肩を伍せんとする今日の日本人は先づかう云ふ事から改善せねばなりませんまい」と随分思ひきつた事を云はれました、しかし此婦人は、實に純朴な方で、衷心から云ふのだと云ふ事がよく分かりましたから、私は腹が立ちませんでした、けれども何處まで發展したつて、私共はお箸をすてやうとは思ひませぬ。

英國から日本へ來られてる一宣教師が、毎月の報告を其郷土の雜誌にもせられてゐるのを見ました、其八月號に「暑くなつて來ました、往來の人は皆扇子を手にしてゐます、即ち役人が役

所に通ふにも、兒童が學校へ行くにも、一步毎にあふいでゐます、あふぎなどを手にしてゐるものは樂隱居だと私は思つてゐます、此意味から申せば日本國民は皆樂隱居です」と言ふ一節がありました。

又其一節に「此間一日本男子がやつた説教中に、尤もだと思ふものがありますから、夫を一寸御紹介しませう、『日本國民獨特の精神教育を施すためとあつて、小學教師等の或者は兒童を率ゐて夫れ々のやしろに詣で禮拜をさせてゐます、いくら禮拜したつて社はものを云ひませぬ、又何の權能をも發揮しませぬ、あ、若し彼等にして此時をヤソ教會堂に過すならば説教をきく事が出来るであらう、聖書を讀む事を知るであらう、説教は人の靈にパンを與へます、聖書は能はざるなき神の權能にふれさせます、然るにあはれむべき哉、愚なる彼等は、得々として神社禮拜を行ひつゝ、あり』云々と云ふのです」とありました。ほんとに之れは日本人の口から出た言葉かしらと、私は疑ひました。

そりや社はものを云はないでせう、けれども尊い歴史は無言の教訓を垂れて下さいます、又社は今權能を使用されないかも知れませんが、嘗て大なる權能を以て世に處された方です、故にここに來て禮拜を行へば行ふそれだけ、日本人と云ふ魂の上に偉太なる教育をうけます、之れを彼

キリスト教會堂に行き、説教をきくのと同一に論じてはなりません。

### 其二十六 湖上の雁

クリスマスとて熱狂してゐる冬休の一ヶ月を、私は學校並に學友から離れて、一人しづかに暮らしたいと希望しました。

此の事情を打ちあけて宿の周旋を一人の學友に頼みきした。友はケント州スイドカップといふ田舎町のラモアパークホテルを紹介してくれました。こゝは丁度倫敦とキングスフールドと相對して三角形をなして居ります。

休の前日、何處でクリスマスするの？ と先生や友人方は問ひました、「きかないで下さい、私はしづかに暮らしたいんだから、」一點ばりで、こつそりラモアパークに馬車を驅りました。クリスマス休に勉強するといふ法があるものか、是非何處をこへ遊びに行きませう、芝居を見ませう、舞踏會に呼ばれませうなど、ひつきりなしにせがまる、群からうまく逃げた私はホテルの一室に會心のゑみをもたらしたのでした。

馬車で通つた六哩は牧場と畑とを横ぎつて走る里道でした、英國の田舎はそりや美しくござい

ラモアパークホテルで、右の大木は松です、左の端の低い建物は温室です私の最初の部屋は向つて右端なる二階の一室です



其二十六 湖上の雁

ます、此時私は急がぬ旅なれば馬をしづかにやつてもらつて窓から散々あたりを眺めました、かくてお茶前にはホテルに着きました。

ホテルはゴルフの競技場なる周圍六哩の芝原に立つ一軒屋でございませう。

曠野を前に望む建物の北の端が私の部屋です、盛に寒い風が吹きつけます、ガランとした部屋には何等暖室の用意がしてありません、尤もお金を入れ、ばストーブに燃やすべき瓦斯が出て来る装置にはなつてゐましたが、夫れにつけてもすぐに火鉢を持つて来る日本の宿屋をなつかしいと思はないわけには参りませんでした、しかし之れから一月此閑靜なところでやすめると思へば寒さはもの、數でもありません、知つた人は一人も無し、實に氣樂でいゝ、と思ひながら私は此夕香氣に食堂へ出ました、美しい部屋です、卓はそちこちに態よく並べられてあり



ます、私はいつて行つた時既に二三十人は真中の卓から西の方へズラリト着席してゐました。はいつて行つた私を「こ、へ」とボーイは指して入口わきの小さな卓に腰かけさせました、その卓上には花も何もございませぬ、形ばかりに食器が並べてあります、何だつて私はいかうした特別扱ひを受けねばならないんでせう、邦を出て茲に十有四月になりますが、未だ嘗つてこんな侮辱を受けたことはございませぬ、出人繁き入口の戸があけたてする毎に、私は背中から寒い風をあふられます、そして出来るだけ不親切なお給仕でみじめにたべさせられるのです、のみならず食堂中の人は悉く私を睨めてゐます、何のことやらわけが分りませぬ、「變な處へ来てしまつた今夜にも立つて行きたい」と思ひ煩ひました、けれどももう八時、パークの一軒屋から何處へ行かれませうぞ、兎も角も明日までの辛抱と心を据ゑて食事をいたゞき始めました。

すると、真中の卓から頑丈な身體のお爺さんが立つて、ヅカ／＼と私のそばに來られいきなり「日本の御婦人大に歓迎します、握手しませう」と手を出されました、私は實に驚きました、「なぜ握手をなさらないんです？ お國の風俗と衝突しますか？」とお爺さんは重ねて申されました、「國の風俗と衝突するしないそんな事は別問題です、しかし此場合、私はあなたの申出を拒絶します」と答へました、お爺さんはひどくテレテ席にかへりました。

此町には二人の學友が住んでゐます、又其處の番地もちやんと分つて居ります、けれどもどうしたら其處へ行けるのが方角さへ分りませぬ、あたりは既に眞暗な夜です、わざと落ちついた態度で食事はしたものの、心の中は大騒ぎに騒いでゐる事なれば、いたゞいたものがさつぱり落ちつきませぬ、妙にあけたい様な氣もします、遙なる彼方の鐵道線路の燈火三つ四つ窓ごしに見ゆるも得も云はぬ淋しさです。

「こ、は表面ホテルとは稱するもの、内實は盜賊の住家かも知れない、どうもあたりまへの所ぢや無い」と小説的な考が眞實私を捕虜にしてしまひました、そして明朝まで安全であればよいと云ふ事さへはかない願の様に思はれました、兎にも角にも部屋に鍵して休ませうと、入口の錠をおろせば鍵は利きませぬ、食事に出る時も、また食堂から歸つて來たつた今も、ちやんと利いた鍵が今の今はどうしても動きま

ホテルの  
人々と連  
れ立つて  
よく私が  
遊びに行  
つた公園



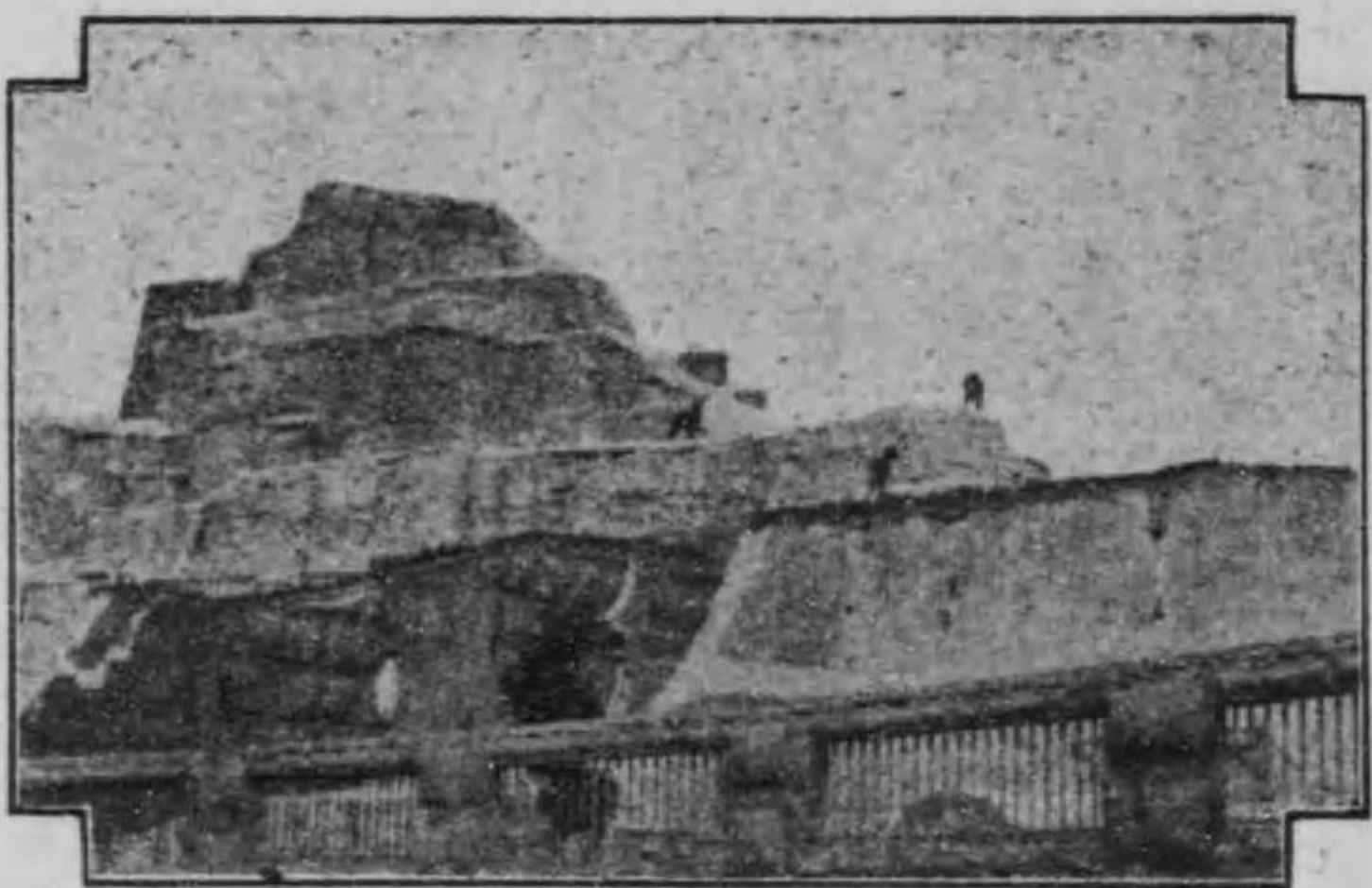
其二十六 湖上の雁

せぬ、これは何でも何か仕掛をしてあるに相違ないと思ひました、もうかうなつては騒ぐだけが馬鹿だと考へました、けど、ベルを鳴らして女中を呼びました、「どうしたんでせう、此錠は……」と詰りました、「へい……どうしたんですか」と女中は合點の行かない様子を見せ、自分で錠をかけやうとしました、いつかな錠は動きませぬ、「どうしたんでせう此錠は……」と今度は女中がつぶやいてみんなを呼びました、番頭も給仕も女中頭もやつて來ました、誰の手にも錠は駄目です「駄目な筈だ、自分等がかう仕掛をしておくんだもの」と私は心の中に憤りました。

何處の部屋でも皆こんな仕掛をしてあるに違ひないけど、此場合見す／＼黙過すべきにあらねば、「鍵の狂はない安全な部屋にかへてくれ」と申しました、すると「此ホテルは紳士淑女許り居らる、立派なところですよ、鍵がか、らなくたつてかまはないではありませんか」と、女中頭がプ／＼しました、「それはさうでも、あなた方の義務としては、旅客である私に鍵の利く部屋を與へるのが本當でせう」と私に云はれたので、返す言葉もなく彼方へ立ち去りました。

入りかにはいつて來た主人公は「部屋を替へて差し上げます」と申しました、早速私は別な室へ移つて錠をおろしました、然し胸の騒ぎはいや増すばかり恐ろしさと寒さとにガタ／＼ふるへ出しました。さて我れといふものさへどうなるか分らない場合荷物などの事はまるで念頭にあ

倫敦動物園人造山の一部分、す、氣持がよい程高く廣い山の頂上は鹿のおうちであります、峯をへだてて呼び交してゐる小鹿はゆかしいもの、限りです



りませぬ、實際盜賊の欲しいものは荷物に相違ない、其の欲しい荷物をやりさへしたら私を殺す様なことはあるまい、何んでも荷物は投げ出して彼等の欲する儘にするのが、此際のかしこい計略と心得ました、それ故わざと、大きな包は錠のか、らない部屋に

残して、身一つを錠の中に立こもつたのでした、荷物の中にはお茶の水の先生方から御饒別に頂いた立派な銀時計、ミスアルウキンから送られた寶玉入り貴金屬のえり止め、安井先生、岡田先生に御配慮を頂いた寶石入りのえり止め、長沼家から送られた紋羽二重の紋つき、石川高女東京支部同窓會から頂いた縮緬の紋つき、同級會から頂いた丸帯、さては安井先生から賜つた洋服類の数々、又小此木姉から下さつたレーンコートを始め種々の洋装附屬品、それにパーマーさんに見て頂いて買ったものや、藤尾氏から送られたブローチなど數へ上ぐれば人のなさけの賜が可なりに澤山ございます、それに英國で求めた歐米の體操書籍を隨

分どつさり持つてゐました、別しては五百圓あまりの銀行通帳が入れてあります、私は之れ等の

品物のために今夜命をとられるかも知れない、財は仇なりと熟々歎きました。

あたりは彌やが上にもしんとして只時々曠野にうなる木枯が興奮した神經に猶一層の刺戟を與へます、「もう夜明け頃」かと時計を見ればやつと十時を過ぎた許りです、あ、今頃は友人等が定めし家庭の人となつて時の過ぎゆくを惜みつ、團居して居らる、であらう、先生方も亦歸省せられては、大きな赤ん坊に立ち歸つて、どんなにか騒いで居らる、事でせう、しかるに私一人は此有様、之れと申すもみんなの勧めに背いて自分勝手な行動をとつた報いであるとした、か胸にこたへました、かうして何事かあつたら私は實際邦に申譯が立たないと悶えました、頭がガン／＼なつて割れる様に痛みます、ぬれた手拭で鉢巻をしませうと考へ、窓際なる洗面臺の前に行つてタオルをしぼりました、きりつと結び少し工合がい、やうです、一寸窓かけをまくつて曠野を見やりました、之れは不思議、線路のあたりが三つ四つしか見えない闇の中を、イルミネーションに輝く馬車らしいものがやつて來ます、學校の窓から人魂を眺めた時以上に私は驚きました、其怪物がや、近づいた時、妙なる樂が其中から起りました、……あ、其樂はクリスマスキャロルです、やがてホテルの前にとまつたのを見れば、大きな馬車に澤山の花電燈をしつらへ、中に男女八人の唱歌隊と二人の樂手とが乗つてゐます、ハハア之れは慈善唱歌隊だと氣が付きました、

「クリスマス近くになると慈善家が合唱隊を組織して、多くは淋しい夜分に、孤兒院、監獄、病院、養老院、ホテル、さては病める人の家などを訪問してうたつてあるきますよ」と此間學校で提灯行列があつた時、友人方から聞かされた事を思ひ出して、うれしくも茲に夫れを見得るもの哉と急に元氣がつかしました、樂は私の角張つた心をして嗚咽させる程やさしいものでした。

合唱隊が二十分許りうたつて立ち去る時、ホテルの人達二三十人はごろ／＼と馬車について出かけました、多分馬車の一行と一所になつて方々を唱ひめぐるのでせう、「茲は盜賊の住家では無いらしい」と私は始めて安けき心地ができました、でも實際鍵の怪事あり、食堂の無禮あり、容易に安心は出來ないと更に鉢巻をし直しました。

翌朝目がさめて、恙なく自分が寢床の上にある事を自覺した時、私は大自然に心からの御禮を申しました、猶此後の安全について祈れば、忽ち心に響く言あり、「安全を希はゞ大自然と共にあるべし、若し大自然よりはなれ、かよわき自分一つの力に生くる時は不安忽ち至るべし、なぜ昨々大自然に其身を委ねなかつた、實にも汝は昨々全く大自然を忘れ、而していと／＼小さき自分の力にのみ之れ生きたり、故に身も世もあらぬ憂を覺えたるなり、あ、信仰薄きものよ」私は目をつぶり或は青くなり或は赤くなつて心の聲に耳傾けました。





豪傑肌なる膽力とは、先生を駈りて英國に渡らせたのです。

當時英國はドイツ式體操に専ら信頼して、スキーデン式體操の何ものたるを知らず、従つて教師は男子に限つたものと考へて居ました、此時に當つてはミスバックマンは

一、よりよいスキーデン式體操を英國に紹介せねばならぬ。

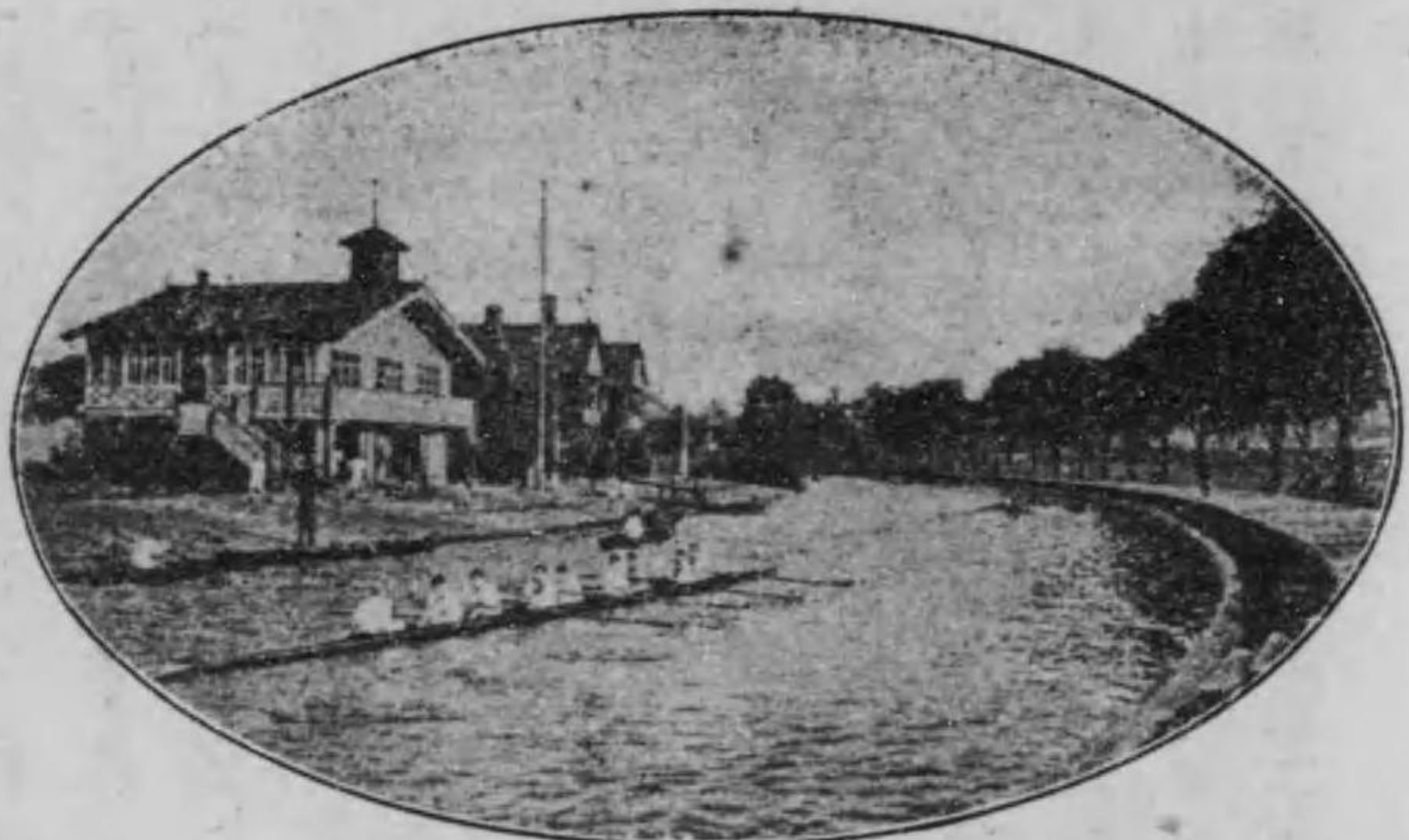
二、體操は人間を保護愛育すべきものなれば、天性保護愛育をよくする女子が、體操教師として最もふさはしいものだと言ふ事を、英國教育界に知らせねばならぬ。

三、職業の人となつて、獨立自營せねばならぬ英國婦人に、體操教師と云ふ最も幸福なる職業を與へたい。

と云ふ數々の望を懷いて渡英されました、かくて英國文部省に向つて體操科の改善を説き、女體操教師の必要を論じ、而して體操専門學校設立の急務なるを説けられました、文部省では「至極御尤も」と賛成はしましたが、何等の助力をも與へませぬ、夫れでもバックマンは絶望する事なく、百方努力を試みしたのでさる慈善家の感ずる所となり、千圓を貸與されました。

此金を以てロンドンに寓をかまへ、塾を開いて生徒を募りました、應ずる者はございませぬ、バックマンは更に奮勵を加へ、市内の戸別訪問をして生徒の勧誘をやり、やうやく三人を得まし

カムブリ  
ツチのボ  
ート練習  
です、マ  
ダムはケ  
ムブリッ  
チ黨でし  
た、私は  
恩人がホ  
ックスフ  
ホードに  
居られま  
したので  
此點では  
マダムの  
敵でした



其二十七 英國體操界の女王

た、夫れも在學中の費用は一切生徒に負擔させずと云ふ條件で、つまり二年間三人をもらひ受けた様なものです、此三人を生徒としてバックマンは大事業の礎を堅められました。

處で千圓をもとで三人の生徒をあづかつて教育を施すのですから、忽ち資金が無くなりました、誰も助け手がありませぬ、そこでバックマンは方々の學校へ頼んで、教師の缺員などの補缺につかつてもらひ、又はホテルをまはつてマツサージを施したりして僅ばかりの資料を得、千辛萬苦を嘗めて猶よく此事業を支へました、しかも感心な事は、内幕の困窮を少しも、三人の生徒には知らせなかつた事です、しかし三人の生徒は、朝から夜までせち辛くはたらいてるバックマンを見て内幕の苦しさを察しない識には參りませんでした、そこで三人は色々相談して金の工面をし、或時百圓許りバックマンに差し出しました、するとバックマンは「生徒をし

て學ぶべき本分を忘れさせ、而してわがためにこんな金を工面させるとは何たる己の不徳不能ぞや」と大變に悲歎せられました。そこで生徒等は、大變に申譯なく思ひ、其日の中に其金は銘々元へもどした相です。「國家の爲め」と云ふ事に言をかり、生徒を裸にしてまでも金をまき上げる様な偽善者が若し此世にあらば、よろしくバックマンに學んで改心する所あらねばなりません。

此時のバックマンは、一方に生徒教養の大任を負ひ、又一方には英教育界に活躍を行ひ、而してまた一方には物質を得べくはたらかねばなりません。而かもドイツ式體操教師が、バックマンの活動に非常な妨害もし、迫害も加へました。或時などは、之等の人の中傷により、折角頼みとして居た小學校の職を急に解かれました。途方にくれて歸宅する途中、バックマンは路で倒れた相です。警官の肩にひつかけられ歸宅しましたが、五十錢しか財布にない事を思ひ出した時、ガバと起きて、さるホテルへ例の如くマツサージャーに出かけました。すると此晩には偶然にも非常な慈善家と知己になり、「一萬圓を事業のために出してやらう」と云はれた相です。「若しも私があの時病苦にまけてホテルへ出かけなかつたら、あ、した慶福は得られなかつたんです。此慈善家は北部英國の富豪の未亡人で、一ヶ月の倫敦滞在を終へて明日は歸るところなのでした。危機一髪とは眞に此事、私は此慶福を思ふ毎に神様と慈善家とに御禮を申さずには居れませぬ」。

と、晩年校長が直接私に仰せられました。私が留學した頃キングスフールドの教師、生徒、卒業生は申すに及ばず、誰でも、校長の苦心談を一冊に綴つて公にしていたゞきたいと願ひました。が、「そんなに價値のあるものではない」と校長は打ち消して、決して書かうとはせられませんでした。只氣の向いた時、「今晚は昔話をして上げやう」とて、みんなを客間に呼び、あかりを消して眞暗にした上で、しづかに語り出だされるのでした。流石の女丈夫も當年の辛酸が、ひし／＼と胸にせまるかして、ところ／＼は嗚咽して、よう聞きとれぬ事もありました。固より断片のお話ですから、ほんの一部に過ぎませぬ。況んや私は聞きあやまりが無いとも限りませぬ。然しこゝに掲げた大略は、悉く私の直接に伺つた話の間違ないところです。

最初の卒業生の三人が世に出るや否や、非常な好評を博しました。天は正しきに與みます。人は優れたるに誠をよめます。よりよき體操の紹介を生命と心得女體操教師の眞價發揮を任務として活動し出した三人は、同時に頗る幸福なる職業の人となり得て、立派に獨立自營が出来、人に羨まる、身の上となりました。

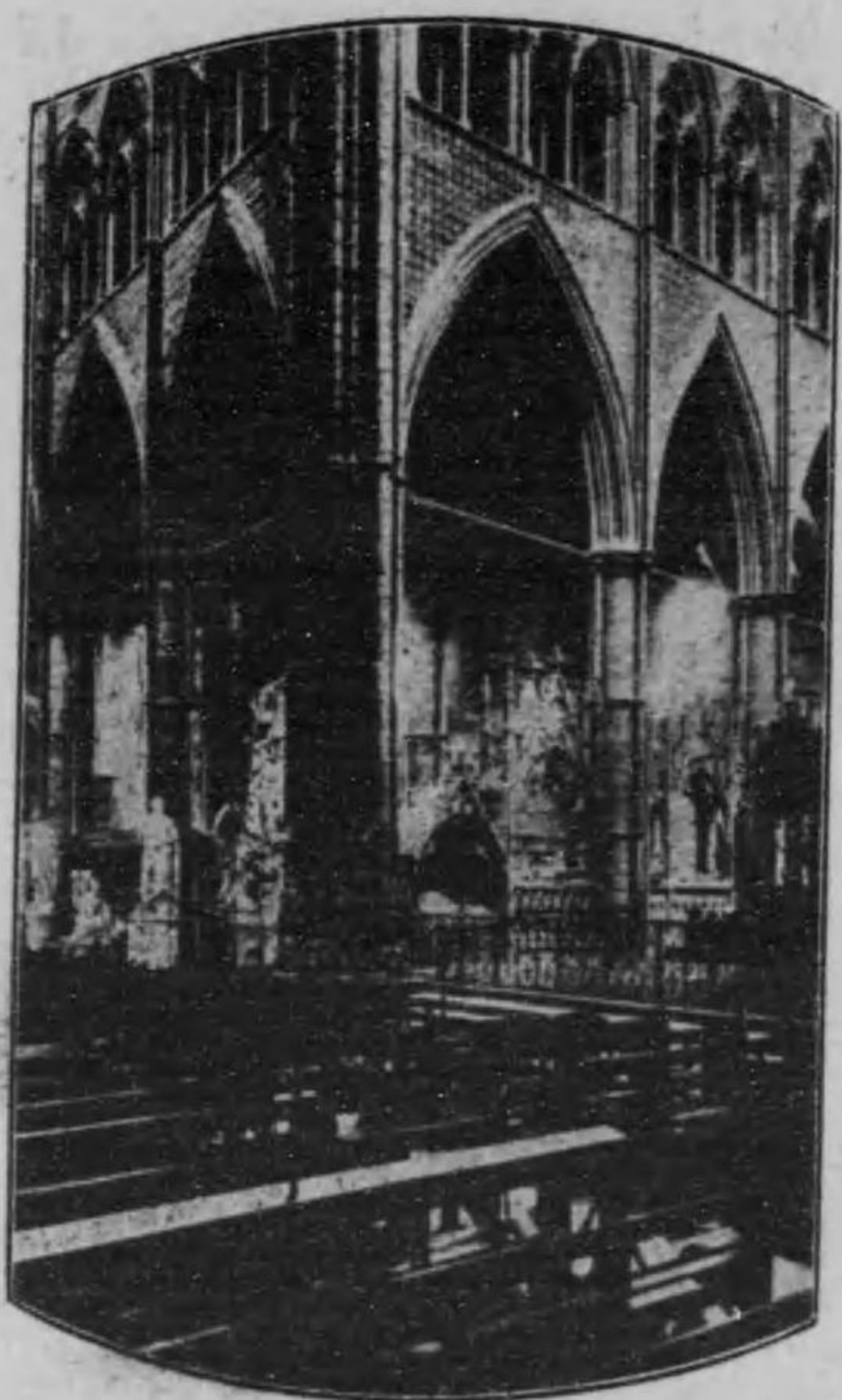
茲に於いてか我れも／＼と入學を志すものが出来、つひに寄宿料を出させ、月謝を收めさせて生徒を教養し得る様な學校らしい學校にまで漕ぎつけました。かうなつては必然バックマンの事

業が發展せざるを得ませぬ、かくて十數年を経た時、望月のかけたる事もなき黄金時代に達し、校地をケント州に卜して一大體専校を設けられました、之れより先きバックマンは長らく許嫁の間柄であつたスキーデンのさる専門學校教授なる博言博士オスタバック氏と婚禮せられました、實に英國體操界の目鼻をつけたものはミスバックマンで其全盛時代の權威にはこつたものはマダムオスタバックです。

マダムは部下の職員を最初全部スキーデンから招聘せられました、しかし追々にはなるたけスキーデン人を減らして英人をあぐる策を立てられました、ケント州に移つてからマダムは自ら生徒の教授には當れない程大きな事務に忙殺されねばなりません、即ち斯界のオーソリティーとして何處の學校、かしの會と招かれて講演をしたり、相談にあづかつたり、又は文部の役人陸海軍の人々と會見したり、さては客足繁きキングスフールドの應接間に名校長の腕前を示したり、其他種々なる内外公私の仕事が絶えずマダムを圍繞して居りました。

此頃から英國教育界では體操にはスキーデン式を採用すべく規定せられ、陸海軍亦スキーデン式採川と決定しました、之れ一にマダムオスタバックの異數なる努力と貢獻とに依るものであります。

世界に名高い倫敦のウエストミンスデー寺院の禮拜席です、マダムはここが大變すきてした



私が留學した時のマダムは、既に千人に餘る女學生を取り扱つたと申されてゐました、そして天晴れ功成り名遂けて、めでた芽でたのめでたい生涯、人はマダムをキングスフールドのヴィクトーリヤ女王と呼んでゐました、私はかねてマダムのえらい事を伺つて、ほゞ其邊は承知して居りましたが、愈々御目にかゝりましたら思つたよりもはるかにえらい方でした、女丈夫とも、事務家とも、交際家とも、さては嚴父とも慈母とも、又は教育家とも體操家とも云ふべき一身萬能の色彩を備へて居られました、宜なる哉永井先生御視察の折、「此人こそは」と目星をつけられたる！そして不肖私に、「キングスフールドへ」と仰せ下されたる！マダムは、永井先生をスキーデンなまりの英語でいつでも「ヤバニスボーイ」と息子の様に呼んで居るはなつかしがり「あの方が日本の體育界を支配してゐるんだから、誠に結構だ」と喜んで居られました、又「ヤバニスガールが歸つた



ら、こゝにちなみを持つたクキーンスフヒールド専門學校を建てるやうに祈ります、夫れには及ばずながら盡力ませう」と常に私に申されました。

私がかゝる名校長に薰陶さるべく、御配慮を給つた永井先生の御恩は、深く私の肝銘してゐる次第でございます。

晩年マダムは、歳のうちを幾度か瑞典と英國とに往來せられました、冬はストックホルムの家に楽しいクリスマスと新年とをすごされ、イースター頃からキングスフヒールドで咲き匂ふ花の世界に埋もれ、夏はまたスキーデンへゆかれそして十月の新學年と共に再び歸校せらるゝのがほゞ定つた年中行事で、此外臨時の事件にちよい／＼行つたり來たりせられました。學校に對するマダムは、大權を握るクキーンのやう、教師方は其旨に依つて政をしく各大臣のやうです、そして大權掌握者が居つても居られなくても、校務は見事に運轉されました、でも私は「マダムが始終居られたら……」と折々痛切に悲みました。

マダムには御子がありません、其れ故晩年は随分と學校の處分について苦心をせられた様です、かくてつひに英國政府に獻上を願ひ出でられました、英國邊では個人々々の經營に任せて、自由に發展させる方が結構とあつて、成るだけ文部省が直接の經營をやりたくないのだ相です、そこで

此獻上は普通なら歓迎されないものでせうが、何にせ永く歴史に遺るべき大功勞者ですから、其晩年により大なる光榮と安心とを與へんため、莫大な下賜金を下された上、學校を嘉納する事に内定せられました、之れは私が參つた早々決定の運びになつたのです。

英國に向つてかゝる大獻上をせられたマダムは、母國にも亦大きなものを捧けられました、即ち私がラモアバーバイクホテルに湖上の雁を眺めてゐる頃、瑞典國の南部に所有して居られた果樹園内に、果樹園藝女學校を設立して、政府へ獻上せられたのです、瑞典は英國とは趣を異にして重きをなす學校は、悉く政府の所有だ相です。さて今より百年前、瑞典に一人の女丈夫がありました、此方は「海がほしいときりに牙をならしてゐる猛獸を、鼻の尖きに控へてゐる瑞典は、須らく富國強兵策を講ぜねばならぬ」と主張せられました、そして「富國強兵の策は婦人の活動が先きに立たねばならぬ、我が邦婦人はよろしく果樹園藝を勵んで國産を作るべし」としきりに女子を激勵せられました、けれども當時此熱誠を了解する女子は無かつた相です、従つて、立つて果樹園藝に従事した者はありませんでした。

處が百年後の今日に至つて、瑞典女子は痛切に此女丈夫の忠言を了解する様になりました、かくて續々此方面に活動が創始せられた由です、此場合に、マダムが果樹園藝學校を創立して政府

に献上せられたるは、政府並に國民の大に感謝する處でございませう。

マダムも實に愛國の女丈夫でした、百年前のその女丈夫に劣りはせぬだらうと私は思ひます、折り／＼私をお部屋に呼ばれてよくさう云ふ方面の事を話されました、いつぞやも「私の國は早晩あなたの國の轍をふむに違ひない、海を欲しがつてゐる猛獸は、忠勇義烈なるあなたの國に依つて東方へ其威を逞しくする事が出来なくなつた、夫れ故、今度目ざす處は私の國より外に無いのです、さあ其時私共はあなた方のやうに忠勇義烈であらねばなりません、而して私が訓育した千人の女體操教師に同情をしてもらはねばならないのです、私が英國にかう渾身の貢獻をした理由がかしこいあなたにはよく分るでせう、けれどもこの人々はそんな事には實は冷淡です、只與に語るに足るものは日本女子たるあなたです」など、しみ／＼云はれました。

マダムは實に乃木式の方でした、無一文で立つた私は無一文で終らねばならぬ、又私の仕事は私一代できちんと終りをつけねばならぬ、と始終云つて居られました、其通り決行せられました、然し悲しい事には、歐洲大亂となつたので、英政府はキングスフィールド嘉納を延期しました、好事魔多し噫！ 延期中にマダムは永眠しました、マダムは立派な友達を英國に大勢持つて居られました、嘗て日本に來られた事のあるミスヒュースも其一人でした、エデンバラ―醫科大學最

初の卒業生であり、且つ心理學者であるミセスマヤースも其一人です。

七十に近いマダムは五十には未だ間があると人からは見上げられました、あんまり美しいので方々の學校へ出かせぎして居られた頃、よく少女等に見とれられた相です。

休み中にいきなり學校へころけ込んだ私は、早速マダムの電報で歓迎され、來賓用のバルコニー室を與へられました、壁にしつらへた美しいストープ、窓を飾つた桃色絹のカーテン、額にかけたターナーの畫、寢臺も洗面臺も書棚も衣服戸棚もみんなお姫様のお道具のやうに立派なものでした、前は三間四方のバルコニーで、右には、ウキルミングトンチャーチを望み、左ははるかにはイーストセルの丘に對してゐました、此室は最初私がニルソンに案内された御部屋と背合せになつてゐます、こゝは生徒からも教師からもはなれた一人天下のバラダイスでした、消燈後のバルコニーで幾度私は星の夜を仰いだでせう、月の夜は況して！ かくて月にうかれた田舎の若者とも覺しき者が、大勢連れ立ちうたを唱つてウキルミングトンの里道をおもくも見ました、夜のお葬式の哀歌も聞きました、けた、ましくなき渡る鳥のこゑ／＼も耳にしました。

土曜日曜の夕方は、二哩先の音楽堂で催す樂隊の樂の音が、かすかに聞えても來ました、風の向きに依つては手にとるやうな時もありました、又學校わきを流してゆく門つけのストリート

オーガンもよく聞きました。

英國ではかう云ふ學校の常として生徒は寢床を始末する外は何もしませぬ、銘々一づ、持つて自分の部屋の掃除は勿論、洗面臺の整頓、手洗水の持ち運び、一切萬事は女中がやつてくれます、靴は下男がみがきます、洗濯はすべて袋に入れて洗濯屋にやります、ですから學生は學問専門になれます、夫れにする事爲す事素早いでせう、だから英國の女學生は勉強にも遊ぶにも時間がたつぷりございます。

教授法練習のため、生徒はこゝら近所の學校へ自轉車で出張教授をやるのでした、私はよく其教授を見に参りました、日本人の私は自轉車には乗れませぬと云つてゐましたけれど、夫れでは自然馬車にでも乗らねば間に合はぬ事になり、とうとう乗らせられてしまひました、自轉車は實に此學校生徒の持たねばならぬ道具の一でした。學校では大抵毎日お茶の後から夜分迄、外來有志者のために無月謝教授の組を設けてあります、午後に来るのは、孤兒院の兒童や貧民の子女、若しくは學齡前の幼兒などで、夜分に見えるのが青年連でした、之れ等は悉く教生の實地練習材料にされるのです、午後の組はまあ子供等ですから、格別の事では無いとしても、夜分の青年組は若い女學生の手にあまりはすまいかと思つたは、日本人の私の考、子供等よりもはるかに教へ

英國青年團のフットボール競争の有様です、此競技者中の一人がキングスフールド夜學部の生徒です



其二十七 英國體操界の女王

よいんです、流石は婦人を馬鹿にする事を紳士の恥と堅く心得てる國柄として、この生徒にして此の教師あり、妙齡の女子を教師と仰ぐ青年連は、實に眞面白です、青年連に教ふる妙齡の女子も亦チャヌダークの様にしつかりしてゐます、此男子にして此女子あり、兩々感歎に堪へませぬ。英國に不思議な事は、男子の體操専門學校の無い事です、従つて男子の體操教師は實にまれです、尤もチャンピオンは甚だ多うござりますが、ヂムナストと呼ばれるべき男子は、まあ減多にありませぬ、一體英國の教育界では、ヂムナステックと稱するもの即ち私共が致して居りますやうなスキーデン式教育體操は、小學校きりです、夫れから上は主として競技になります、競技教師にはチャンピオンがなります、さてヂムナステックは保護愛育を目的とするものなれば、従つて此任に當るものは天性保護愛育の旨にかなふ婦人が最も適切なりと考へられて

りますので、此方面に男子が持てないのかもしれない。夫れ故男子も亦單に己の體育のために體操をやるので、體操を職業として己を獻身するには餘りに不適當だと考へて居ります。

さはれマダムオスタバツクのやうな大體育家が男子側に若しあつたら、屹度英國には男子の體專校の立派なのが設立せられ、そして立派な男子體操家が出来たであらう、然るにさうは無くして斯界の權悉く女子の專有に歸したのは、之れ全くマダムオスタバツクの様な偉材が男子側に無かつたからだ、英國の或識者は話して居ました、一面に於いて之れも眞理でせうけれども、子を育てるに不適當な男子よりも、子を育てるに適當した女子が、ヂムナストとしてはより適任者である事が、何よりの原因かと私は思ひます。

マダムの妹婿なるブローマン氏は、倫敦に男子の體專校を持つて居られましたが、其處の生徒は漸く十人あるか無しです、そして其十人も或はづぬけて背の高い人だの、豆男だの、青い顔の者や、瘡せたおぢいさん達ですから、誰一人、之は立派なヂムナストになれるだらうと見られる者はありませんでした、何にもならぬす據どころ無く體操教師に……と云つた様な鹽梅、氣の毒で見て居られませんでした。

私が留學致しました二度目のイースターの頃、何處からともなく白い鳩が一羽キングスフヒー

ルドに飛んで来て體操場の窓にとまりました、人が近よれば屋根に飛び、人が去ればまた窓のところに來てゐます、禽獸を事の外可愛がる首席は、翌日鳩のお家を體操場のそばにこしらへてやりました、鳩は喜んで之れにはいりました、すると五六日經て更に一羽來ました、其また五六日經たころにも一羽、其翌日又々一羽が參り、都合四羽になりました、そこで學校では始めから順に四月五月六月七月と命名しました、間も無くマダムが歸校せられ、此事をきいて大變に喜ばれました、珍客、福の神、吉兆、祥瑞と更に命じかへられました、之れから首席と校長とは毎日鳩を掌にのせたり、手から餌をやつたりして樂まれました。私もかう云ふものが好きです、よく舞踏の課業が濟むと、體操室から鳩のお家に行つて見ました、すると時々六月がま、子にされてゐます、或みぞれ降る晩などは、ひとりしよんぼりと體操場の窓にとまつてゐました、私は夫れをそつとふところの中に入れて部屋へ連れて來ました、之れから六月が大變私になれました。

首席は六月がかう他の三羽から嫌はれるのは、白い羽色が薄黒いまでに汚くなつてゐるからだ、と主唱して、私に六月をつかまへさせ、自分は海綿に石鹼つけて入念に羽を洗つてやりました、よく私になれてゐた六月も、之れにはびつくりしたと見え、目をバチクリしながらしきりとふるへてゐます、おかげで大變綺麗になりました、けどやつぱり除け者にされます、其上首席や私にも近

マダムの部下がスキーデーンより歸校せらるゝマダムを停車場に迎へんとして自轉車にて出かけるところでした



よらなくなりひどく怖けた二三日を過した後何處かへとんで行きました、いくら待つても歸つて來ませぬ。之れから間もなく休になりました、其折り校長はみんなに「六月のやうに行き、りになつてはいけない、學期早々機嫌克くかへり來よ」と戲談を云はれました、しかし此戲談が私には眞となり此時限りキングスフールドを出ました。「二年間英國に留學す」と聞いたマダムは、二年間キングスフールドに在學するものと呑み込まれました、そして二年居ないのなら入學を許可するのでは無かつた、一旦入學をした以上「どうでもかうでも二年は居らねばならぬ」とと嚴命されました、それもこれもマダムは私をよく教育せんとの厚き志からして、規定通り私をとまらせたのでせう、私はありがたさに肝銘いたしました、さてさうは出來ませぬ、と云つてマダムの意に背く事もならず進退谷まりあれやこれ

世界に名高い倫敦市セントポールの寺院ですマダムは度々この禮拜に出られました



やと非常に心配致しましたので、私はとうとう神経衰弱にかゝり、不眠症に陥りました。

豫定によれば、一年はキングスフールドに、半年は英國内巡歴、半年は歐洲大陸視察、半年はスキーデーンに學び、歸路は米國めぐりと云ふのでした、ところが一年半をキングスフールドに過してしまひました、即ち四學期を教育せられたわけになります、こゝは固より斯界に於ける無盡藏の寶の山、何處まで行つても拾ふべき寶は盡きませぬ、況して不肖の私が一年半位居たとて、拾ひ得た寶は誠に少うございませぬ、どうしてももつと居つて、もつと拾はねばなりませんのです、けれども思に任せぬ運命、我が身で我が身ならぬ私は、どうする事も出來ませぬ、只管マダムに願つて寛大な處置を仰ぎ、とうとう出していただきました、さはれ「スキーデーンに行つたら復半年はマダムと一所にくらされる」と思つて之れをたのしみに私は出たのです、夫れに又よしんばこゝを出て

も、未だしばらくは英國にゐる事故、懐しくなつたら、ちよいと歸つて來られる、なにほんとの別れぢやありませんと強ひて恩師親友の前では、忍みました。

ところが間もなく大戦勃發、私の豫定はすつかり覆されました、倫敦よりパリへ約二十圓、パリよりベルリンへ約二十九圓、ベルリンよりコペンハーゲンへ約十五圓、コペンハーゲンよりストックホルムへ約十二圓、ストックホルムより倫敦へ約四十八圓、ロンドンよりニューヨークへ約二十圓、ニューヨークより桑港へ約百六十圓と云ふ汽車汽船の二等賃金をしらべて、さあ之れからだと思つた時、幸？ 不幸？ 私は戦争にあひました、既に文部省から賜はつた旅費を眺めて恨めしう思惑ひました。

戦前歸國せられたマダムは北海があぶなくて此後スウェーデンを出られなくなりました、私も亦同様英國から出られないのです、かくて相見ぬ事約一年の後、私は突然電報で邦から呼びもどされました、私はすぐ様歸路につきました。

一別以來つひに再會の期なく、かくてあつけない別れを致しました、残念とも無念とも、つらことも悲しいとも、申すべき言葉がございませぬ、實にこんな憂き目を見るならば留學生なんかにはなるもんぢや無いと泣きました、殊にはカナダの國へも立ち寄れぬ悲しさに慟哭しました。

私が歸朝した二月日マダムはあはれ……あはれ……永の眠りにつかれました！ あ、……あ、……あ、……私が無事に歸國したしらせも御覽ならない中に！ あ、……あ、……あ、……！

さはれマダム！ 何れは誰もゆくところ、やがて私も参ります、かくて哀別離愁の無い世界で永久の御對面を致しませう、其折にこそは永久に御薫陶下さいませ！

夫れにつけても私は、クエーンズフェールド體専校を、日本に設立せねばなりません、之れをみやげに、マダム、私もぢきにゆきます、待つて下さい。

### 其二十八 女らしい體操

私がマダムオスタバツクの學校を出て、次ぎに入學したのは倫敦市サウスウエースタンポリテクニクの體操専門學校です、此處の校長は、大變にわけの分つた度量のひろい方でした、そして思ひやりのい、融通の利く頭を持つて居られました、ですから、私に對しても、一方では馬車馬流に自分の學校の事を勉強させると共に、他の一方では種々の便宜を與へて、廣く世間の状態や他の學校の有様なんかを見聞させました、夫れにこゝでは必ず寄宿せねばならぬと云ふ規定ではありませんでしたから、私はさる婦人クラブへ寄宿して通學しました、丁度クラブから學校ま

體操專門  
學校生徒  
の學科の  
一なる英  
國民族舞  
踏の一節



足掛四年

二二〇

で、都合のいい、乗り合ひ自動車が三四分毎に通つてゐました、私は朝夕之れに乗つて市街の光景なども眺めました。

車にあるのは僅に十分足らずですが、賑かな街をいくつも通りますので、楽しみにして眺めました、しかし二三ヶ月後にはなれて何とも思はず、たまにはうつかりして乗り越す事もありました、追々車掌と顔なじみになつてからは、特に注意されて乗り越しの厄を免れる事もありました。

此體専校は三年制度です、教師は皆一流のよりぬき、即ち醫療體操には名高い婦人ドクトル、教育體操にはデンマルク婦人のミスアンダーソン及び英人ミスラフハエルの兩人、競技にはチャンピオン英人スインキラー、水泳には同ミスエデス、舞踏には又二名の名手と云ふ顔ぶれ、そして五十をこした校長フロイラインヴィルケの外は、何れもわかい方許りです。

教官室に此先生方がずらりと竝んで居らる、様子は、實に花盛りの

花畑を見る様な感じがしました、どうしてかうまで立派な先生方を揃へたんだらうと怪まれました。

キングスフヒールドよりも宏大なる體操場を持つて居ました、しかし混雜する倫敦市内の集合専門學校の一部に割據してゐる事ですから、廣い校地も運動場も、森も、花畑も何もございませぬ、只教室が五つ六つと、二つの體操場とがあるだけです、ですから、此點から申せば體操専門學校としては甚だ不完全なものに相違ありませぬ、けれども其教室や體操場内の比類なき充實に依つて此缺點は餘り目立ちませぬ。

弘法筆を選まずとやら、此立派な教師方は、形式上不完全なる體操學校に於いて、天晴な仕事をして居られました、そして競技のためには、徒歩で六七分を要する公立チエルセバークを利用し、水泳は矢張りこの公立水泳場で行ふのでした、又有志者のために設けられた寄宿舎は、魚鱗櫛比の人家の間に一棟ございまして、二十四五名が一名の舎監と共に非常に幸福にくらして居りました。

何に一つ不足はないと思つたキングスフヒールド校に、只一つ缺けたるものは實に水の利でした、どんなに金を出したつて水泳場は、出来なかつたのです、尤も二哩先のダアートフホード市

には可なりの水泳場が一つございましたが、市民で以て何時も大繁昌、到底體専校の役には立ちませんでしたが、マダムは晩年此事を苦にして色々と計畫せられました、けれども、どうする事も出来ませんでした、私の轉校したのは實は水泳を學びたかつたからです。

水泳だけと豫定して来て見ますと、さてこれも手を出さずには居れない程有益な教科でした、一步毎に栗の實を拾つて狂喜する子供のやう、私は一時間毎に熱中の度を増しました。

ミスラフハエルの授業は、實に女らしい上品な而して面白いものでした、たとへば咲きほこる海棠のやう！ ミスアンダーソンののはさつぱりとした充實の授業です、たとへば松の實のやう！

此兩人は何でも正反對であるのですが、其正反對に於いて各理想的成功をしてゐます、參觀人があるとヴィルケは何時も此二人の授業を是非見よと強ゆるのでした、そしてあとで「あれほど正反對に完全な二人を外で見ると出来ないでせう」と自慢するのが常でした。

教生實習用の兒童は、朝から夕方まで、入りかはり立ちかはり、日に十五六組参りますので、教生は少しも出張致しませぬ、體操場が二つ、醫療體操場が二つあるもんですから、十五六組位を順々に教へて行くのは雑作も無い事でした、其かはり朝から晩まで、晩から夜まで始終何處の教場もふさがり通し、ようもかう教室が利用されるもんだと感んずる程でした。

醫療體操實習用の材料も場所がらとてどんなのでも望み次第まるで病院のやうに大勢がやつて來ました、夫れ故、まるで病院のやうに正形科が本式に施されました。

こゝには男教師がありません、ですからミスタームリツツエにしこまる、キングスフールド學校生徒のやうな、はなれ技をこゝの生徒に見る事は出来ませぬ、一體此處の理想は、平均運動と舞踏とを以て女らしいものをつくらうとするのです、従つて平均運動と舞踏とは實に立派なものです、見る人誰でもが感歎して居ました、そしてキングスフールドは剛健チエルセは優雅と云ふのが一般の定評でした、ですからチエルセ校の萬事を其ま、日本女學生にあてはめても、間違はあるまいとさへ思はる、程、女らしい教育法でした。

こゝには、夜學として老母組、教師組、妻君組、少女組等がありました、毎夜四組乃至六組位参りました、キングスフー

ケン卜州  
操體専門  
學校の生  
徒が父兄  
招待會の  
時特に演  
じたる擊  
劍の型



其二十八 女らしい體操



ルドでもさうですが、教生には卒業する年の何時から出ると云ふ制限がありませんね、人間がしつかりして號令がよくかゝり、一通りの技が出来且つ教壇に立ち得べき權威が出来たら、入學の翌日からでも實地教授をやらせます。

若し實地教授をやる力が無ければ、例今進級はしても實地の組は持たせられませぬ、夫れ故入學早々教生になる者もあれば、二年になつてもまだのこともあります、もつとひどいのはしまひまで教壇に立たず教授法の免状を與へられずに了るのもございます、實地授業に何時までも出られぬのは大なる恥辱、何とかして早く出たいものだ、どんな生徒でも奮勵努力致しました、ですから生徒は入學早々ぢきに教師らしい態度になります。

かう在學中長い時日を與へて、實地教授をさせますから、實に立派な新卒業生が出来ます、此點羨しいと思ひました。三組の生徒を持つてゐるこゝには随分大勢の教生が居りましたが、晝の十五六組、夜の五つ六つと云ふ澤山のクラスなので、實地教授用の材料に困る事はありませんでした。

私はこゝに二學期通ひました、二學期間のノートだけでも四學期間居つたキングスフールドのと其頁數に於いて大差が無い程澤山なものが出来ました。

一學期終つた夏休に戦が始まりました。在英ドイツ人はドン／＼歸つて行きます、私のクラブの

一ドイツ婦人も立つて行きました、けれども校長のドイツ婦人ヴィルケは、「國を出て既に十三年英國婦人のために献身して來たものを、今更棄て、は歸りたくない、私にはドイツ、イギリスなんと云ふ國の境はない、只世の中の婦人のために献身的努力をしてゐるのだもの」と云つて、矢張り職席について居られました、「故國には一人の妹がある許り、國を出る時、既に到らん國を母國とすべくあきらめてゐます」とも云つて居られました、「非常に敵愾心の強い國民故、後になつて『敵國に踏み止まり、敵の祿を食み、敵の女子教育に腐心した非國民』と同胞からにくまれるであらう……、どうしたつても二度と再び校長は歸國が出来まい」と非常に氣の毒がつてる生徒もありました、宣戰間際には「此際職を退いて貰ひたい」と願ふ様な氣分を生徒は一寸見せましたが、校長が従來の獨逸名を棄て、ミスドミナと英國名にかへる程の誠を表はされましたので一同感激してしまひ間もなく一層の信頼を増した様でした。十三年かくては來たもの、一朝敵味方となる上は、切つてもきられぬフハーテルランドの一大事、一時もかうして居られぬと、飛んで歸る魂を、ドイツ人の特色と思つてゐた私は、之れを見てびつくりしました、然し私なんどの思ひ及ばぬ深い考があるでせう、あはれいたましきミスドミナ！

こゝは斯界の歴史上から英國内で第一に重きをなす所ではありませぬ、けれども、「歴史はどう

操體專門  
學校生徒  
が體育原  
理試験の  
際畫かせ  
られたる  
成績品の  
一、坐狀  
懸垂の  
姿勢圖で  
す



倫敦には非常に澤山の婦人合宿所がございます、一般普通のホテルは、利益問題を主とした經營ですが、此合宿所は全く利害關係をよそにした慈善的事業です、合宿所の人々は俱樂部を組織して、相互に親密な關係を結んで居ます。

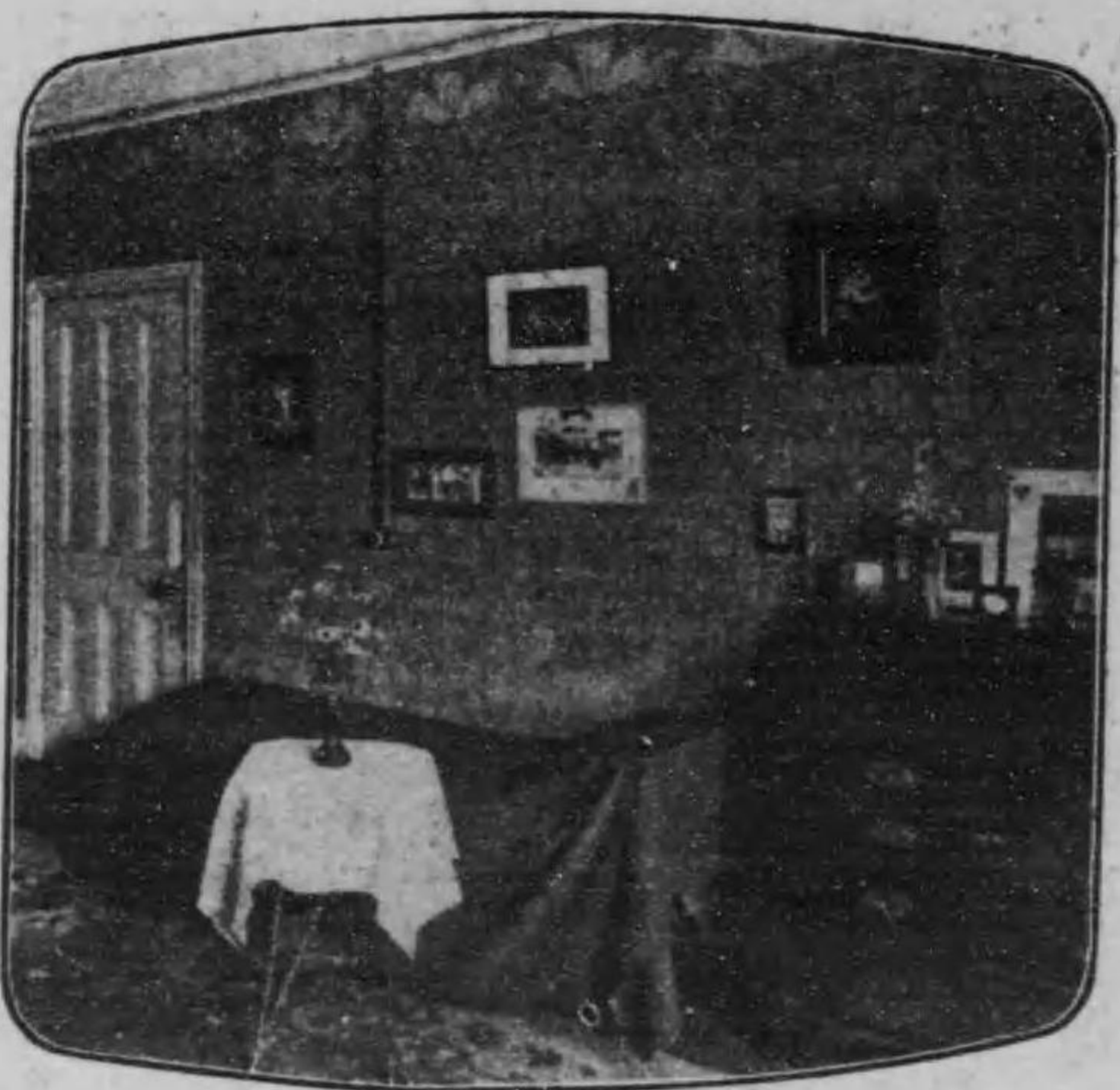
### 其二十九 婦人俱樂部

足掛四年

二二六

でも現在に於いてよくさへ學べたら」と望む私には、こゝが一番理想でした、「現時に於いてはチエルセが一等」と當時文部の一視學官も明言されました、夫れでも歴史を何より重んずる國民はこゝの卒業生の席次を決してキングスフールドの上には置きませぬ、又卒業生をほしいと思ふ人々はキングスフールドでよいものが大方種ぎれになつた時、仕方なしに「ぢや牛尾よりも鶏口を」と云つた氣分でこゝにまはるのです、でも此分なら數年ならずして、違つた現象を見るであらうと私は思ひました、何時の世でも女らしい體操家が女子の世界には勝利を占めねばなりません。

クラブ員  
の樂しき  
部屋



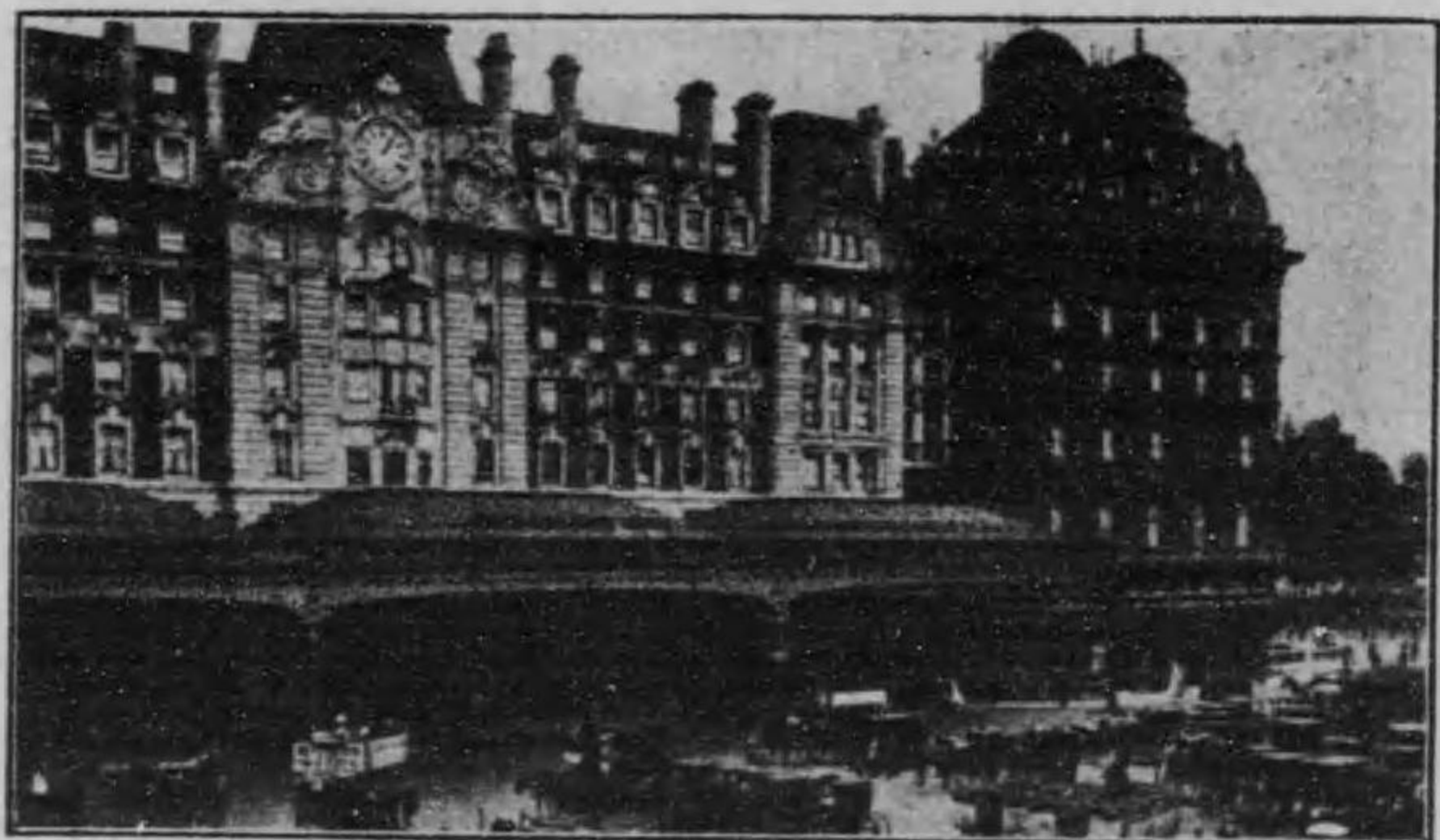
「妻たり母たり一家の女王たらんは女の本分なり、而して此光榮を荷はんには、己先づ健全なる精神を宿した健全な身體を持ち、且つ己を養ひ子女を養育するだけの財力を備へねばならぬ」と云ふ覺悟で、せつせと勉強をした英國婦人も、男子の數が少數なる事よりして、又經濟問題よりして、又理想上の關係よりして、若しくは一身一家の特別なる事情よりして、餘儀なく職業の人となり、獨立の世渡りをせねばならなくなるのが多いもんです。かうした人々は多くは單身室家から離れて、仕事のある場所に假りすまひを致して居ります、其假りすまひをして樂園たらしめんがために、慈善家の手によつて多くの婦人合宿所が設けられてゐます。キングスフールドの先生方の紹介で私が仲間入り許された合宿所は、最もよい所だ相です、こゝはミス某が十數年前亡父の名を記念すべく父の遺産で建てられたのです、俱樂部長はミスボー

其二十九 婦人俱樂部

二二七

ルとて身分ある方です、大變に信仰の高い親切な方で、助手のデンマルク婦人を相手に合宿所を  
 監理しクラブ員を支配してゐました、女中頭も非常に氣のつく親切な女で何時も食堂を氣持よく  
 整頓して居りました、四階建の可なり大きな家には、七八十人を優に收容すべき部屋がございま  
 す、この左はウエストミンスター學校の運動場で、三町四方もあらうかと思はる、芝生、前は街  
 路を隔て、ローヤルホーテカルチュロールと云ふ大園藝共進會用の宏大なる常設館があります、  
 其のとなりは小學校、うしろは庭一つおいてお醫者様の家、右は製藥工場、其のとなりが義勇兵  
 の兵舎でした。クラブから北に少し出れば、左にウエストミンスター舊教の寺院が高く聳え、其  
 の少しはなれた右手には、所謂ウエストミンスター寺院が千古の歴史を語つてゐます。廣い路を  
 隔て、寺院と相對してゐるのは國會議事堂です、流石に宏大なる建物です。議事堂を右にして左に  
 進めば、ネルソン將軍の肖像が、高い處からトラフハルガルスコヤーを見おろしてゐます、また  
 其下に横はる四の獅子の像が實に壯觀です。スコヤーの向ふには、繪畫陳列館がございませう、聞  
 いただけでもびつくりするやうな高價な繪がいくらあるでせう、見やうを知らない私にも見事だ  
 と思はれました。スコヤーから一寸右へはいればチャーリントングクロツスと云ふ大きな停車場があ  
 ります、キングスフヒールド邊への汽車は、此處から出ます、私は幾度もここから乗降致しまし

實に賑か  
 なヴィク  
 トーリヤ  
 停車場の  
 正面



其二十九 婦人俱樂部

た、従つて忘れる事の出来ない記憶の多い所でございませう。  
 停車場へ曲らずにスコヤーの一邊を猶先きへ進むと芝居座が  
 澤山ある所へ出ます、猶右の方へ曲ると博物館があります、  
 更にすつと右へ複雑な路をたどると外科標本館が建つてゐま  
 す、こゝへはキングスフヒールド在學中數度來ました、其後チ  
 エルセを切り上げた後の一學期間は殆ど毎週こゝへ通ひまし  
 た。博物館や外科標本館へ曲らずスコヤーからの自動車通路  
 を何處までも前にすゝむと、ハムプステッドヒースと云うて  
 倫敦の郊外なる大規模の遊園地に出ます、眞實命の洗濯が出  
 来るやうな實によいと云ふところでした。  
 クラブを出て左へ一寸行けば大きなヴィクトーリヤ停車場  
 がございませう、フランス邊へ渡るには主に此處から出ます、  
 少し行つて右へまがればバツキングム宮城です、宮城のぐる  
 りには、セントヂエームパーク、グリーンパーク、ハイド

パークがあります、ハイドパークはケンズィングトンガーデンと續いてる實に廣い公園です。ケンズィングトンガーデンのそばには、アルバートホールと云ふ大きな丸天井の音楽堂が立つてゐました、此方面には、ロンドン大學、ヴィクトリア、アルバート兩陛下の記念館並に自然博物館などがありました。ハイドパークの方から右へ出ると東京の銀座、日本橋と云つたやうな大商店櫛比の街上へ出ます、こゝにも芝居座が多うございました。

クラブのうしろの方へ少し参りますと、テートギャラリーと云ふ繪の陳列館があります、トラフハルガルスコヤ一の前のよりは規模が小さい様でしたが、繪はより以上に價值のあるものが多いたとの評判もありました、際々私は見に行きました、こゝでは日によつて陳列畫の寫生を許可しますので、大勢の藝術家が男子も女子もよそ目もふらず、畫筆を動かして上手に畫いてゐました、其有様が盡きせぬ興味を私に與へますので、畫を見るよりも畫くのを見に行つたやうなものです。

こゝをあとにして右へまはると、サウスウエスタンポリテクニクに出ます、夫れからテームス河を渡ると、バタスィー公園です、此公園には、嘗て日英博覽會の時東京府から出品した日本庭園の模型が飾つてあります、夫れが丁度動物園で小鳥を飼つて居るやうに、ぐるりを金あみで圍ひまして妙な風にして置いてありました、ふと私が見つけ出した時、實にうれしくも亦なつ

かしくて、思はず金あみにしがみついて見やりました、何しろ池あり、築山あり、太鼓橋あり、燈籠あり、庭木あり、あづまやあり、眞に日本趣味のかたまりなんですから、見るからに嬉しくてたまりませんでした、然し英國人は大抵素通り、ちらと視線を向けた許りで、立ち寄る人は稀でした、尤も夫れは折柄た、ずんでる日本の女をしてひとりしづかに感興を味はしむべく遠慮されたのかも知れませぬ、築山のほとりの木々は、三十年五十年八十年と云ふ長い時を経たものでしたが、丈けは一尺にもならぬ木でした、之れが日本のほこりなんぞでせう、趣味の違ふ英國人には、どう此庭に手入れをしてよいか分らないものと見えて、全くはふりばなしの態です、ですから木は枯れ橋はこはれ池の鶴はひつくりかへつてゐます、なつかしとながめた次ぎの瞬間には悲しくなりました。

私は散歩が大好きです、しかも同行者のある事を餘り好きませぬ、クラブが市の中心點にあり何處へ出かけるにも便利でしたから、私は四方八方へ出かけて眞剣な徒歩見物をやりました、一年許りの倫敦遊學中の土曜、日曜日の午後は殆ど全部を此徒歩旅行に用ゐました、何を申すにも道はよし、旅装はかろし、市街は美しいし、人はにぎやか、いくらあるいても面白い事は盡きませんでした。

キングスフールドで田舎の日常になれた私が、始めて此クラブに來た時、迎も居た、まらな  
い感じがしました、時計臺の時報、チャーチの鐘、會社の汽笛、自轉車、馬車のベルやラツバの  
音がさまざまいものです、其外何やら大きな音どもが室内に讀書してゐる者の耳を驚かす程度に、  
殆んど絶えずやつて参ります、おまけに夜中にザア／＼と大あらしの様な音させて道路の大掃除  
をやります、かくて私は夜も晝も眠る事も休む事も不可能でした、また外に出れば氣味が悪くて  
上まではよう見あけられない様な大きな建物が竝んでゐます、其街路を潮の如く群集は流れます  
田舎者の私はこはくて迎も其群集の中にはいれませんでした。實に私の目も耳も暫くは感覺を狂  
はせられました、けれど漸々には音にも人にも建物にもなれて平氣になりました、そして倫敦に  
住むと云ふからにはかう云ふ所に朝夕を過してこそと得意に思ひました。

クラブは何時も満員の態です、私が参りました時にも、一ヶ月後でなければ都合が出來ないと  
云ふのでした、夫れを無理に入れてもらひました、大勢の人々の事ですから誰かしら一人位は毎日  
のやうに留守にならない事がありませぬ、夫れで「留守部屋ねらひの生活なら」と云ふ條件つき  
で私は受け入れられました、留守をねらふ方の私はい、としても、ねらはれる方ではある  
まいかと懸念しましたが、流石は親切を旨とするクラブ員として、そんな事は少しもありませんで

した、そこで私は大方の荷物は荷物部屋にかたづけ、ほんの日用品だけ持つて約四十日の間に三  
十いくつの部屋をまはりました、朝日用品を小鞆に入れ、女中頭に渡して學校に出かけ、夕方歸  
つて掲示板を見ると其夜行くべき部屋が示されてあるのです、かくて或時四階の二十八番へや  
られました、此日は夜學が十時迄有りましたので、部屋にはいつたのは十一時近く、例の如く安  
樂椅子にもたれて、ストーブの棚の上に置かれたるミルクとバナナとをいたゞきながら部屋を見  
まはしました、今迄随分變つた趣味の室を見ましたが、之れまた恐しい變りやう！ 二間四方廣  
さの室のぐるりにかけた二十いくつかの額は悉く化物！ 化物と申しても柳のかけからふわりと  
出る髪の毛の長い足のない日本のは別です、途方も無い頭の大きな骸骨が石塔の蔭からヌツと出た  
り、すごく笑つた骸骨が大きな鎌を以て深夜の人家の窓をのぞいたり、手長、脚長が墓場から人  
骨をほつくりかへしたり、凄い月夜の森中に何やら氣味の悪い妖怪物が喧嘩をしてゐる處なんか  
です、其他すべいやなお化許り、始めは寧ろ不思議な氣分に打たれて眺めました、根が非常  
に疲れてゐる時ですから、段々に過敏な神経は私に色々の事を思はせました、そして何とも云へ無  
い恐怖に驅られました、こりや迎もたまらぬと思つた時、消燈になりました。

こゝの門限は十一時です、十一時後は館内はまつくらになり、人は悉く戸に鍵してしづまつて

クラブ員  
がよく漕  
ぎに行つ  
たボタス  
イ公園  
の自動ボ  
ート



しまひます、尤も十一時後に帰宅せねばならぬ事情の方は五十銭出せば特別の取扱を受ける事は出来ましたが、消燈前、恐ろしいものは見ないが、と考へても見ましたが、見ないと猶氣味が悪いのです、夫れ故目をすゑてどもこれもこれとよく見ました、愈々恐しくなりました、實に見なければ見ないで氣味が悪いし、見れば見たで堪らないし、どうしたものかと困つてゐる時、十一時が鳴つてまつくらやみにされました、急いで蠟燭をともしましたが、ゆらめく蠟燭の火かけは思ひなしか猶一層の凄味をそへます、無いがましと吹きつけてやすみました、やう／＼に眠れば夢の見どほし、化ものに追はれるところや、つかまへられるきはどい處で二三度した、かに聲を出しました、さつき見ても恐し見なくてもこはかつたやうに、今度は眠つてもこはし眠らなくても恐しくなつてどんなに夜のあけるのを

待つたでせう。

やう／＼薄明くなつた時、私は起きて額を全然裏がへしにかけました「かう葬つてしまへば大丈夫」と子供見た様な事を考へて改めて休みました、こゝらでは九時まで休んで居たつて恥ではございませぬ、しかし食事は九時すぎになれば少し割り増を拂つて部屋で致さねばなりません。そこで私は休みながら手を伸ばして、壁板にとりつけてあるボタンを押しました、心得たる女中は間もなく食事を運んで来ました、部屋にはいつて窓をあけてくれました、うらがへしの晝が女中の目にはいつたと見えてびつくりしてゐます「一體どうしたわけですか」とたづねます、私は止むを得ず昨夜來の臆病わづらひを話しました、女中は息がつまる程笑ひ入りました。

此夕方歸つて掲示場を見ますと、またお化の部屋です、迎も行く氣にはなれませんが、應接間で夜あかしをしませうと考へ身まはりの物をとりに室に行きました、お化けの晝は全部なくなつて日本美人の錦繪と變つてゐます、どうした事だらうと一人不思議がつてる處へミスボールが来ました、「昨晩は大變にお氣の毒な事をしました、實は少しもその……お化の額に氣がつきませんでね、今日はおわびに此美しいのをかけましたから御安心なさつて下さい」と云はれました、なみならぬ館主の親切、私は辱じけないと御禮を申しました。

此額はクラブ員の一人が其近所に住んでる親戚からわざ／＼借り入れたものな相です、有り難い人のなさけに、思はぬところで大和國ぶりの錦繪を見得る事を喜びました、其繪の一つはお姫様が短冊に、「みだれそめにし我ならなくに」と書いてるところ、も一つはあやめをいけてる御殿女中、そして他の一つは五十三次藤澤の驛を背景に旅装束のお女中五六人を立たせたのでした、私は此時程「美しい」と思つて錦繪を見た事がございませぬ。

留守部屋めぐりなんていやな事だと思ひましたが、さてめぐつて見ると百人百色の趣味を、其部屋の額、書籍、おきもの等に依つて窺ひ知る事が出来ますので、實に結構な學問を致しました。お化けづくしで部屋を裝飾した方は年の頃二十七八のやさしい女醫さんでした、間もなくドクトル某と新家庭をつくるべくクラブを引き上げ、ウエールズの方へ行かれました、お化けの畫は悉く其ドクトルよりのおくりものな相です、變つたおくりものもあればあるもの！

### 其三十三 宣戦間ぎはの倫敦

美しと云ふよりも景色がいゝと云ふよりも、先づはまつ先きに無事太平と云ふ感じを私に持たせたバツキングダム宮城前のセントヂェームスパークは、七月末からがらりと其光景が變つて、た

だ群集の叫喚するところとなりました、鏡のやうな池の面も池畔に眠つてる水禽も、咲きほこつてる草花も、のどかにゆらめいた木々の梢も、すべて群集の叫喚に驚かされてしまひました。

八月にはいつては形勢愈々險惡、英獨間は辛うじて平和を保ちつ、ありと云ふ鹽梅、一體英國には年に四度の銀行休日があります、此月三日が丁度それでした、ところが少しも夫れらしからぬ風情、流石は大變の秋となづかれました、數度私が實驗した銀行休日は、誰れも彼れも業を休んで命の洗濯を行ふ爲に、或は化粧行列で市をねり行くもの、樂隊つきではやしはるもの、遠足するもの、電車自動車で田舎にくり出すもの等、それは實に太陽氣大混雜なものでした、處が此日は一向にそんな催しはありませぬ、そして更に、二日の銀行休日を皇帝陛下が追加されました。

若し茲に此三日の銀行休日が無かつたら、或はどれだけ多數の銀行がつぶれたか分らぬと申します、雲行がより危くなるにつれて人々は預金を全部金貨で引き出しにかゝりました、ですから銀行前は預金ひき出しの人で埋められました、かくて銀行の破産が續々とあらはれました、自殺した銀行の頭取もあつたとの事です、又銀行の破産と共に巨萬の預金が消滅し、昨日の富豪は今日の貧民となつた夢の様な話も聞きました。

追加された二日の休日で、其筋では専ら此救済を講ぜられたものと見えます、休日前めきくと騰つた市の物價は、休日後ケロリとともに復しました、しかし世の雲行は刻一刻とより險惡を加へました。

最初の銀行休日の晝頃、チエルスイー兵營から一箇聯隊の歩兵が出征しました、私は此夕千載一遇の光景を見にまゐりました、但し此時は例の單獨徒歩を廢し、屈竟な男子に伴はれました、先づ出征した後のチエルスイーバラックに行きました、こゝは私が體專校へ往復の途上何時も眺めやるところです、常には規則正しく開閉してあつた兵營の窓も今日は何のきまりもありません、建物の中は總べて眞暗、庭には紙屑や何か、散亂して如何にも大勢が立ち去つた様子をしのばせます、折りから満月には三四日間のある弦月が兵舎の棟にかゝりました、あ、凄愴、明日になったら建物は再び兵士で一ぱいになるでせう、けれども一度去つた者の中には再びこゝに歸れぬが多かるべしと思つた時、戦争は悲惨なものだとしみじみ感じました。

それから宮城前へ向ひました、幾萬の群集が唱ふ國歌のこゑは餘程遠くにまで聞こえます、行つて見れば、人の山と云はうか潮と云はうか、未だ嘗て私はこんな大勢の群集を見た事がありませぬ、其群集が手にく國旗を打ちふり、胸を叩き或は帽を打ちふり、足踏み鳴らして、國歌一

俄に召集  
されたる  
義勇兵の  
テント生  
活



其三十 宣戦間ぎはの倫敦

曲毎に大叫喚をあげせかけてゐます、其意氣たるや非常なもの、正に天を衝くの概あり、頼もしや英國國民、君を思ひ國を思ふは日本人のみの特徴ではないと見ました、此夜兩陛下には幾度も宮殿のバルコニーに臨御あそばして庶民の誠に答へられました。

次に國會議事堂へまはりますと、もう十時半過ぎでしたが、大きな建物は何處も彼處も白晝のやうにあまりが輝いて居ます、議事が盛に行はれて居る様子です、此處にも立錐の餘地ないまでに群集がつめかけて居ました、しかし宮城前の夫れとは全然趣を異にして、皆肅然とうなだれ、小さいさ、やき聲さへきかれませぬ、大變に思ひなやんでゐます。

兵營前で凄愴の感に打たれ、宮城前で衝天の意氣を見た私は、終りに議事堂前で何とは知らず身慄ひを感じました、クラブに歸つてから眠る事は出来ませんでした、夜が明けるま



で數回群集の叫喚を聞きました、夫れは衛生隊がヴィクトリアヤ停車場から出征したのでした。愈々宣戰の詔勅が下つたら倫敦はもう一大兵營に化し、公園は馬場と練兵場とに變りました。折りから夏休み中の小學兒童等は、斥候隊を組織して、郵便配達夫を助け、巡査に加勢し、兵士の用達しをする外に、途上の怪我人や病人の始末をする役目に當りました。セントヂエームスバークの横には、志願兵の募集所が設けられました、此處では朝から晩まで特別な軍樂隊が樂を吹奏してゐます、「私が若し英國男兒ならば」と私でさへ奮發しないでは居れぬやうな樂のひびきです、實際此處で急に斷然たる決心をする壯者が少くないとの事でした。

かゝる事あるべしとは夢にも思はで、此六月二十二日ジョージ陛下の天長節にこゝで舉行された觀兵式を私は拜觀致しました、其日こゝの時計臺が十一時を打ち始めた時、陛下はお馬で臨御になりました、式場の正面なる高い建物の窓からは皇太后陛下と皇后陛下とが見えなはして居られます、キングの御姿が私共からも明に拜されました。

申すもかしこき事ながら我國でさる御大節があつた折り、列のおしまひについた英國兵士のあゝるき方が實に壯麗なものでした、どうしてあんなにあるけるでせうと私は疑問でした、夫れをいまこの觀兵式で心ゆくまで觀ました、實に嬉しきもの、限りです、陛下が御退場になる時、時計は十

二時を報じ始めました、壯麗無比なるマーチと共に不思議なほどきちんとゆく時は、私の頭に深い印象を與へました。同時にぐるりの衛兵中から、此一時間内に四名の卒倒者が出來た事に驚きました、文明は人を弱くすると私は三歎致しました。

戰雲益々たなびき渡るにつれて、私の知つてゐる英國婦人連は、日頃のまげきらひは何處へやら「どうもカイゼルは世界の英傑だから恐しい」どうもドイツの陸軍は命知らずだからこはい」どうもドイツの海軍は優勢だから心配だ」杯とよるとさはると泣き言を並べてゐました、觀兵式當日僅か一時間許りの間に四名の卒倒者を出した軍隊を思ひやれば、他國人の私でさへ心細からざるにしもあらず、況して此婦人連を無下に取り越し苦勞とのみ笑ふ譯には參りませんでした。

### 其三十一 俱樂部の生活

始めてあふ人には宜しく氏名職責を明にすべし、之れ禮なりと心得た私は、ニルソンにもラザラにも誰れにも彼れにも「私は東京女子高等師範學校助教何某大日本文部省から留學を命ぜられた體操科研究生でござる」と名乗りをあげました、然る所どうも此名乗りは受けがよくありません、よくよく思つて見れば夫れも其筈、こゝらでプロフヘツサーと云はれる人は、相當の年の

功を積んだ上に、其學徳藝術が一世に秀で、居る方々です、私はアツスイスタントとは申せ、果に角プロフヘツサー殿です、故に學徳なり技術なりに於いて専門の腕前を有し、「成る程」と人をして感心せしめるやうにあらねばなりません、けれども夫れは私に於いて總べてゼロです、尤も年だけは十分にとつて居りますけれど、さつぱり功を積みませんから大人げない事甚しく、其上何も知らず到底重きをなす事は出来ないのです、「名實相應しくないから受けが悪いのだ」と私は以後大に氣をつけて略式に名前だけを申しました、此方がどれだけよかつたか分りませぬ。嘗て私共が學生の頃「皇后様から遣はされました」と名乗らる、四名の外國留學生少女に對して「そんな威張つた事云はなくてもいいわね」とみんなで云ひ合つた事など思ひ出して、なる程……とはした無き自分を悔いました。

クラブへ参りました時は、この邊の手心が可なりよく分つてゐましたから、うまくやつてのけました、六七十名の人々もまた序の折にあつさりと名前を告げられたわけです、ですから誰が何やらさつぱり私には分りませぬ、どなたが一番にえらいのか又どなたが一番にえらいのか無論見わけがつかませぬ、夫れに又誰れ一人幅を利かしてゐる方も無ければ卑下してゐる人もありません、「みんな同等の人達」と私は判断しました。

毎朝食堂内の臺にはクラブ員に來た郵便物が一所くたに並べられてあります、そこへ行つて自分のをさがす時、否でも應でもひとのも見ないわけには参りませぬ、驚くべし、見れば「文部省視學官何某殿」「文部省試験官何某殿」「何々商會助役殿」「何々小學校長殿」「何々高等女學校長殿」「ドクトル何某殿」「何々看護婦監督殿」「何々銀行書記殿」「何々稅務所計算官殿」なんと云ふ肩書がちよい／＼目につきました、之れに依つて見ると大方の人は地位あり財力あり學力あるお歴々の方なのでした、かう分つて見れば此六七十人は身分が同等だとは決して云へませぬ、随分懸隔がございます、處が、クラブでの日常の生活には、夫れがちつともついてまはりませぬ、「こゝがえらい處だ」と私は感心致しました。

試験官殿は、博士號を授くるための試験をする方です、女でまあえらい事ぢやありませんか、やつと四十位の美しい上

私が見た  
英國近衛  
歩兵の觀  
兵式



其三十一 俱樂部の生活

品な方でした、オックスフォード大學の文科を専攻せられた才媛だ相です、此方は文部省内でも頭のいいので評判だとき、ました。視學官殿は、體操科擔任でした、ダムフハーミリン體專校出のまだ三十位の方です、私は此二人からやがて大變便宜を與へられました、お蔭で始めて英國體育界の事どもを詳しく承知する事が出来ました。

私立の學校は互に生徒の奪ひ合ひをする程競争がはげしくございます、一度毛色の變つた生徒なんかを手に入れたが最後箱入り生徒にしてしまひます、そして何を聞いても何を頼んでも自分の學校以外の事は「知らない」で押し通します、ですから井戸の蛙にならざるを得ませぬ。

英國文部省には、外國留學生世話係の役人があつて親切に世話してくれる相です、日進月歩否分進時歩の英國教育界は、一年前はかうだつたからなんと云つたつておひつきませぬ、況して三四年や四五年前の状態を心あてにたよつて行つたつて一向頼りにはなりません、驚くべき變化をなしてゐます、「將來日本女學生が來らる、やうな事があつたら直接文部省をたよりに御出でなさい」と半官半私で、私は此兩人から申されました。

私が英國に落ちついて間もなく、「ミユラー先生が倫敦に空氣浴體操場を設立された事を英國の雜誌で見たが、定めし盛な事であらう」と日本からお便りを戴きました、そこでキングスフー

ルド校の先生方にき、ましたが分りませぬ、土曜日毎に來る餘所の人達に話しても見ましたが矢張り知る事が出来ませぬ、爾來ミユラー先生の探檢に大分骨を折りましたが一向に駄目です。

處が夏休に北部英國を旅行中、さる小さな停車場の本屋で圖らずもミユラー先生著の「子供の體操」と云ふ本を見つけました、此本を手づるにやつとこと知れました。かういふ事が外にもいくつもあります、實に私はクラブにはいるまで文明國へ「體操の探檢」に來たやうだと思ひました、若し私がクラブにはいらなかつたら依然たる井戸の蛙でどれだけ見おとしたか分りませぬ。

嘗て私の切なる願を入れ給ひて、體操の教師を奇蹟的に賜はつた事のある大自然は英國でも亦常に此種の豐なる御保護を下さいました。

クラブに移つたのは五月、戰の始つたのが八月、戰が始まるとやがて飛行機の襲撃騒ぎとなりました。當時スキーデンは露西亞との關係上ドイツに加擔し相に噂せられました、グリニツチ附近にあるキングスフールド校は此邊で一番目を引く建物です、ですからよい目標となつて爆彈を投げられるかも知れないと皆は騒ぎました、若しそんな事があつたら、スキーデン婦人が手びきをして英の女學生を殺させたと云ふ事になるかも知れない、さうなつては一大事たゞで済まぬと思つたのでせう、マダムは臨時休業を命じ、夏休が済んでも校門は猶堅く閉されてゐました。

何處の學校も大抵は戦争で動搖致しました、でも私はクラブの人々の助けて誠に都合よく志す事を研究する事が出来ました、之れも實は専らかう云ふクラブを世話して下さいたキングスフィールド校の賜です。

七月の終りから倫敦の騒ぎはたゞならずなりました、クラブ員一同は待ちかねた夏休を歸省もせず、事に成りのきを氣遣つてゐます、いざと云はゞ一臂の奉公をしやうと覺悟してゐるのです、つひに時局は破裂しました、クラブの人々は活動を始めました、ある者は近所の篤志婦人會に通つて戦場におくるべき冬着調製に従事しました、冬着を用ゐるに戦がすめばいい、が……どうも短くて六ヶ月はかゝるだらう、なんと其時人々は申して居ました。世の中では三ヶ月でおしまひだと云つた様でしたが、此處の人々は少くも六ヶ月と云ひ、キャッチナー將軍は三年はかゝるだらうと申されました。

又或者は靴下あみをクラブ内で始めました、當時私は水泳を主として稽古してゐた時でしたから、毎日一寸は手をあければあけられますので、冬着の組や靴下の組に交せてもらひました、靴下は全く自分の寄附、冬着はさる團體から寄贈された材料を調製するのです、靴下の絲はカーキ色のスコッチで實に頑丈なものでした、そして出来上つたところは何の事は無い仁王様の御用

品ほどに大きうございます、澤山の大工場があつて至極手軽に日用品を製造してゐる英國では、婦人が靴下なんかを自分で編む事はありませぬ、ところが士氣を鼓舞するために、特に人の手で編んだものを兵士に贈らねばと云ふのでクラブ員一同も編み出したわけなんです、此大勢のクラブ員中踵のつくりやうと足先のしぼめやうとを知つてゐる者は、一人もございませんでした、私は俄に靴下あみの先生になりました、しかし一度話しますと、みんなははすぐに分ります、實に頭がいゝんですね、だがいくら頭がよくても、つかひ慣れぬ針の事ですから、其あむ様子は實にかしなものでした、あ、文明は破壊だ」と思ひました、又「器械は人を愚にしてしまふ」とも考へました、さはれ破壊されずに、又愚にもならずゐる日本婦人は、誇てよいのやら悪いのやら大なる疑問ですよ！

冬着調製の組に出て私はシャツを縫ひました、ミシンをつかへれば自然色々なもの、裁縫を覺えられるのですが、残念な事には私は夫れを存じませぬ、實は未だ嘗てミシンにふれた事さへ無いのです、學生時代にミシンで仕立てる西洋前かけを一度教へられましたけれど、三十人近くの一組に與へられたミシンはたつた二臺、神經衰弱症の私には進んでミシンを占有する丈の勇氣がありませんでした、とうとう一針も縫はずに一學期を終へたので、大變な不首尾を招いた事が

あります、あの時皆さんの様に機敏に立ちまはつて學んでおいたらと此時した、か悔いました、後悔先きに立たず止むを得ずシャツの手縫を致しました、手縫連中が大分あります。さて負傷者用のものなればすべて大きく袖なども筒袖風になつてゐました、其袖口のふせや、すそなんかは細かい千鳥縫ひです。わきや其他は一針ぬきの念入りで以て、ほころびたり、はじけたりする憂を始めから戒めて居ます。日本からゆく婦人用「上つ張り」は、そりや美しい模様つきでいかにも綺麗ですけど、ぢきに大荒目の針目がほころび出して始末にをへない相です、夫れ故一と頃大もてにもてた「キモノ」も、今やかへりみるものまれなる状態です、念入りのシャツを縫ひながら荒目のキモノが恥しうてなりませんでした、總べて堅實を尊ぶ英國人に喜ばれやうとする「キモノ」はシャツ同様千鳥縫や一針ぬきのでなければなりません。

戦が始まるとクラブの前の園藝共進會場は、義勇兵營舎となり、横の運動場は、練兵場兼馬場とかはりました、私は前をのぞいたり横から見ろおしたりさても忙しい事でしたが、居ながらかうした状態を見得る幸を喜びました、毎日夕方と午食前との二回に軍樂隊が来て數十番の演奏を試み、士氣を鼓舞するのでした、感心な事にはかう大勢田舎出の若者が集つてるところをいくら女が通つても、見向いても見ませぬ、況してからかうなど、云ふ事は全く見られぬ事でした。

モデルになつた謝禮として  
アイルランドの畫家から贈られた自筆の畫



運動場の練兵を見おろしながら私共はよく靴下を編みました、話柄はいつも戦の事です、或時一人が「英佛白がこつちで戦つてる中に、露軍がベルリンに侵入して全都を焼き拂はなくちやいけない」と云ひ出しました、一同はさうさうだと大賛成です、私は黙つて笑つて居ました、すると一人は「何故貴女は賛成しませぬ」と詰問しました、「賛成しないわけではありませんが」では實行がむづかしからうと云ふのですか?」「まあさうです!」「そんな事はありませんよ、大丈夫出来ますとも! そりや露西亞は先年あなたの國にまけました、けど、夫れから軍隊の組織をかへ訓練の方法を革めましたから、あの時よりも餘程發展してゐます、夫れ故ベルリンの燒拂位は大丈夫出来ますとも! ね、ですから安心して賛成なさい」と無理やりに私は賛成の數の中に入れられました。

アイルランドから姉妹二人でクラブに来て居た畫家がありました、其妹さんが、寫生をしたい

から日本服を来てモデルになつてくれまいかと頼みます、美しいものを畫くのはさう骨も折れないが、醜いものを畫く事は中々出来ないとかねて聞いてゐます、「醜なるもの、標本に私をほしいのでせう、よろしい！」と私は三時間をきちんと腰かけました、も一度……も一度とあつて都合三遍九時間をモデルにされました、モデルには三十分毎に休みを與へねばなりませんのですが、あなたはちつとも休まず三時間を同一姿勢でよう居れた事です、ねときつくほめられました。そして最初の寫生の時は「異郷の孤客」と題しやうかと思つた相です、實は此時、私は、空にはかけのく日蝕を仰ぎ、下には死に赴かんとする丈夫の練兵を見、街には竝木の葉がハラリ／＼と散る初秋の景に「あ、淋しい」と思つてモデルになりました、然るに二度目には「ほ、ゑみ、三度目には「輝き」にかかりました。かうかはりゆくモデルの氣分に、畫家は少からず手古摺つた様でした、大勢の日本人がドイツから無事に倫敦へ來られたときいた時、何とはなし嬉しくてほ、ゑみに變りました、而して歐洲巡歴費をドツサリ文部省からいたゞいた時、「輝き」になつたのです。

横濱から倫敦まで一つ船で行つた家庭教師の玉江嬢は、折り／＼クラブへ訪ねて下さいました、夫れが實に嬉しうございました、お目にかゝると誰に遠慮もない日本語で思ふ存分話しました、

女史は食物の變化で着英早々顔がお盆のやうに膨れ上つて困つた事や、髪を洗つて腦貧血を起した事、さては、何も知らずに昇降機に乗つた時、ガイとひき上げられたので、龍巻だと合點をして腰をぬかした事などを何時も面白く話されました、私も或る停車場で、「スベリ階段を下りかねて非常な赤毛布を演じた様などを話してよく笑ひ合ひました、又私手製の鹽煮の日本料理を御馳走してした、か笑はせました。部屋のスープが暖室用にもお茶をわかすためにもつかはれますので、私は少々道具を買ひ集め、お茶・砂糖・鹽・豆・肉・野菜・卵・魚なんか求めて鹽煮をやりました、醫油は中々手に入りませぬ、又匂のするものは居室用の部屋ですから、煮焼きは出來ませぬ、かう何も彼も制限せられたところでやるお料理ですもの、上等なもの、出來やう答はございませぬ、夫れでも私には何とも云へぬおいしいものでした、夫れ故ほかの日本人も定めしお喜びなさるだらうと存じてちよい／＼さし上げました。「あんなまづいものを食はされたためしは無い……あのまづいものを食べた苦しさは一生忘られぬ」と歸朝後方々から御叱りを受け、恐縮致して居ります。

戦が無かつたら此夏休にはデンマルクのさる夏期體操講習會にゆく豫定でしたが、かう世がただならずなつては英國をはなれる勇氣が無くなりました。

此秋サウスウエストスタンポリテクニクでは、常と變らず課業を始めました、そこで私は再び總てを打ちすて、此方にかゝりました、尤も學期の半からはベットフホード、パーミンガム、サウスポートの體專校を廻り、サンダウ、ミュラーの塾や盲人學校、幼稚園等の見のがすべからざるものを見まはりました。

翌年一月中旬は歸路につかねばならないのですが、歐大陸巡歴費は優に猶半年を英國に留學させます、殺氣立つ今日此頃毛色の變つた女の一人旅は云はずと知れた險呑、それよりも、なれた此國でおちついた勉強するのが得策だと考へました、そして此半年は専ら體操家としての音楽を修めやうと決心致しました。クラブの一人にピアノの名手が居ました、一日八時間づゝ練習するならば教へてやらん」との事、私は夫れを誓つて弟子入りしました、然るところ、クラブで八時間テントンくくくはやれませぬ、ほかの方が困りますゆゑ、夫れで私は餘儀なくクラブを出ました、クラブを出るのは實に悲しうございましたが大切な修業のためにはかへられませぬ思ひきつて去りました。

### 其三十二 ゆかしき集り

戦争前の銀行休日に催したクラブ員の森林遠足、今炊事部員がコーヒをこしらへて居ります



其三十二 ゆかしき集り

國を出てから三度クリスマスを祝ひ又三度新年を迎へました、一度目は船の中で二度目はホテルで三度目はクラブで。船の中のクリスマスは一等の食堂で外國人ばかりが盛にやりました、新年は二等で日本人許りが大に祝ひ合ひました、此時は二つとも多感多想、祈る事、思ふ事が限りも無い有様でございました。

二度目には祈る事も、思ふ事も大にへつて多くは只感謝のみになりました。

三度目は無念無想の状態です。かう一年毎に變つて行く自分の心持をかへりみれば、夫れは丁度枯れて行く木のやうなものではあるまいかと思ひました、祈る事思ふ事多い中が花です、祈る事も思ふ事もやゝに減じた末は、人間の枯木が出来るのです。

しかしこれが解脱、夢見ぬ聖き國に進み入る階梯だと私は

自分で自分を祝福致しました。

これは又一つには一分ひまなしの活動、前から後からぎつしりつまつた生涯、それ故祈る事や思ふ事の種蒔きが出来ないからとも思はれました。

ラモアペーパークホテルのクリスマスは、賑かなものでした。此週には急に方々から一人ものが投宿しました、かくて四五十人の人々は、今日を晴れと着飾つて食卓に就き酒を祝ひ七面鳥を賞味し、クリスマスブデングを味ひ、又卓上爆竹を打つたり、滑稽な帽子をかぶつたりして、大浮かれにうかれました、私の向に着席した花嫁さんは、銀貨のはいつたブデングを取りつけて大變に嬉しがつてゐましたつけ、私も見るもの、きくものすべて珍しく、大いに楽しみました。

ホテルではこれから三四日賑ひが猶續きました、老幼男女主僕打ち混じて唱ふ、踊る、話す、笑ふと云ふ工合、私はほと／＼あごの疲れを覺えました。

新年を祝はぬ英國人もホテルでは特に私のために祝ひの獻立を致しました、除夜の禮拜から得た感謝と喜悅とに満されてゐる私はかくて思ひもよらぬ元日を祝ふ事が出来ました。

クラブでのクリスマスはもう戦亂の中、喪に服してゐる人もありました、夫れ故ほんの形ばかり七面鳥をいたゞきました、固より唱はず、舞はず、只世の平和を祈つて救世主の降誕日を過しま

した。内のしめやかさを味ふもさる事ながら、市中の様子を見るも一興と私は例の如く歩きまはりました、夕七八時から街上には殆んど人影を認めませぬ、辻待ちの自動車なんかも、全く居りませぬ、皆々内にあつてしづかに祝の席についてゐるものと見えます。

ローマ法王の斡旋に依つて此期間は臨時休戦となりました、然し必要は法律を無視すと云ふドイツ人を信用する事が出来ないと見えて、議事堂わきには鐵砲をすゑつけ、四五人の兵士が上空をにらんでゐました、敵の飛行機襲撃を警戒してゐるのです。又ウエストミンスター橋上、ハイドパーク入口、チャーリングクロス停車場わきの三つの常設サーチライトが恐しく天空を彩つてゐました。

天を彩る光の外はすべて闇の夜です、眞暗な中を淋しい時が流れます、あ、戦争は悲愴！

さみしい倫敦のクリスマスも朝の中は可なり賑つた様です、クラブでも早くから女中共の笑ひ聲がどよめきました、流石はと私もにぎやかな気分になりました、朝の食事に出やうとすると私の室の入り口にプレゼントの包四つ五つ見つけました、嬉しからざるにしもあらず、どれから先きにあげやうかと思はせりました。

チョコレートのおぼしきものを先づ開きました、するとバラ／＼と落下したはマッチの



三百六十五本、もの、見事にそこら中にちらばりました、あけたら必ず落ち散るやうに仕組まれてあるのを、知らぬが佛、まんまと策略に陥りました、をかしくもあり、迷惑でもあり、片づけるのに散々骨が折れました、「毎日一本づ、する毎に私を思ひ出して下さい」と書いた紙片が交つてゐます、何とした上手なおくりものでせう。第一の包にこりた私は非常な用心を以て次ぎから次ぎと開きましたが、あとには危険ながありませんでした、ピンさし、畫本、カード等です、何れも氣のきいたもの許り、クラブ員がおくりもの、選擇の上手なものにほとく感心させられました。私は随分金をかけ、倫敦にある日本店から品々とりよせておくつたのですが、一向に氣の利かないものでした、いやになつてしまひました。こゝらの人々は、そんなに金をかけないで、素敵に人を喜ばせませす、學ぶ所無かるべからずと思ひました。

クラブの除夜の集りは、しめやかなものでした、チャーチでは、此夜盛にベルを鳴らしました、勘定はクリスマス前にきめるので、大晦日には日本のやうな掛け取りがありませんが、夫れでも何となく落ちつかぬ世の様です、しかるにクラブ員一同は心しづかにストーブの燃えてる客間に集り、思ひくゝに三々五々卓を圍んで話し合ひました、うれしき事、なつかしき事、一年中の事共すべて心おきなく話題に上ります、何んてゆかしいでせう、かくてあと五分たてば此年は過去に

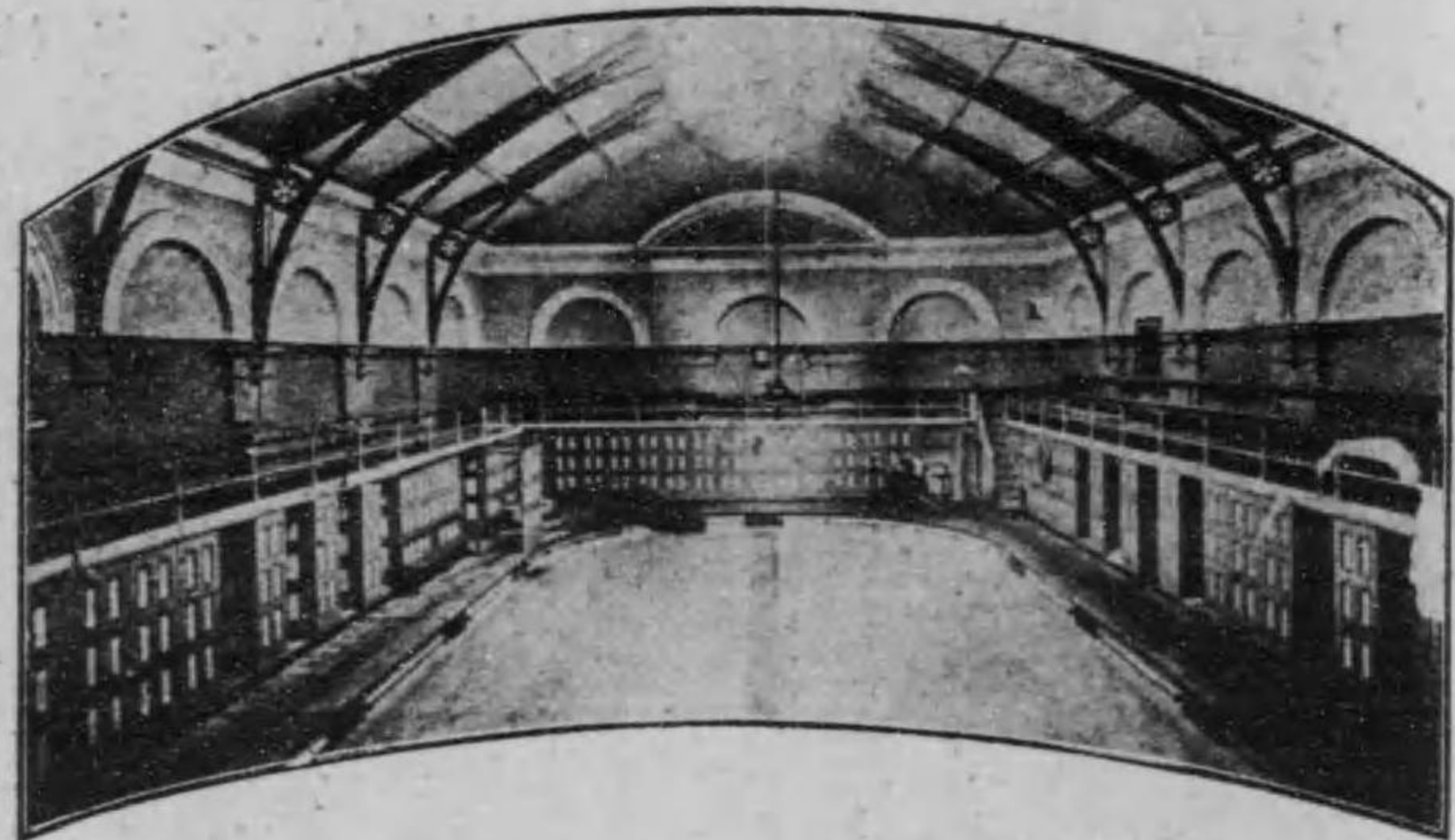
なると云ふ時、一同は除夜の黙禱を致しました。柱時計が十二時を打ち終へた時みんな暗れ々とした顔を上げて「新年はお目出たう」と祝詞を云ひかはしました。

### 其三十三 水泳學校

英國の最初の夏休の後半をボードン水泳場に私は過しました、子供の時かくれて鳴瀬川にちやぶくゝやつたり、蛇沼に筏を浮べたりしたことはありませんが、水泳術はちつとも覚えませぬ、そして年ゆきになつた頃に始めて稽古をやりました、とんだ八十の手習を異國で試みたものです、留學中何が一番苦しかつたかと問はれたら、私は「水泳」と答へねばなりません、又「何が一番成功したか」と若し聞かると、事あらば、矢張り水泳と申さねばなりません。

「之れほど水になれない人をどうしたらいいだらう」と始め

私が澤山に水をのんだ室内水泳場



其三十三 水泳學校

は教師を困らせましたが、約一ヶ月の後には、胸泳ぎ、背泳ぎ、横泳ぎ、浮き流れ、徒渡り、四方展望、頭飛び込み、上泳ぎ、もぐり等の所定の型を一通り修了して同學者中最上位で証明を與へられましたハ……うそかも知れませんが、肉が多くてがさばつてる身體が、水泳には都合がいいのですつて、私は丁度夫れに適合してゐますから、かう成功したのでせう、も一つには關節の屈伸が大なる問題です、私は丁度身體中の關節と云ふ關節を極度まで屈伸し得べく、キングスフヒールド校でしつけていたゞきましたから、夫れでかう都合よく勉強が出来たのもございませう。

限られてる時を英國に持つてゐる私は、來年もやらう、さ來年も出来るると云つて安心してゐる前途有望の英國女學生とは違ひまして、何でも彼でも其時々、切り上げねばなりません、此のつびきならぬ事情が私をしてすべてに奮發させました。

水泳の先生は教師名をミスフヒールドと呼び、家庭名をミセスバニエンと申されました、かう二様に呼んでる婦人を、私は始めてこゝで見ました、さて水泳の先生と云ふものは水につきり通しと思ひの外、一度も此先生は水につかつた事がありませぬ、只水際に立つて大勢の者の泳ぎぶりを見ながら、指圖をする許りです、それが實に巧みに且つ科學的ですから、生徒にはよくのみ

込めます、そして初學者には最初四肢五體の運動を水の外でしつけます、それ故水にはいる時には既に萬事を會得してゐます。

私は水の外の運動が出来ても水にはいると口から呼吸をしないために、鼻から水がはいつて大變に苦しみました、之れではならないと悲觀してゐる處へ、「水中に仰臥せよ」と教師が命じました。「逆も私にはそんな事が出来ませぬ」と顔の色をかへました、「大丈夫ですよ、私がかうしてあなた的身體をつなで引ッ張つてゐる以上溺らせはしません」と再三云はれて、仕方なしに弓矢八幡を念じてひつくりかへりましたら、これは不思議苦もなく水上に仰臥が出来ました、之れから私ははげみが就いてすん／＼はかどつたのです。

水の中にはいつてる時間は一日一回三十分と限られてゐましたが、私は内證で三時間も續けたり、一日に二回もはいつたりしました、水泳番の密告に依つて之れを知つた先生は大變におこつて、そんな無理をするなら證明書はやらないと云はれました、書つけなんか入りませぬ、實地が何よりの證明、何でも實地をしつかりやるに限ると思つて、怒られながら私は色々の苦心をして練習しました、先生もとう／＼怒りかけて、「日本人は強い身體を持つてゐるからいくらでも泳ぎなさい」と免許しました。かくて同學の人々よりは、三倍も四倍もの時をかけたわけになりますか

ら、そりや一番になれる筈ですよ。

水泳程快い空腹を覚えさせるものはまたとありません、みんなはビスケツトなんかを持つて来て水から出て衣服をつけると、泳ぐものを見ながらポリ／＼やつてゐました。

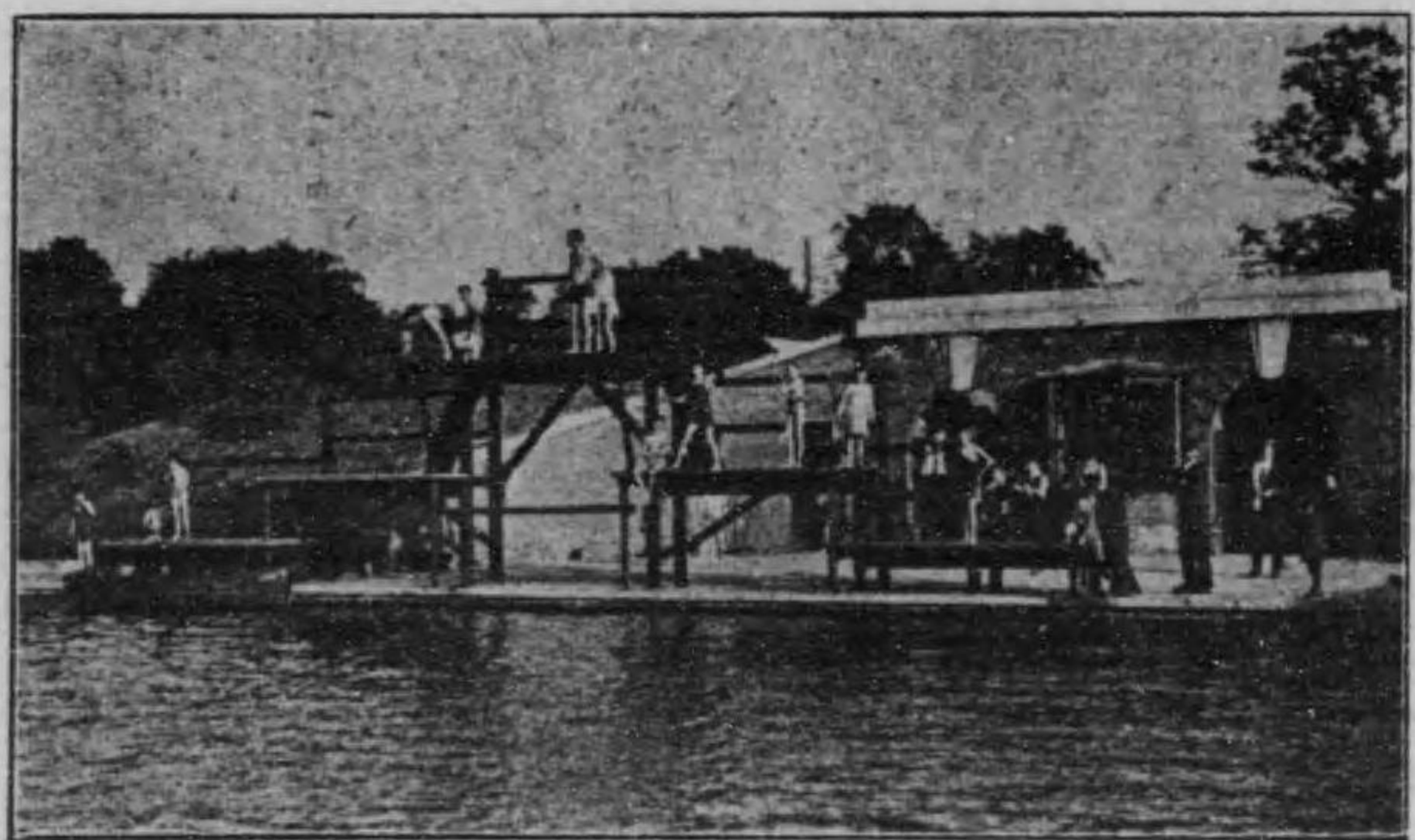
一體英國ではどんな片田舎に住んでる人でも、乗り合ひ自動車なんかの便をかりれば、遅くも三十分位で何處かの水泳場に到り得ると申す程、澤山の水泳場が公立されてあります、其水泳場は外から見たところでは、他の建物と餘りかはりはござりませぬ、然し中へはいりますとまるで別世界、約千疊じき位の大廣間には清水漫々、見るからに入つて見たいと云ふ氣になります。

水泳場の一端は水深二尺位から始まつて、他端は八尺位です、即ちゆるい勾配でなだらかに淺瀬から深みへ續く工合です、泳ぎ場は多くは日本の洗場で見るとやうな瀬戸もので出来てゐます。

泳ぎ場の浅い方からは清水が水管にてそ、がれ、深い方からは汚い水が流れるやうにしつらはれてあります、そして又一方から絶えず湯を流しこんで温度を調節します。

泳ぎ場があがつたぐるりには、嚴重に出来てる更衣室が幾十となく竝んでゐます、夫れは丁度日本間の周圍に押入が設けられてあるやうな鹽梅です、更衣室は幅三四尺長一間位、中には腰かけ、衣服帽子かけ、小さな鏡などが備へつけてあります、腰かけのしたには夏でも湯の管が通

専ら男子用の屋外水泳場、天井が無いだけで他は總べて室内水泳場と同形式です。



其三十三 水泳學校

つてゐますから、そこへシャツなんかを載せておきますと暖くてなつて、着る時に大變氣持がい、んです。

更衣室の上が大方は棧敷になつてゐて、多數の觀覽席を設けてあります、子女を監督するために來た父兄なんか、ここに腰をかけて見てゐます。

どんな水泳場にも其處には専屬の水泳教師が居ります、水泳をならひたい人は誰でも其教師に弟子入りするので、すると實に巧な個人教授をやつてくれます。

個人教授一回の授業料は、其教師の腕前に依つて多少の差はありますが、まあ一圓以上ですね、一齊教授になると四分の一に割引せられます、水泳場内にはいるには入場料を出さねばなりません、尤も週に一二度は金に不自由な者の爲に無料入場を許します、又日に依つては減法高い金を拂はせられますがかう云ふ日にはよく／＼の篤志家か金持でなければ

参りませんから、水も清くあたりも静で大變に氣持がようございます。

大きな市街になりますと、いくつも水泳場を持つてゐて、こゝは男子、こゝは女子、こゝは子供など、銘々に特別の用意をしてあります、しかし小さなところでは、たつた一つを、午前は男子、午後は子供、夜は女と云ふ工合に分けてつかつてゐます。夜間天井から降つて来る電燈の光に銀波金波を躍らせて、身も心もふわりと泳いでゐる時は、龍宮城にでも遊んでゐるやうな心地がしますよ。

水泳は體育に必要なものなら、冬もやるがい、とあつて、英國の水泳場は冬も鎖されませぬ。英國には水泳場が多い夫れだけ、泳ぎの出来る人が多うございます、さうですね、今どきの者で「泳げない」と云ふ方に、私はまああひませぬだ、水泳に關する本なども澤山出来てゐます。チャンピオンも大勢ゐます、ドーウアー海峡を泳ぎ切つた方も現に二三名ありました。

私がボードン水泳場で稽古を終つた時、謝恩のために、教師ミスフヒールドに晚餐の案内をしました、すると「私一人……ぢやちと工合が悪いです、若しも私の夫も一所に呼んで下さるなら……」と答へられました、「實は私はミセスパニエンと申しますが、既に家庭を持つたものなら、ろくな教授はすまいと世の中から云はれますので、矢張りもとのミス名を名乗つて信用を落さぬ

やうにしてゐるんです」と内情を打ちあけました、思はず聞いた妙な事情氣の毒に感じました。

限りある力の人間は、限りある仕事にあたる時、始めて成功し得るものです、英國婦人でも誰でも同時に良妻賢母良教師を兼ねて、限り無き仕事を司るのは不成功の基ぢやありませんか？

ボードン市の郊外なるハイドローと云ふホテルへ水泳教師夫妻を招いて、出来るだけもてなしをしました、すると先生の御あいさつはふるつたもの、稽古中私が頭飛込みの時、胸や腹を水面に打ちつけて青くなつた事や、餘り眞下にとび込んで水中風車を演じた事などを材料に散々笑はれました、實にあとではかう笑ひ事ですみますが、其時は死んだかと思ふ程苦しいものでした、苦しかつた夫れだけ思ひ出が壯快です。

英國では、水泳は小學校の必須科目になつてゐます、其外高等女學校でも、中學校でも、甚だ盛にやつてゐます、小學校や高女校、體專校などの水泳競技を私は幾度も見ました。競技の種類は、種々の型で泳ぎくらべをやつた上に、餘興として通例コルクすくひ、錫鍋ひろひ、靴下はき帽子かぶり、上つ張りの着がさね、日傘さし、ポーロー、プロネード等を致します。

沈みゆく錫の鍋を見かけて飛び込み、氷の底から拾つて来るのは容易ぢやございませぬ、浮いてるコルクをすくつて手かごに入れると、動もすれば水にさらはれて無駄奉公になります、帽子

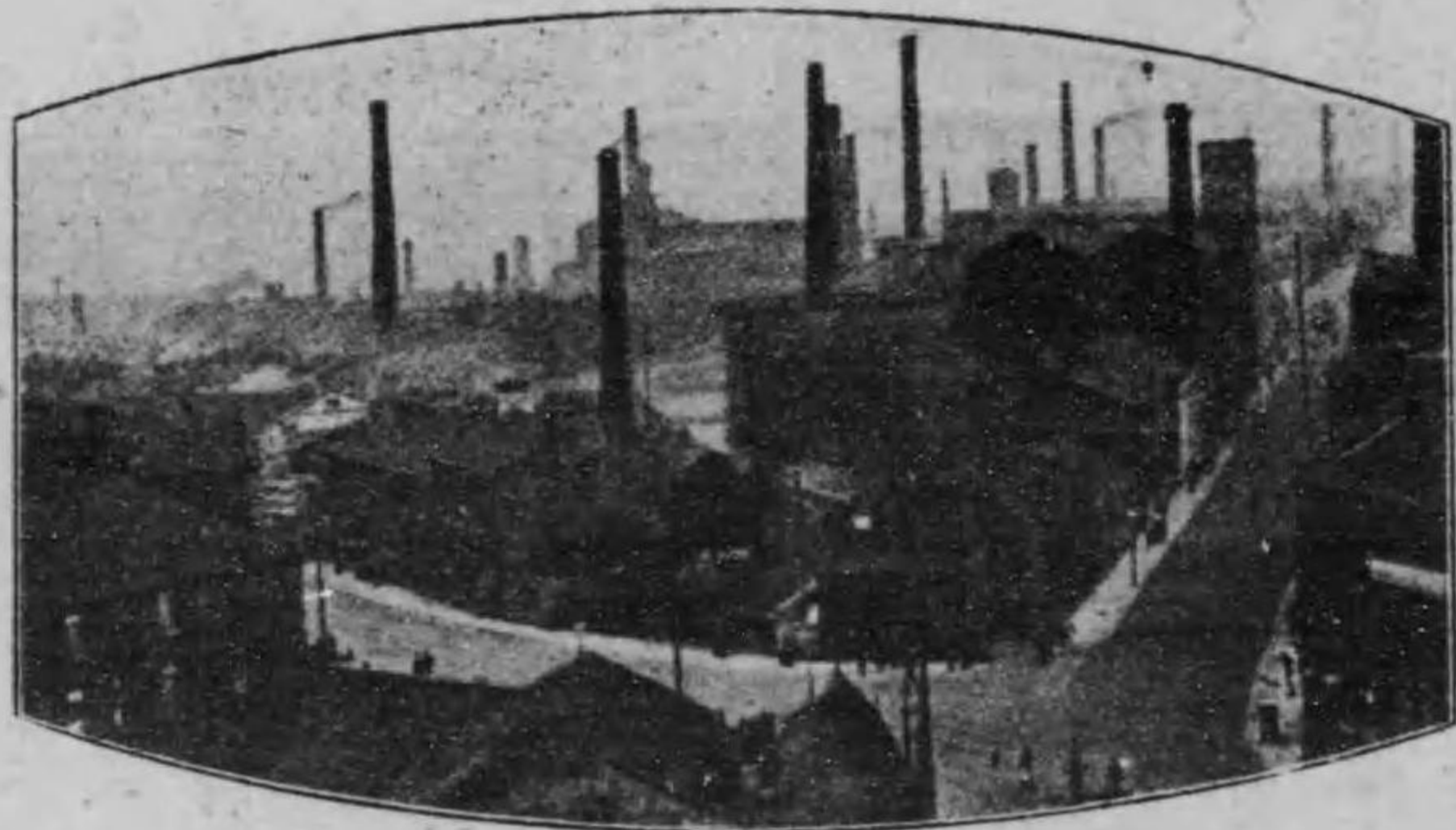
かぶりは割合に樂ですが、靴下は中々はけるもんぢやございませぬ、片手に日傘を捧げ、片手と脚とで泳ぐのは、思つたわりには樂なものです、上つ張り着るのは靴下はきよりはまあやさしいでせう、何にせ背丈の立たない深い水の上での仕事ですから、中々骨が折れます。

邦を出る時、岡田先生にいたゞいた防水布の袋には、しめり氣の多い英國で何に彼と非常なおかけ様にあづかりました、別して水泳服と帽とを入れるにおあつらへ向き、毎日提けては往復致しました、「立派な袋ね」とよく友にほめられました、そして「袋がい、からさう成功が早いんだ」と斷案を下されました、確に夫れもさうでした。

### 其三十四 理想的實業家

マンチエスター市の附近にバーンレーと云ふ町があります、こゝは石炭の産出と木綿の製造とで名高うございます、此町の人と云ふ人は、殆んど悉く之れ等の實業に従事する者で、又建物の主なるものは、之れ亦悉く工場と云つた様な工合です、ですから、此町をあるいて居ますと、丁度煙突の林にでもゐるやうな感じがします、何にせ下からは盛に石炭を掘り出し、上では夫れをもやしてドン／＼製造業をやつてる事として、總べて一種獨特な工業町です、そして朝晝晩と極ま

バーンレー  
町の煙  
突の林



其三十四 理想的實業家

つた時に、工場へ出はいりする何萬と云ふ労働者の群で、路は動きがとれない程混雑致します。

老幼男女入り交つて工場へ行く労働者を見ますと、大方は姿勢が悪く、身長低く、容貌が醜うございます、それでも日本人なんかよりは背も高し姿勢もずつとよろしうございます。途上無帽の男子多く女子は三角に折つた肩掛様のものを頭からかぶつてゐます、何れもなりもふりも顧みぬ労働服に身を堅めて、如何にも忙し相に見えます。

労働者の収入は決して寡いものでは無い相ですが、家庭の基礎の貧弱な中に早くも多くの子女を擧ぐる事と、竝に飲酒其他に錢づかひの荒い事などからして、貯蓄とはなければ一般に難澁な生活をして居ます、従つて乞食立ちん坊が到る處にたゞすみ、又あはれな老人可哀相な子供が街中に大勢居ます。

大きな煙突が町中には百幾本ある相ですが、夫れが悉く朝から晩まで凄しく黒煙を吐いて、日の目も見えぬ煤日和をこしらへます、夫れゆゑ非常に悪い空氣ですが、幸に町の東は實にひろい曠野ですから、人々は其處に行つては肺の掃除を行ふやうに、特に電車が町から曠野へ敷設されてゐます。

大煙突一本の下には、少くも三四百人の人が労働して居ます、其器械運轉の音轟と汽笛のわめきとが、ひつきり無しに町をかき廻して、得も云はぬ騒々しきを感じしめます、しかし日曜は流石はキリスト教國の安息日、煙突も人もみなおやすみ、夢見たやうにひっそりします。

私の一學友は、こゝに住んでゐました、學友の父は工場機械運轉用の給水會社を建て、居りました、私は夏休みしばらくこゝに世話になり、色々と工業町の有様を見物致しました。

一日大きな煙突を持つてる木綿の一製造場へ行きました、此處は學友の父と別懇の間柄なれば私が只だ行きさへすれば丁寧に案内してくれと聞き、一人で参りました、迎へてくれた方は、極く粗末な労働服を着て、折りからの暑さに袖をまくり上げ、顔はすみとあぶら汗とににじんだ甚だ汚い様子の職工です、今迄一所懸命何やら労働して居た風に見受けられます。

此職工に案内せられて第一工場を見ますと、こゝには印度から來た綿の包が丁度米俵のやうに

百許り積んであります、輸送の便宜上、形を小さくする爲めに、綿に濕氣を與へて器械にかけ、出来るだけ壓しつけてあるので、包にさはつてためすと連も綿とは思へぬ硬さ、木材かなんかの様です、此綿を羽車にふれさせては盛にほぐのです、雪は鷲毛と散る以上の壯觀見れども見あかぬ眺です。

第二工場は、此ほどかれたる綿をとろ火にかけて乾すのです、次ぎには乾いた綿をよせ集めて薄い層とし、幅七八寸、長さ百ヤール位のものにして、心棒にまきつけます、次ぎには夫れが半分の幅となり、又其次ぎには半分となると云ふ工合に、漸次幅さが狭められて、つひに一吋位になつた時絲につむぎ出されます。

絲をのべて糊をつける工場、のべだものを機にとりつけて織るところ、之れ亦非常に見事なものです、更に夫れに着色する染工室には、桃色、みどり、などの鮮な色彩が、織り上げたメンネルや天笠木綿に漂うてゐました。

綿から始つて見る／＼中に美しい色の布に變りゆく實際を見て、私は非常に興多く感じました、「そんなに興味を持つならば、三四日はたらいで見ませんか」と案内の職工は申しました、それもいゝ、やつて見ようかしらとも考へましたが、餘りに物ずきだと心づいてやめました、各工場

を見終つた後、主人の室へ案内せられました、どんなに立派だらうとも思はなかつたんですが、兎に角かゝる大工場の主人の室なればと、少し期待してはいつて行くと、二間四方位の實に粗末な部屋、椅子が二三脚と机が一箇あるだけです、固より何等の裝飾もしてありません、只幾十の鍵が壁板に順序よく懸けられてある許りです、之れが二百萬の財産を所有し、三百有餘人の職工をつかひ、日に〳〵多額の輸出木綿を製造するところの主人の部屋かと驚き入りました。

私の驚きは之れのみには止まりませんでした、即ち案内の職工、夫れは實に只の職工では無くても、の主人だつたのです、主人だと分つた時、私は大變びつくりしました、一體大工場の主人なんと云ふものは、自ら其仕事に従事するものでは無いと私は今迄思つてゐました、處が此處の主人は、職工同様な服装で何でも自らやる様子です、案内してる間も私に説明をしながら何でも自分でやりました、分業の工場内で此職工のみは、實に萬能だと氣がつく程、夫れがまた上手なんです、夫れも其筈、機械學、機織學、染色術等を専門に研究した肩書つきの實業家ですもの、自分の工場の仕事が自分に分らないやうなら、主人たる資格はありませんよ」と私を門口に送り出した時申されました。

それからまた私は、實業家と云ふものは、金の無い學生なんかに親切をするものでは無いと思

つてゐました、然るに此處の主人は商賣上何等のやくにもとくにもならない一貧乏學生の私を、實に親切にしかも謙遜な態度で、小半日案内してくれました、「大工場の御主人が御自身で御案内下さるとは實に勿體もない」と謝しましたら、「私は常に自分の生命とする此仕事を、出来るだけ他人に紹介する事を、主人としての職務と心得て居ります」と述べられました。英國が實業國としてえらいのは、かう云ふ實業家があるからだ、私は感歎措く能はざるものがありました。

此後二三日經てから學友とその母と私とで夜の芝居に行きました、途上電車で「夜會に行くところだ」と云ふ此間の工場の主人にあひました、此間はどう見ても勞働者だつたんですが、今宵はどう見ても立派な紳士です、「つかひ分けが巧なもんだ、えらい」と私は益々感服しました。

芝居に夜ふかしをした翌日は、日曜でした、午後は友人と曠野に出かけて盛に散歩を致しました、すると一所懸命に七つ許りの男の子を遊ばせてる此間の工場主にあひました、今日は何處から見ても「い、おとう様」です。

工場に出では職工となり、交際界に出では紳士となり、家にありては父として子供の相手をする此方は、實に理想的男子、理想的實業家だと私は思ひました、「英國の實業家は、皆かうしたものですよ、ですからひとり此ホーソンスエード氏のみを感心しちやいけません」と友は申しまし

サウスボ  
ートの潮  
さし時



た。

### 其三十五 同盟國の小國民

くもりがちなる英國に、之れはまた珍らしくも日の照るサウスボート市、西一帯に沿うてる海の眺めは、別にい、事もありませんが、空気が綺麗なのと、空が晴やかなのと、病人の静養地、労働者の保養地、又は紳士豪商の別宅地としてにぎはつて居ます、それからまた盲人の授産館、孤兒の收容所、貧兒の慰安所など云ふ慈善的場所が甚だ多くございます、清遊に來た労働者の赤ん坊を慈善的にあづかる所も出來てゐます、あづかつた赤ん坊を介抱する婦人方は、皆身分のある人々です、私が参りました時は、丁度貴婦人十人許りが四五人の看護婦をつかつて五十幾人かの幼兒をもりしてゐました、固より場所もよし、食物もよし、夫れに極めてよい

玩具を與へて行き届いた介抱をするのですから、子供のためには申分がありません。可愛い、わが兒を「どうして人手にあづけれやう」と、無理にか、へたり抱いたりして何處へでも連れて出るのは、精神上からも身體上からも、子供に取つて憂ふべき事です、其憂なからしめんとて設けられたる貴婦人方の此慈善的事业は、實にありがたいものではありませぬか。

此市では、大分珍らしいものを見ました、まづ撒水夫が市街の道にまき行く水は桃色の消毒水です、衛生的事業も茲に至つて遺憾なしと感ぜられました。

色々の病人が集つてゐますので、随分妙に身體の不自由な人達を見ました、即ち手の利かない者、足の不自由な人、或は片手片足が用をなさぬもの、又は僅に片足しか役に立たぬ者などが非常に大勢ございます、然し感心な事には之れ等の病人は少しでも手足に利くところがあれば夫れを使つて、豆自動車のやうな恰好した一人車に乗り、自分の氣の向いたま、方々を遊びまはつてゐます、従つて其車にはいろ／＼なものがあります、片手でまはすもの、足で踏むもの、肩で押すもの等、つまり其病人に依つて、其操縦の可能な様にこしらへたものです。

又全然身體の利かないものは、其車を人に操縦してもらひます、之れも多種多様で、押すあり牽くあり、私は寢臺式のもの、長椅子式のもの、又は安樂椅子式のもの、或は乳母車式のものな



んかあります、海岸に出て来る病人の車を、私は、毎日盡きせぬ興味で見ました、又かう云ふ椅子を製造する處へも行つて見ました、「どんなのでも御注文通りに早速こしらへます」と店員は申しました。

「英國の病人は幸だ」と熟々羨みました、どうか日本でもかうした事に依つて、最後迄病人に最善の樂みを與へたいものです、勿論病氣に依つては動かして悪いものもありませうから一概には云へませんけど。

此地の名望家バツテー氏の令嬢が私の上級生でした。

其緣故で私は一日市會議事堂、竝に市役所見物を許されました、丁度一月許り前、兩陛下がここへ行幸啓遊ばしたとかで、其時のにぎはひなどを、市長夫人が面白く話して下さいました、そして兩陛下の御自署遊ばした「市役所訪問人名簿」を示されました、實に驚きました、さう云ふ尊いものを拜んだら目がつぶれると恐れ懼れてゐる日本國民の私は、其名簿を無雜作に目の前に出された時、息がつまる様に覺えました、御自署遊ばした帳簿は、誰でも此處を訪問した方が署名する普通のもの、しかも半年前に新調した今は古い帳簿、前の數十頁には、既に庶民の名が澤山記されてあります、其次ぎのページへ御自署遊ばしてあるとは、うその様な話ぢやありませんか

實際夫れを示された私でさへも、「どうしてまあかう云ふ事があり得るだらう」と見た時も今も思はないわけには参りませぬ、而して私の名をすぐその次ぎへと市長夫人に申されました時、私はあぶなく目をまはしました、如才ない市長夫人は、「陛下の親愛なる日本國……民の……あなたの名が、次ぎのページにある事を若しお聞きになつたら、嗚々御喜び遊ばすでせう」と云はるゝに愈々たまけてしまひました、丁度馬鹿者が態よくなぶらるゝ物語のやう……夢ぢやあるまいかと途方にくれましたがバツテー夫人の口添へもあり、かたぐ止むを得ず、「大日本人……」と私は漢字で書きつけました、思ふも恐懼の至りです。

一日天幕生活の貧兒を訪問致しました、サウスボートの西南の五六町四方は、此種のテントで毎年七、八、九の三ヶ月がにぎはひます、丁度運動會が終つて今しも賞品授與と云ふ時に私は参りました、「是非賞品を渡してくれ」と幹事から頼まれました、私は勇を鼓して壇上に立ちました、かう云ふ時何と挨拶すべきものか、私は存じませぬのだが、たゞ「光榮ある席につく事を謝します」と一言申しました、書記に呼ばれて順々に出て来る男兒は、十二三歳のもの六十人餘り、如何にも貧民らしい容貌です、けれどもみんな男らしくあるいて来て、賞品を受け取ると、「ありがたう日本の御婦人」と云つては舉手の禮をやりました、其様子の可愛いこと、何とも云ひやうが

ありませんでした。

渡し終はると、總勢二百の兒童は、拍手を以て運動會の役員に謝し、併せて私にも謝しました、幹事はやをら立つて、「日本の御婦人に謝するに拍手のみでは足りない、何ぞ日本の事を話して上げるがい、皆さんは日本の事を澤山知つてゐるでせう」と一同に申されました、一同は悄氣ました、何も日本の事は知らないと見えます、幹事は少からずまごつきました、そこでテレかくしに自ら日本の事を語り出しました、「日本は先年東洋平和のために多大の犠牲を拂つて露西亞と戦争しました、よろしいか、皆よう聞きなさい、地圖で見ても分る通り露西亞は大きな國、日本は小さい國、ところが日本は天晴勝つた」と述べると、「知つてます……知つてます」と兒童の二三人は、幹事の問答的演説を遮りました、幹事は満足相に發言を許しました、「日本は世界中で最も武に強い國です、同時に世界中で最も貧乏國です」と、一兒が無邪氣に述べ立てました、武に強いはいが貧乏はちと閉口……私は苦笑を禁じ得なくなりました、あたりの方々もよせばよいのにと餘程困つた風でした、すると氣を利かせた幹事は、すぐ引き取つて、「さう戦をすればどんな金持の國でも貧乏になる、日本は正義の戦のために澤山金をつかつて貧乏になつた、みんなが之れに對する同情を持つならば、他日事を爲すの日、何處の國民に對するよりも先づ日本の國民に對して

より多く利益を分つやうにせねばなるまい」と諭されました。

貧乏には多大に同情のある貧兒等が、目の前に立つてる女の故國が、世界中で一番に貧乏だときいて、一寸悲しい氣分になつた様でした、でも他日利益を願つ事に依つて夫れを救ふ事が出来ると聞かされて、大安心の態、「さうです……さうです」と叫びながら拍手に加ふるに足ぶみを以てしました。噫、頼もしき同盟國の小國民！

こゝを訪問する人は、必ずと云ふわけでもありませんが、まあ多分は何ぞ寄附をする事だ相です、それで私も五十殘銀貨三つを寄附しやうと豫定して參りました、處が愈々となつたらどうしても夫れん許りは出せない心地になつて、五圓金貨の大奮發をやりました、之れは「ありがたう日本の御婦人」と兒童等から舉手せられたからでもあります、又子供等が持つてゐる誠の同情心に感動させられたからでもあります、然し主原因は「貧乏」と云はれた事に對する「みえをはる」に過ぎませぬ、何も彼もよく知つてゐる友人バツテー嬢が「銀貨三つが金貨一つと變つたはどう云ふわけ？」と尋ねられました、「貧乏と云はれてきまりが悪くなつたから」馬鹿な事ね！若し私だつたら『何か寄附する筈だつたけれど、御存じの通り貧乏故、之れだけしか差し上げられませぬ』と云つて三つの豫定を一つにへらすところだつて、そしたら其一つが彼兒等にどんなに

ありがたく思はれるでせう、自分にも二つ儲かるし、實に双方うまい事になるものを、何と云ふ經濟思想が無いんでせう……こんなにあなたが豫算を狂はせて寄附をしたとて貧乏と云ふ相場を變へる事は出来ないぢやありませんか」と説法されました、私はした、か恥ぢ入りました。

英國婦人について感じた事は、實に多うございますが、中でも經濟的思想に富んでる事が一番私を感じさせました、私の友人達は、如何なる場合でも無駄づかひや割りに合はない金ばかりつかひませぬ、何時でも非常な熟慮の結果、金を手放します、停車場で赤帽なんかにやるのはもう二錢ときめてみました、「大きな荷物をしかも三つもたのみながら、たつた二錢とはひどいな」と私は思ひましたが、友人等は一向平氣です、で内しよで私が小さい銀貨をやらうとすると、「馬鹿な散財はおよしなさい」と屹度とめられるのでした。或日の事、郊外散歩に出た時、お茶がはりにビスケットを買ひませうと存じて店にはいりました、晴れがましい大きな菓子屋です、例の如く「二錢で澤山」と同行の友に忠告されて四半斤を買ひました、私はいくら貧乏しても之れまでたつた二錢の買ひものしに大商店にはいつた事はありませぬ、今日と云ふ今日友人も二錢私も二錢二錢のビスケットを大きな顔して買ひました、散歩を終へてうちに歸らうとした時、友も私も未だ少し許りビスケットをあましてみました、「四半斤でさへこれなのに、若しもあなたのするとは

り一斤買つたらどうしたでせう、どつさり残つて邪魔にはなるし、濕つてうまくなはなるし、大損をやつたに違ありませんよ」と友はたしなめ顔に申しました。かう無駄づかひをしない英國婦人は、半面に於いては随分思ひきつた金を投じて慈善事業をやり、サウスポート海濱の天幕事業も其一でした、之はマンチエスター、リヴァプール邊の貧民窟の子女等に、一週間づつ、の樂しき生活を與ふるために、毎年七、八、九の三ヶ月間催されるのです、かくてこゝに來て喜ぶ兒女は一年に平均二千四百五人に上る相です、もう開始以來十年近くになると申しますから、二萬人と云ふ大勢な貧兒を樂しました事になります。

デント生活の一週間は、毎日／＼楽しい事を見事に與へられます、そして特に音楽、圖畫、手工等を課して天才の發見につとめる相です、又性質のよいものにはメダルを與へて、何處へでも人物試験の必要なしに奉公が出来る資格を與へます。

安は由來愛の化神です、ところが此愛が誤つて悪く凝り固まると我が近親の者をのみ愛する様な片意地の狭いものとなります、夫れも單に我が近親を愛するのみなら別に差支は無として、我が近親以外の者は疎外すると云ふ風に陥る事があります、かうなつては最早や惡徳です、此惡徳のはびこる處は甚だ不愉快なものです。夫れにつけてもひとの子而かも貧民の兒女を愛撫する

此英國婦人の博愛事業に、私共日本婦人が是非學ぶべきでありますまいか。

### 其三十六 シエークスピア劇の夏期興行

倫敦市に英國民族舞踏音樂會と云ふものがあります、會長は當代一流の作曲家にして、且つ舞踏學者なるセスイルシャープ氏です、會員は學者あり、實業家あり、軍人あり、醫者あり、すべての階級から大勢出て居ります、無論内外國人の差なく、又老若男女の別なく、誰でも希望に依つて入會する事が出来ます。

此會の目的とする處は、専ら英國民族の舞踏と音樂とを研究して以て、一には民族粹の保存を圖り、又一には其發展を期すると云ふのです、私も會員になりました、會員の義務は、一定の會費を收むる事と、そして週二度研究會に出て實地に研究する事との二です。

隔週に一度必ずおさらへ會と云つたやうな會を催して盛にマリスダンス、スウオードダンス、タムプリンダンス、カントリダンス、フォルクダンスを躍るのでした、又一學期に一回は、大勢の來賓を招いて非常に大げさな夜會を催しました。

一體舞踏や音樂は、文學と密接な關係を有するものです、夫れ故此會では時々民族的文學の講

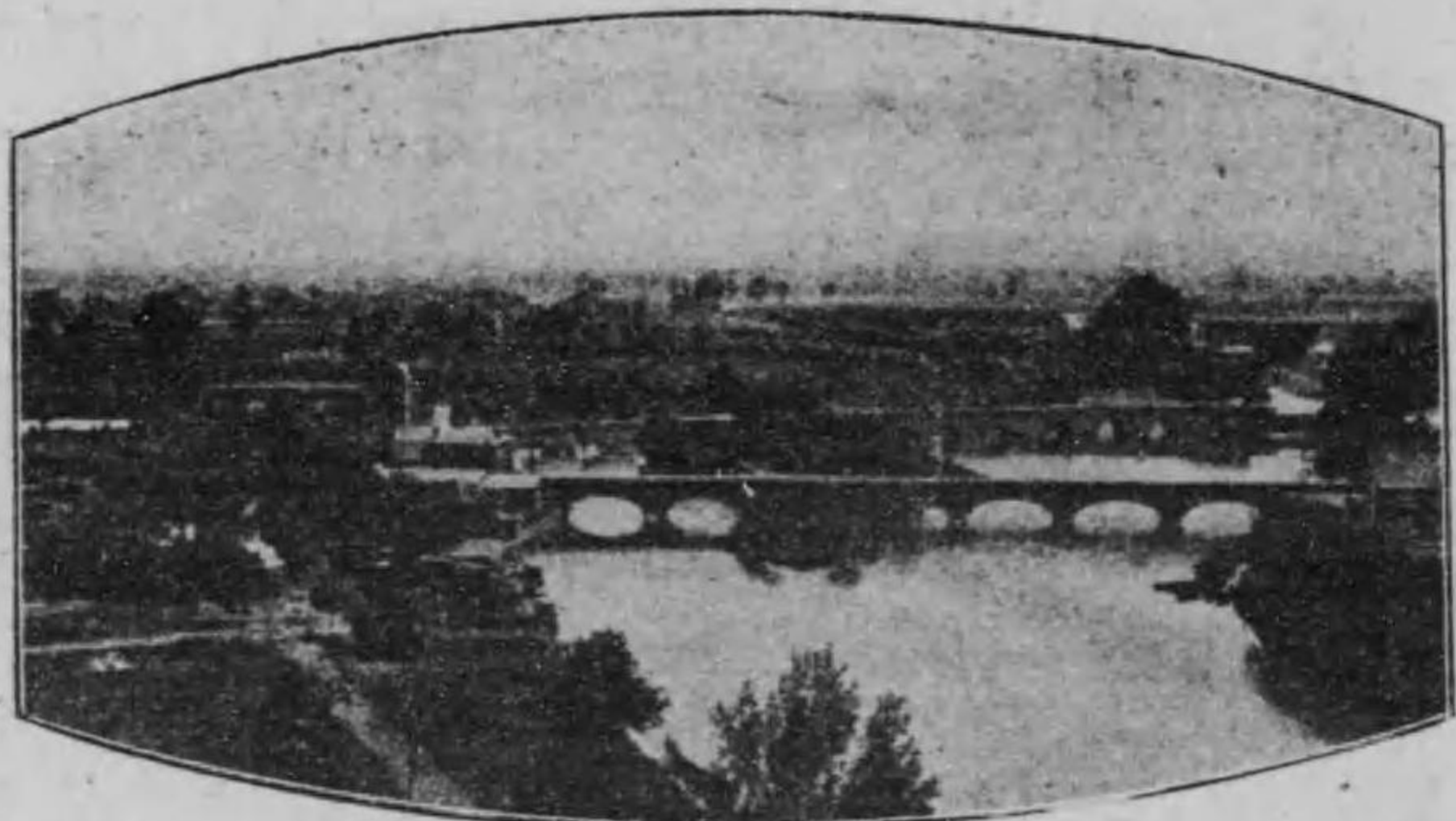
演をもやりました、而して又民族的芝居とも關係を絶つべからざる事からして、演藝をも重んじます。

毎年八月、此會の催しに依つて、英國民族舞踏音樂の研究を主とし、併せてシエークスピア文學の講演を兼ね、竝に芝居と連合した夏期講習會が、シエークスピアの故土なるストラットフォード、オン、アーヴオン町に開かれました。

音樂の講師は、シャープ氏、舞踏の先生は當代の名手五六人、講演は文學博士四人、而して芝居はシエークスピア劇のみを專業として、既に廿年近くも斯界に名をうつつたミスターベントン氏と云ふ役割りです、ベントン氏の令嬢が私の上級生であり、且つ舞踏の講師の一人が私の先生でしたから、私は少からぬ便宜を與へられて、眞夏の一句を非常に楽しく、に暮しました。

講習生は午前音樂舞踏の實地練習をやり晝すぎは講演を聞

シエークスピア記  
念塔から  
見下した  
ストラット  
フォード、  
オン、  
アーヴオ  
ンの郊外



其三十六 シエークスピア劇の夏期興行

き、そして夜は芝居を見るのです、尤も講習生の任意で芝居だけ見てもよし、又講演のみをきいても差支ないのです、又一週間づつ、に區分されてるますから、一週間以上なら、どれだけの日数でもかまひませぬ、其處らは全く自由です。

ストラットフォード、オン、アーヴオンは、田舎町ですが、實にいゝところですが、何にせ此處では歴史を破壊する文明のエネルギーを極力近づけないやうにして居りますので、シエークスピアの生れた家も、學んだ小學校もまたは妻の生家も三百年來そのまゝに保存されてあります、其他何でも昔さびたるもので、「まあ、なつかしい」と、何にも知らぬ外國人さへ懐古の詩興を覺ゆる様な風です。

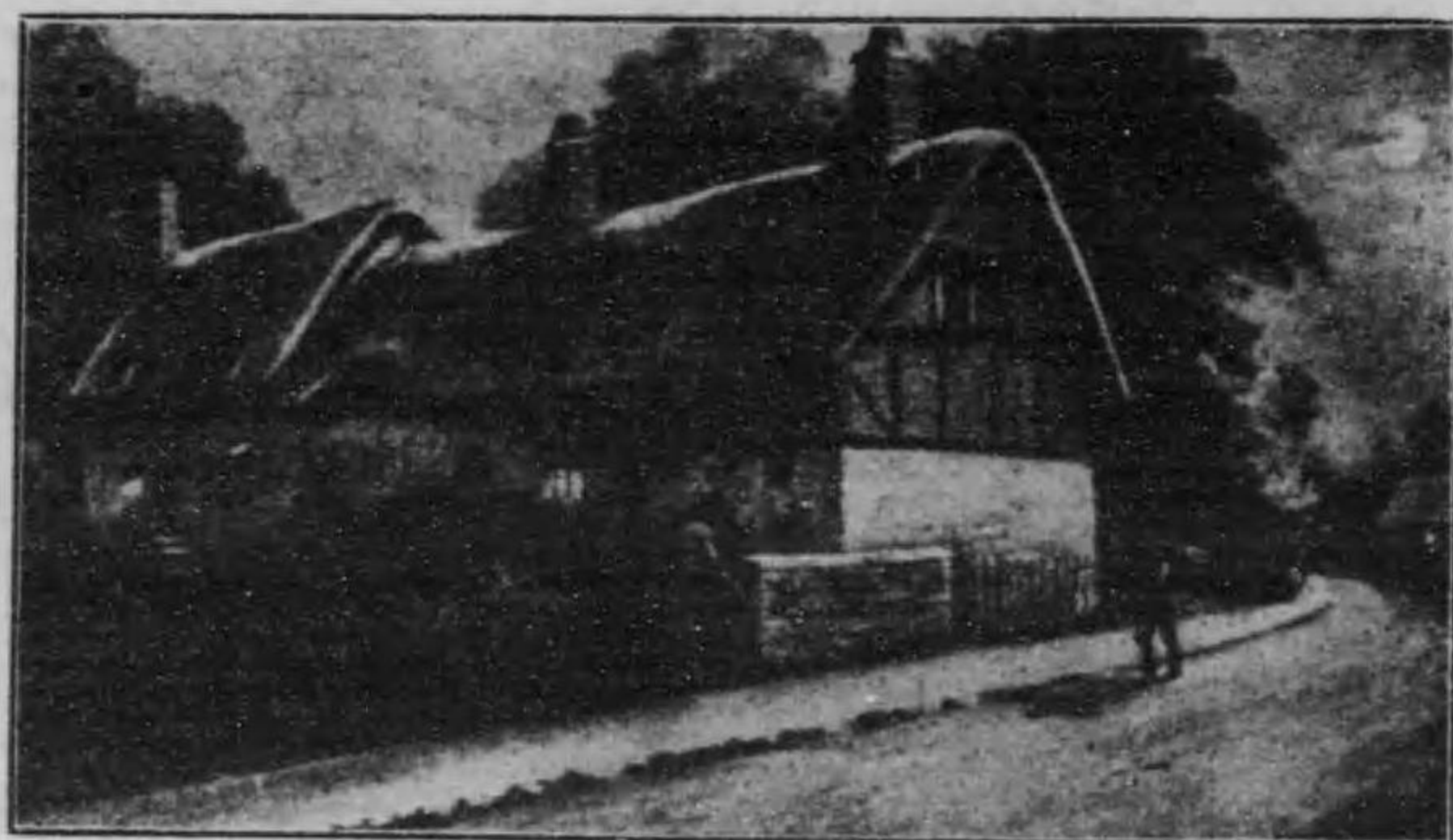
講習はシエークスピア記念館で催します、館は町外れの小川に添うた美しい野原にあります、高い塔が建つてゐました、塔に登つて見れば、市中の眺めは申すに及ばず、其郊外のしんみりと美しい景色は得も云はぬものです。

私の滞在中すべて晴天でした、夫れ故毎日講演が濟むと先生や友人と小川にボートを浮べて、唱ひながらお茶をいただきました、そしていゝ加減涼しくなつた頃、美しい夕映を見ながらシエークスピアの家を訪ねたり、又其妻の生家へ行つたりしました、シエークスピアの家から妻の家

へ行く路がまた實に詩的なところです、先生や友人は此路を唱はずに通つた事はありませぬ、そして「其昔シエークスピア夫妻は此路を如何に楽しくあるいたであらう」など、云ひ出す者もありました。

私はまた時々シエークスピアが眠つてるチャーチに行き、人しづかなる木蔭に腰かけて本を読みました、私なんか無論むづかしいものは読ませぬ、ラムの譯本位がまあ關の山です、嘗て學生時代に此本で散々苦しみました、苦しんだのは私許りでもない様です、卒業して間もなく一友が、「語る人まれなる田舎に赴任したる私は學生時代のものなどを手當り次第に引ッ張り出して見たり、いぢくつたりして僅かに慰み居り候、但し英語の本は見ると苦し思ふもつらし焼きすてばやと存じ候」と云ふ手紙を寄せられました、私とても其通り、「英語でこんなむづかしいものなら知らなくてもいゝ」と思つて學校を出ました、し

シエーク  
スピアの  
妻の生家  
月清き夜  
の景



かし其後間もなく力相應のもので研究するなら、英語はちつともむづかしいものではないと云ふ事が分りました、夫れ故むづかしい教科書なんかはすつかりすて、数多くのやさしい本から一所懸命にやりました、かくて一昔ぶりで再びラムの本をしかもシェークスピアの墓地でひもどいた時實に感慨無量でした。

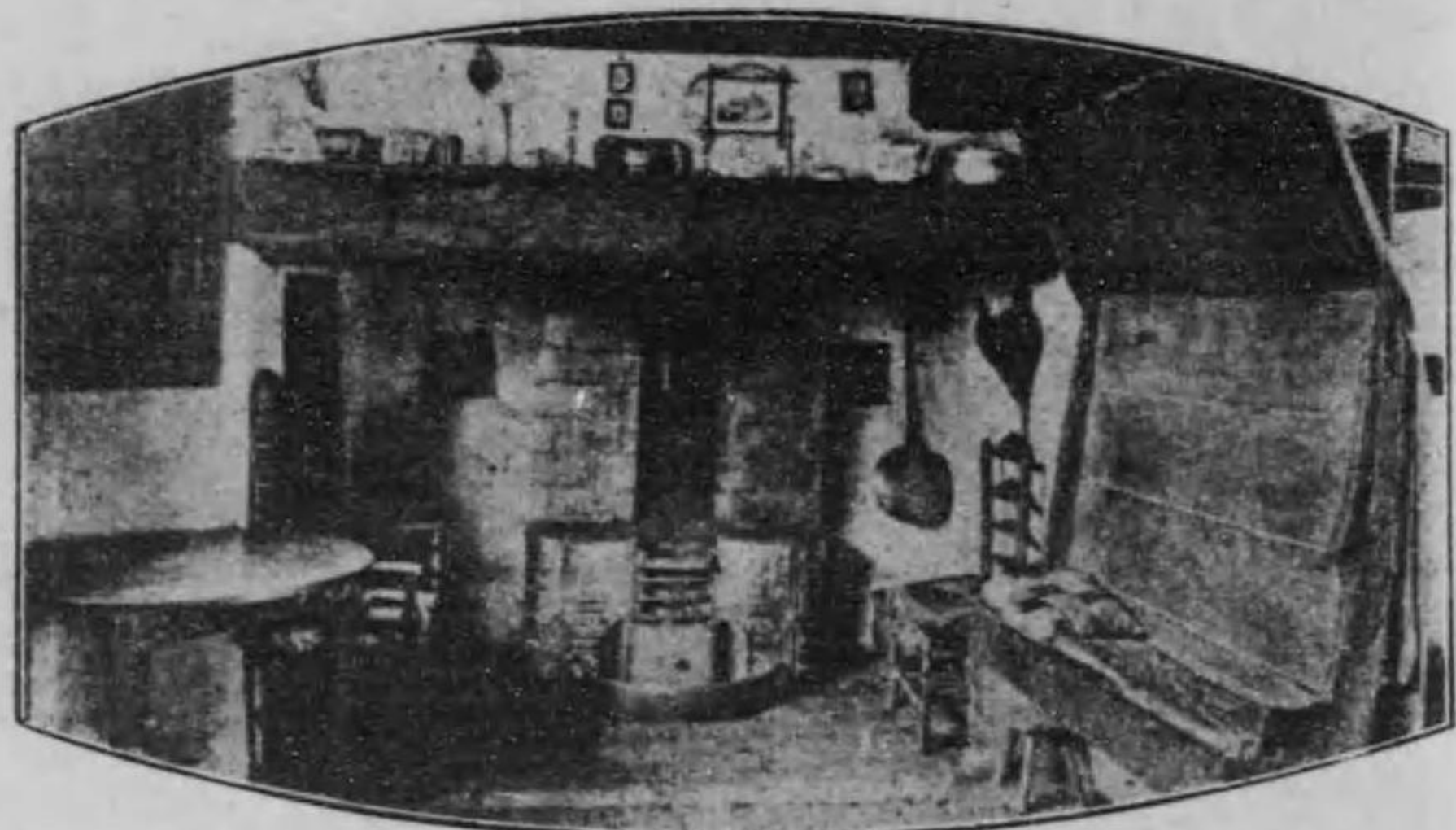
芝居ではかねてより見たいと希つてゐたロメオジリエット、テムベスト、ミッドサンマーナイ トドリームなどを見て大に満足いたしました。

旬日の後こ、を辭し去る時財布は餘程軽くなりました、しかし「もう死んでもいい」と思ふ程何から何まで實に高尚なる愉快を極め、甚だ幸福なる經驗を致しました。

此會からの獲ものは澤山ございますが、思ひ設けぬ其一は、實に「英國民族の舞踏音楽に貴賤上下の別なし」と云ふ状態を實際的に知つたことです。

いやしくも英國民族が作り出した歌舞は、すべて英國民族魂の粹の發揮として自から之れを尊重し、かくて人に示し世に誇り、而して之れに依つて以て國民魂の涵養をはかると共に、國粹の保存を行つて居ります、決して我々日本人のやうに之は外國人には見せられないの、大びらでは聞かれないのと云ふ様な秘密舞踏や秘密音楽はありませぬ、之はとりもなほさず、趣味の高尚な

シェークスピアの妻が生れた家の内部、度々ここにシェークスピアが訪ねて来たので申す事



其三十六 シェークスピア劇の夏期興行

文明國民族である事を證據立つるものであるかと存じます。

而して其材料も種類も形式も上は王公貴人より、下は一般庶民に至るまで、大抵同一です、之れは藝者の踊である、之れは學生のであるなんと云ふやうな區別はありませぬ、もと藝人も學生も農夫も役人も苟くも英國人たる以上、英國民族の歌舞を以て獨特なる國民趣味に生きねばならぬものと心得てゐます實に羨しい民族的團結ではありませぬか。

かく英國民の誰にも共通な民族的歌舞ですから、幼稚園では附き添のお婆さんやお女中が子供に和してうたひはやします、又芝居などでも往々舞臺上の俳優の舞踏につれて観客一同うたうて居ります、又體専校教室内でやる女學生の舞踏も牧場や畑で躍る田舎娘のも同じものです、かくてこそ本當に血を分けた一つ民族だと云ふ感じがします。

ところが日本では此邊の分業甚しく一向に共通的の國民族歌

シエーク  
スビヤが  
子供の時  
通つた小  
學校



舞を待ちませぬ、日本はもと武の國です、そこで専ら武士が尊  
まれ、武術がもてはやされ、而して歌舞は遊藝なる名のもとに  
下賤の者の手に委ねられました、どんなに美しい花でも泥だら  
けにされては矢張り汚くならざるを得ませぬ、かの大和民族粹  
の發揮として最も美しき舞踏や音楽は、長い事暗黒界に委棄せ  
られましたので、今や人に見せる事も出来なければ、又世には  
こる事も叶はぬけがれた状態のものとなりました。

外國から觀光團でもあると、何時も「日本の踊りを見せる」  
「見せてはならない」と云ふ内輪もめが起るやうですが、これ  
は實に外聞の悪い事です、一體見せてならないものならば斷然  
とつぶしてしまふべきです、然るに内實は何のつぶすどころか  
二席千金を投じて之れを觀賞してゐます、誠に奇態の事柄では  
ありませぬか、實に日本國民は此邊に對する自覺をする事目下  
の急務です。

遅緩なる行動は、すべて下等動物の特徴であると考へてゐる英國人は、第一云ふ事が早くてあるく  
事がまた早うございます、固より仕事も早く成功も早いやうです、かう云ふ國の芝居でやる俳優  
のしぐさがまた實に早いものです。

「こゝのところをどんなにやるだらう」とドラマの處々で、特に氣をひかれる様な場合でも、う  
っかりすると見おとす程早くやつてのけます、政岡のま、炊きのやうな悠長は連も外國の舞臺で  
は見られぬ圖です。

何でも昔のまゝの状態に歩をとめやうとしてゐるストラットフォード、オン、アーヴオンで毎夜極  
めて進行の早い芝居のしぐさを見るのが實に不調和なやうにも思はれました、然し此不調和が非  
常なる興味を感じさせました。

### 其三十七 盲人學校のマツサージ術

盲人學校を随分澤山見ました、讀書・填字法・手工・音樂・體操・算術・タイプライト・博物・地理・歴  
史等の課業も參觀致しました、目あきの教授よりは、研究材料が餘程多うございます、従つて趣  
味も亦多いものです、其かはり教授者は特別の方便と多大なる努力とを致さねばなりません。

は別して盲人の體操を見學致しました、英國の盲人は、スケート・舞踏・自轉車・水泳・馬とびなど大抵のものをやります、そしてあるものなんかは、日本の目あきの青年が逆も及ぶまいと思はる程上手にやります、視覚の無い人にやらせる體操ですから、固より萬事特別の設備をせねばならないんですが、何處でも夫れ等の事が遺憾なく出來てゐました。

これらの學校で全く見られないのは、實に按摩術でした、英國では按摩術は、醫療體操の一種である、其技をよくせんには、先づ生理解剖學を知らねばならず、又診斷學を心得ねばならぬとてあります、「あなたの國では、盲人の按摩が昔から大勢ある相ですが、どうして生理解剖や診斷學を御教授になるんですか」と到るところで私はきかれました、そして「私共はよう夫れ等を教へませんから、盲人の按摩をつくる事は出來ませぬ」と多くの人は申しました、また「立派な目あきの按摩師が大勢ある今日、盲人の按摩をこしらへるのは考へものです、何でも盲人には目あきと競争する必要のない所謂盲人獨特の職業を授けねばなりません」と云ふ方もありました。之れ等の見聞について何心なく私は日本へ書いた事があります、とにろが「そんな筈は無い、現に何々……の諸學校で盛に按摩を教へてる、そして大勢の盲人按摩師が活動してゐる相な」と御注意を受けました。

夫れから早速何々の諸學校へ手紙を出したり、行つて見たり致しましたが、すべて雲をつかむやう、一向にわけの分らない目を見ました。

其一を申しますと

「倫敦盲人マツサージ學校」と云ふのをやう／＼に探して行つて見ますと、裏町の小さな一民家です、書記と稱する一婦人が居りました、「盲人マツサージ師を御養成になるんですか」と問ひましたら、「否盲人マツサージ施術所です」と答へられました、「一體盲人マツサージ師は、何人程お出でになりますか」「すべて、百人許りあります、此百人が英國は勿論、世界中に渡つて花々しく活動してをります」「其百人は何處で御研究になつたのですか」「此處で、實は以前こゝで盲人ドクトルフリツチャルが非常な熱心を持つて殆んど二十年間盲人にマツサージを教へられました處が八年前他界せられました、後其遺業をつぐ方が無い爲めに、學校の株はロンドンマツサージ學校に譲り、こゝは閉校してしまつた次第です」では、私盲人マツサージの施術を願ひたい存じます」「只今生憎皆他出中です、目あきの婦人マツサージ師なら直に施術が出來ます」「私は特に盲人マツサージを希望する者です、就いては何時か御在宅の時にませう」「中々うまく時の都合がつかみませんので、私から御約束を申し上げる事は出來ませぬ、之れから猶ほしばらく問答を重ね



ましたが、どうしても盲人マツサージ師に施術をしてもらふ事もあふ事も不可能です、或は盲人マツサージ師なるものが、實は居ないのであるまいかとさへ思はれました。

次にロンドンマツサージ學校へ行きました。「盲人の學生は大勢あつたが、丁度前週卒業してしまひました」と校長は申されました。

前週出たと云ふ人々中の誰れかにあつて見たいと、私は百方苦心を致し、少からぬ金と努力とを費しましたが、すべて日本の幽霊の足をさがすやうなものでした。又マンチエスターの盲人學校でも、今學期はマツサージを設けてない、盲人のマツサージ師を紹介する事は出来ない」と申して参りました。日本から盲人學生が行つたロンドンの盲人師範學校でも、「マツサージは設けた事がない、設けやうとは思ひもよらない、設けてる學校を見た事も無い」と校長夫人が云はれました。



盲人學校  
生徒の竹  
馬競争

かう云ふ工合なのに、どうして日本では「そんな筈がない」と云はれるのでせう、夫れは多分學校の規則書、又は生徒募集の廣告のみを御覽になつての話ぢやありませんまいか？

金のあるやうな生徒を大勢入學させんためには、どんな手段をでも講ずる各種の小私立學校が英國には可なり澤山あります、競技のチャンピオンと菜食主義とを以て、社會の低い處を騒がせてゐるさる文學士殿は、盛に菜食體育學校の廣告を出して居ました、之れは珍しいと思つて私が一所懸命に行つて見ますと、菜食の大きな飲食店がありました、學校も教師も生徒も例の幽霊の足です。かう云ふ方面に明るい一友人に此事を話したら、「そんなのは生徒のよいのが手にはいつた時、個人的教授で以てたんと金を儲けるのでせう」と云ひました。

日本人を羨しがらせたミユラー先生の空氣浴體操學校は、天井をぬいた屋根裏の六疊じきなのです、書記が一人、教師が一人、校長が一人、生徒は何人あるのか幾度も出入しましたけど、私は其一人をも見た事がありませぬ。又一寸した舞踏學校を持つてる某夫人は、大變に立派な體操專門學校の廣告を私に呉れました、そして「若しも私の體專校へ入學するならば、完全なる成功を得しむべし」と云はれました、之れは特に私一人のためにかうした廣告をこしらへて、私一人のみおくれたものと知れました。かう云ふ事は單に體育界にあるのみぢやありません。

かゝる事情から察すれば、日本より盲人留學生をとるには、何でも按摩術の科目を必要とすと考へ、特に日本における規則書を夫れに適する様にこしらへ上げまいものでもありません。

### 其三十八 英國婦人の意氣込み

エデンバラ―滞在中の一日、私は女權擴張論者エルダー夫人の講演を伺ひに参りました。「如何にしてよりよき男子をつくるべきか」と云ふ題です。

如何にしてよりよき婦人をつくるべきかの問題で全く忙殺され、他の何ものにも手を出す餘裕の無い日本婦人の私は、先づ此題目に驚きました。「かくて男子側を左右せんとする英國婦人は實にえらい、流星は……」とした、か感心致しました。

又一面から云へば、何て意氣地の無い英國男子、かうまで婦人の材料にされてるのかしらとも思ひました。外の事はいざ知らず、婦人對男子の問題では、頗る度々英國男子は意氣地がないと私は感じました、ある日さる體専校のドクトルが、日本婦人は「たまつき」をやるかと問はれました、男子には行ふものもあれど、女子は未だですと私が答へましたら、傍に居た女體操教師は「夫れは不思議な現象なり、英國ではすべて何事でも女が先きにやります、すると男が後からぞ

ろぞろくつついて來ます」と申されました、男子を現在前においてこんな事をよく云ふもんだと私はあきれてきいてゐますと、「さうです……さうですとも眞に」とドクトルは謹んで之れを承認しました。「お、いやな意氣地なし、こんな男子が日本にゐないで結構だ」と存じました。今また如何にして男子を云々の聲を女子の口から聞かうとするに當つて、實は「よせばい、のに」と心ひそかに氣恥しい思を致しました。

エルダー夫人は、五十恰好の實に氣高い方です、お顔はまるで少女のやうですが、多い縮れたお髪は雪白、ようもこんなに眞白い毛があるものかなと見上げました、四十分間原稿紙を持つて朗讀演説をやられました、綺麗な發音、耳ざはりのよいお聲、さながら、なだらかに流る、大河のやう、せかず激せず、しかも無限の方をのせて平靜に説き去り説き來る状態は、かの喜怒哀樂すべてから超越して只聖くうたひ上ぐるタゴール翁のやうだと今にして思ひあたります。

「男子から猛烈なる野獸性を取り除かねばならぬ、之れさへ取り除けば、忽ちよりよき男子が出来るのである、然し之れを除かんとするには、世界に於いて最も靈妙なる權威を有するところの婦人の純潔なる愛……夫れに訴ふるより外に策はない」と云ふのが演説の旨趣でした、此の如く女らしい立派な説を女權擴張運動者から聞き得べしとは今の今まで私の想像しなかつた事です。

實に私は夫人の説に感激しました。

夫人はあまりに世を歎き人を憂ひて頭をつかつた爲めに、疾くより聴覺を失はれました、白髪も夫れ等の關係から來てゐるのだ相です、かうした大家が原稿なんか見なくつたつて話せるだらうにと同行の一友に申しますと、「一言一句に對する責任を重んずるため、竝に話半ばに豫期せぬ興奮に陥る事を避くるために如何なる時でも原稿を讀まれるのである」と友は説明してくれました、私は夫人に對して感激の度を高めました。

「ひと様に失禮ですから」と云ふ理由のもとに、耳の聞えない婦人なんかは若くても力があつても、さつさと世の中よりひつ込むが禮ときめてゐる日本婦人界は、こゝ一番三省するの必要があらうかと存じます、いやしくも己と云ふもの、何ものか世の中に役立つ上は、死ぬまで夫れを役立たせねばなりません、即ち耳がいけなくなつたら口で、口が利けなくなつたら手で、手が不自由になつたら足で、足が動かさなくなつたら頭で、最善の努力を常に諸方面に試みねばなりません。

耳のきこえぬエルダー夫人の活動は、實に尊いものではありませんか、希くは此意氣込を我が國婦人界に流布したいものです。

私は一生涯中決して「相済みませぬ」とか「御めんさい」とか云ふことわりを、人に云はない主義だと唱ふる英國婦人の多くにあひました、えらいなと私は思ひました、一日此種の一婦人が、街路で一少年と自轉車の衝突をやりました、どんなにひいき目に見ても婦人がわるいのです、いくら主義でも之れにはことわり云はねばなると見てると、「お前が悪い」の一點張りです、少年をあやまらせました、之れはひどい、之れぢやちつともえらい主義ぢや無い、私はまた一生ことわり云はぬやうな立派な事許りすると云ふ意味かと解釋したら、何のこつたと馬鹿らしくなりました。

大勢の中には、ほんとにことわり云はずに世を渡れるやうなえらい方もありましたが、大部は己のあやまちをあやまちとせぬ不徳のものでした。人間ですもの、時にはことわり云はねばならぬ事もあるでせう、過つては改むるに憚る勿れ、妙な意氣地を立て、己を惡徳に陥る、様な意氣込をまちがつても日本婦人は持つてはなりません。

私が英國に行つた許りの事でした、友人につれられて靴屋へ行きました、椅子へ腰をおろしますと立派な紳士がひざまづいて私の靴のひもとかうとしました、私は殆んど無意識的に「勿體もないおよしなさい」と制止しました、紳士は大變恐縮してどきました、私は自分で靴をといひす

良妻賢母  
たるの資  
格を得ん  
として盛  
に運動を  
行つて  
英國體育  
校の生徒



足掛四年

法をとつてもらひました、歸途友人は「先き程靴屋の主人は何か無禮な事でもしたのですか」と心配相に尋ねました、「いえ」なぜひもを解かせなかつたんです」男子に女子が……よしんば靴屋にせよ、ひもをとさせる事は日本婦人として、出来なかつたのです」ではあなたのあの行動はあの男子を尊重したんですか「無論」處があればひどい侮辱ですよ、すべて女子が男子を尊重するには、男子をして其職分とするところを十分に盡くさせるやうにする事です」な……る程、しかし此意氣込は到底私に宿つて用をなすべき性質のものではありませぬ。

靴屋の主人に靴をはかせてもらふのは別問題として、途ななかで女が突ツ立つたま、男子に靴のひもを結ばせるのは、どうしたつて感心が出来ませぬ、結ばせる者も結ばせる者、結ぶ者も結ぶ者と私は少からぬ憤慨を致して居りました、と

ころが之れは事情止むを得ぬものだとなりました、即ちコーセットを纏ひますとか、む事が樂ちやございませぬ、夫れ故男子は弱い者を助けると云ふ男兒の意氣で結んでやると云ふわけなんです。ですから、之れのみは大目に見てやらねばなりませんまい。

私の知つてる英國女學生は、殆んど悉く、良妻賢母となり一家の女王たらん事を一生の理想としてゐます、而して一家の女王たらんとするには、先づ一個の完全なる人間たらざるべからず、完全なる人間としては實に其知識と道德と身體とを十分に發展せしめねばならぬと云ふ考からして大に教育を受けます、間違つても單に美貌と妙齡とのみを以て妻の資格とは心得ませぬ。

わが國女子多くは自己の完全と不完全とは敢て問ふところに非らず、只從來の習慣に盲從してうかくと人間の重大任務に當るやうですが、之れは男も、女も、等しく大に考へねばなりません、先づよく發展した上でと意氣込んでゐる英國女學生の氣分をどうしてもわが女學生界に注入せねばなりません、かくて妙齡過ぎ美貌衰へても衰ふる事なき妻の資格を持たせねばなりません。

英國の家庭は中々金がかゝります、其金が自由につかへない様なら、始めから家庭は持たぬに若かずとして、家庭をなさぬ男女が中々多くございます、物質は問ふところに非ずなんかんと云せ哲人ぶるのが日本人の常ですけど、物質は無くてならぬ大事なものです、無論物質のみを云々

するのではありませぬが、物質を全く度外視する事は出来ませぬ、物質を度外視した結果は、多くは悲惨に陥ります。英國の家庭では、子供が一人ふえる毎に、それだけ主人から主婦の手に渡さる、金が多くなるのだ相です、日本の家庭では、一人でも十圓、五人になつても矢張り十圓、だから主婦が泣かねばなりません、以後はよろしく一人の時は十圓、二人になつたら二十圓、五人にふえたら五十圓と云ふやうに家庭の費用を増加し得る意氣込を男女共に持つた上で家庭の人とならねばなりません。

去る停車場で、學友五六輩と落ち合ひました、そこへ丁度かねて徳望の高いダーレンスの牧師が新婚の花嫁を連れて來られました、「まあ牧師さんの顔のしわがふえた事、妻君への奉仕ですつかり減入りこんでる」と學生方は申しました、英國の妻君は餘程夫に煩ひをかけるものと見え、新婚の夫の顔にしわをまさせる程夫を煩す如き意氣込みは、我が日本婦人にあつてはなりません。

「男子に頼んだり禮を云つたりするもんぢやありませんよ、婦人の權威を辱しめるから」と、よく私は英國婦人に注意されました、英國の或種の婦人は、男子に靴の紐を結んでもらつたつても「ありがたう」と禮を申しませぬ、「彼は彼のなすべき事をなした迄です、よろしく女子に向つて

其機會を與へられた事を謝さねばなりません」と云つてゐました、實にあさましいものぢやありませんか、ですから、従つて「頼む」と云ふ事をしませぬ、只「靴のひもが解けた」と云つた風に報告するだけです、何でも此式で以て自動車に乗りたいた時には「足がだるい」と叫び、御馳走がほしい時は、「おなかゝ空いた」とやるのだ相です、男子は此報告に對する満足を與ふべく、最善の奉仕を試みねばならぬのです、いくら最善の努力を致しても報告を受けて後にやるやうな男子は、信頼するに足らないんだ相です、此筆法でいぢめられるのですもの、顔にしわのふえるのも無理はありませんよ。

日本では丁度これとアベコベ、男子に對して女子が、常にかくあらねばなりません、強い男でさへもかう顔にしわよるやつれを覺えるんですから、況して弱い女は倒れざるを得ませぬ、だから日本の女は早死する者が多いんですよ！女の早死は國民の大不幸、妻の早死は夫の半生を生きながら葬り、母の早死は多くは子女を生きながら地獄に陥れます、而してま、不良なる子女を世に残します、ですから女は早く死んではなりません、早く死なぬと云ふ意氣込を日本婦人が持つ前に先づ日本男子をして「早く殺してはならぬ」と意氣込ませねばなりません。

### 其三十九 學校めぐり

五大専門學校を始め多くの小さい體專校を夫れから夫れと見めぐれば、皆夫れ相應に獨特の妙味があつて、實に學ぶ處が多うございます、今其あらましを申し上げませう。

認可學校の一なるベットフォード市のスタンスフールド體專校は英國第一の體操場を持つてゐます、百人が課業を受け得る程の廣さで、天井は高し床は美し、採光通風最も宜しく、加ふるに器械のすゑつけ亦理想的です。

私が参りました時、丁度新築落成後一年になるとの事でした、其費用は六萬五千圓、割りに安直です、此金はミスタンスフールドが、三十幾年の間體操教師としてはたらいで得たものです、雜誌の原稿料、著書の印税、講演や講習の謝禮などの不時の収入と、一定の俸給、竝に自分の學校からあがる収入とを悉く貯蓄した結果、三十年の後になつて此理想的體操場が出来上りましたのです、實に羨しいと思ひました。三十幾年を體操教師として盡瘁して來た校長は最早や六十に間がありません、打ち見たところ矢張り年相應の年寄に見えます、しかし其頑丈な身體と絶倫なる精力とは壯者を凌いでゐます、而して驚くべきは六十の今日になつても、毎日八時間づゝ自ら教

スタンス  
フールド  
體專校の  
正面



其三十九 學校めぐり

育的體操を教授してゐる事です、即ち自分の學校の二組に一時間づゝ、教へて、更に市立の高等女學校に出勤して三十分づゝ、十二組に教へられます。

あたり前なら六十と云ふ年に減入つて體操教師をやめる頃なるに、自ら任じてかく斯界に立つとは！ 實に其熱心と勇氣と腕前とに、殆んど云ひあらはす文字の無い程、私は感心致しました。

體操場で三四時間はたらけば、若い者でもぐつたりするのに、六十の身を持つて八時間の授業とは驚くぢやありませんか、「どうしてそんなに精力盛なんぞでせう」と不思議がりましたら、「活動の秘訣は養生にあり、私はなみの人の幾倍の養生を致します」と申されました、「どうした養生をなさるのでせう」と立ち入つて伺へば、「授業の八時間内は決して餘計な者に面會せず、雑談を交へず、事務を執らず、而して授業のあひま

は静養室で只管休息を試みます、静養室には弟子が居つて或は牛乳、果實、ビスケット、コーヒーなんかをす、めたり、マツサージを施したり、面白い本を讀みかかせたり致します、夫れゆゑ一時間毎に其疲勞が恢復されますから、八時間だつてわけはありませぬ」と申されました。

此方の授業は、實に活潑なものです、時とすると活潑すぎて亂暴らしくなる事もあつた様ではありますが、六十の白髪のお婆が自ら模範を示して頗る熱心なる體操教授を行はる、時、懦夫をして奮起せしむるの概があります、況して教へられてる生徒の眞剣さ加減は非常なものです、何にせマダムオスタバツクの數ある弟子中、此方が最も尤物な相ですから、えらいのも無理はありません。

私は此學校にしばらく滞在して得難い教訓の數々を得ました、其頃は丁度ドイツが英國封鎖を宣言して盛に潛航艇の活動を開始した折でしたから、寄宿舎では高價な肉食を廢して成るだけ英國内に出来る蔬菜でまかなつてゐました、夫れ故珍しい蔬菜料理を色々味ふ事が出来て、私には至極結構でした。

スタンスフヘルドはまた憂國の女丈夫としてその筋に知られてる方な相です、戦争が始まるとすぐに、校内の醫療體操教場を市に提供して義勇兵營にあてられました、私が参りました時、

アンステ  
體專校  
の正面



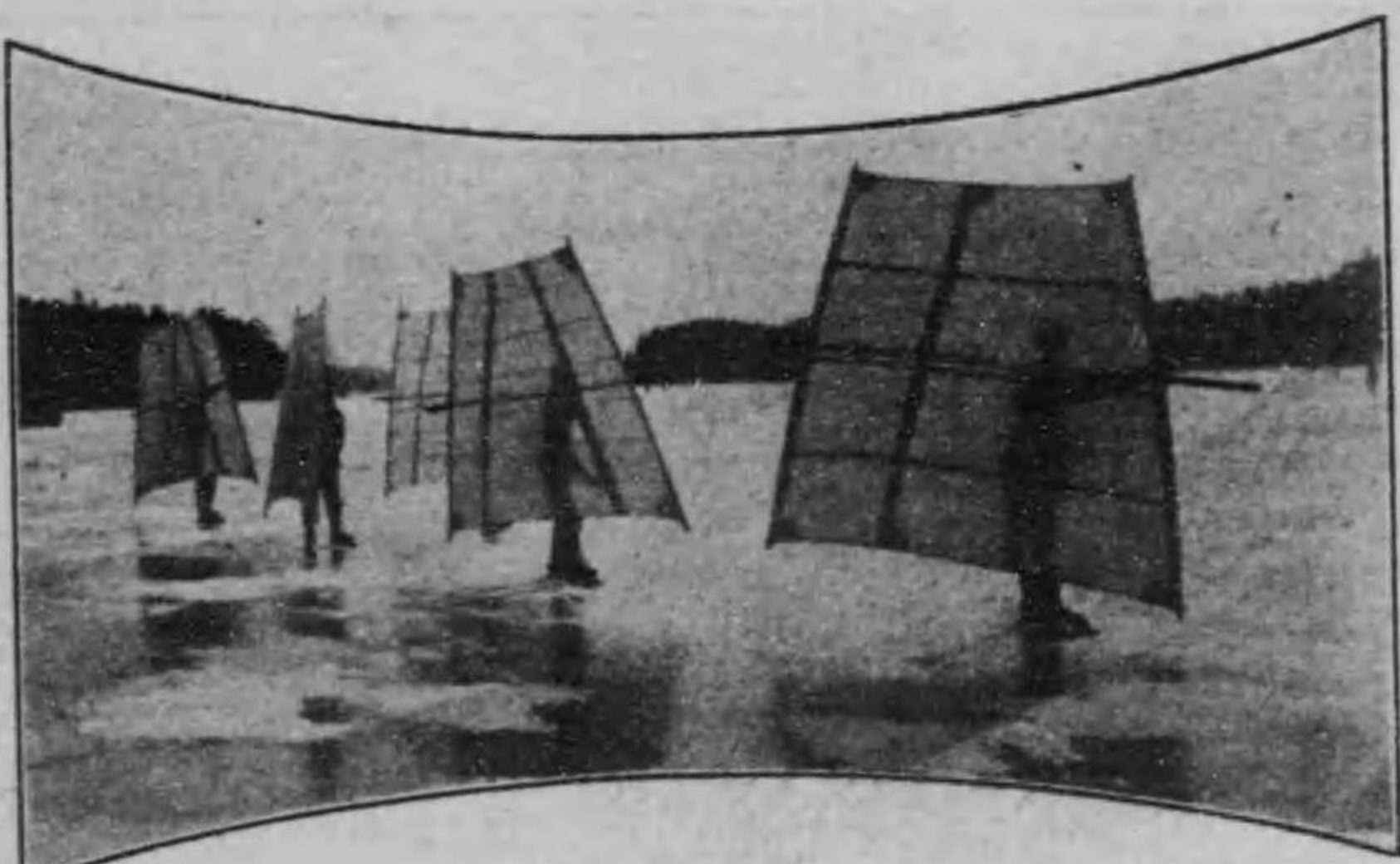
其三十九 學校めぐり

「二週前に此處から二十人の義勇兵が出征しました、二三日中にはまたはいつて來ます」などと、話されてゐましたが、其二三日後に早くも彼二十人中三人の戦死者が出来ました、校長の悲しみはよその見る目も氣の毒でした。

次に矢張り認可學校の一なるバーミンガム市のミスターステイ體專校に行きました、校長はスタンスフヘルドの後輩者として、マダムオスタバツクの弟子として、名のうれた方です、建康上とうから實地授業にはあたらないで、只校長の位置に盡瘁して居られました、年の頃五十には未だ間があるらしい温厚な方です。

此學校のすべてはキングスフールド校を小さくした様なものです、外形内容ともよくキ校に似てゐました、此處で他校と異なるものは、幼児の哺育を生徒にやらせる事です、「體育は生れ落ちた時から行はねばならぬ」と云ふ主義の下に、孤

スコットランド男子が追風に乗じ帆をかいてスケートを  
行ふところ



金が無いために見すゝ理想のにぎりつぶしをやつて世の中に、ダムフハーミリン體専校許

兒院から二つと三つになる二女兒を連れて来て學校で育て、  
ました、専門の看護婦に監督せられながら、各生徒はまはり番  
に此子供の食物、運動、衣服、睡眠等を實地に試みてゐました、  
實にい、事だと思ひました、「強いて私に抱負を云へと仰有るな  
ら、夫は良妻賢母的の體操教師を養成するにありますが」と校長  
が云はれましたが、此抱負は遺憾なく卒業生の上に實現されて  
るとの噂でした。

次にスコットランド、ダムフハーミリン市のカーネギー體  
専校に参りました、此處も認可學校の一で、此學校の特徴と  
するところは、眼、鼻、齒、耳に對する衛生的手当を施し得べ  
き半醫者の體操教師を養成する事です。

此地方では雪が澤山降るとスキーが出来、寒氣が強いとスケ  
ートが出来ます、此點南部英國人の羨望しておかぬ處です。

りは、金に事缺く筈なければ、體操場を始め水泳場並に諸種の衛生手術室なんか、無論善美を盡  
くしたものです、又教師もよい待遇の下に歴々の方を揃へ、生徒も一粒よりの精選をやり、何か  
ら何まで理想どほりにゆけます。

町はづれにある學校專屬の競技場は、實に見はらしがようございます、ずつと開いた東の方に  
は薄墨畫のやうな遠山が一幅の活畫を陳列してゐます、こんなに景色のよい競技場は、逆もほか  
の學校では見られませぬ、私が参りました折、丁度こゝでクリケットの競技會を催して居まし  
た、競技が済んでから、生徒一同は公園で茶話會を致しました、此公園がまたい、ところでは、  
山あり川あり谷あり野原あり、實に規模の大きな公園です、聞くところによればカーネギー氏が  
幼少の折、度々此處に遊ばれました、其頃は誠に貧乏なうちの鼻たらし小僧に過ぎなかつた相で  
す、けれどもどうした事か、「我れ若し金を得る事あらば此處を公園にしたいものだ」と常に云つ  
て居られた相です、ところが不思議にも夫れが實現せられて、こゝに立派な大公園をつくり、以  
て郷黨に捧げられたる……氏の得意思ふべし。

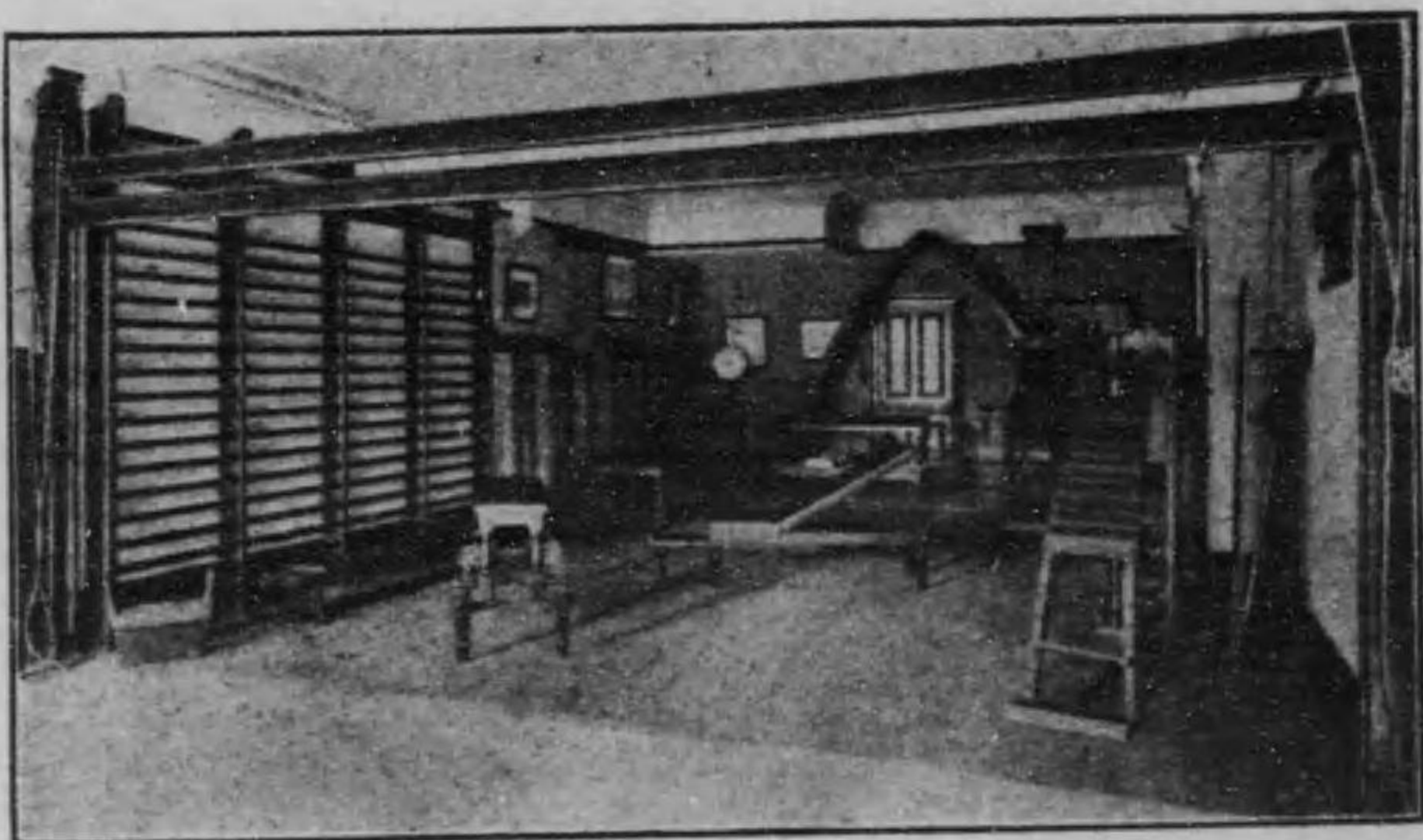
「郷土や郷黨のためにいくらでも金を出す世界の大富豪をひかへてるダムフハーミリンは實に幸  
福だ」と私が申したら、倫敦の一友は「とんでも無い事、どうして幸福なもんですか、かくて



ダムフハーミリンに来るべき運命は滅亡です」と云ひました。「なぜ？」だつて人間と云ふものは銘々に、其土地に對する義務を負担せねばならぬものです、然るにダムフハーミリン市民は此義務を果さず、大方の負擔を専らカーネギー氏一人にのみ與へてなまけて居ます、ですから早晚滅亡を免れませんまい、其時こそは大恩人と謝したるカーネギー氏を悪魔と罵らねばならなくなるでせう、禍なる哉かくの如きダムフハーミリン市民！ 禍なる哉此の如きカーネギー氏！」と語つて三歎しました、さう云へば夫れもさうですが……然し禍でも何でもい、から、どうかして日本にもカーネギー氏の様な方があり、せめて女子の體專校を建て、下さればよいと私は心から祈つた事でした。

認可學校以外で大きなのは、サウスポート市のアレキサンドラ夫人體專校です、夫人の良人は矢張り體操家で以前リヴァプールに男子の體操學校を持つて居られた相ですが、高いところから落ちて腦を打つた爲め、失明されたと云ふ不幸な方です、「夫は失明の厄にあひましたが、幸に信仰で生きてゐます、只今著書して居ります、餘り人には面會しませぬ」と夫人は語られました、一人のむすめさんはドグトルになつて病院に通勤の傍、學校の生理解剖を受け持つて居られました、夫人は五十の上なんでせうが四十になるかならずに見えました、其容貌・體格・姿勢・言語・

アレキサンドラ夫人體專校内の體操室



其三十九 學校めぐり

動作すべて靜肅な美人です、實を云へば私のあつた體操家中美の點において最も優れた婦人だと思ひます、認可學校でないだけ體操場なども完全とは参りませぬ、然し生徒の姿勢が非常によくて、而かも夫れが女らしいものです、ひよつとしたら此點は或はかの認可學校にも勝つてゐるやすまいかと疑はれました、これは特別な平均運動をやらせると同時に、ドイツ式の自動運動で鍛へ、更にスキーデン式體操を以て調節する事からして、かうした目に立つよい姿勢が出来るのだと校長が話されました、こゝではわが邦女子に参考とすべき有益なる色々の平均運動を見ました、校舎と寄宿舎とは、街路を隔て、向ひ合ひに建つてあります、建物の割には多數の生徒です、競技や水泳には市のを用ゐます、此學校では銅、銀、金の三種のメダルを以て、生徒の操行や學力を表賞いたします、「やすッぽいメダルね、卒業するまでには誰でも三種の

公園の運  
動場で女  
工連がテ  
ニスをし  
て居ると  
ころ



足掛四年

メダルをみんな貰ふですつて」と笑つてる者もありましたが、さう馬鹿にしたもんでもありません、中々いゝところがあります、卒業生にも亦優良な者が出て居ますから、遠からず認可學校になるであらうと私は祝福致しました。

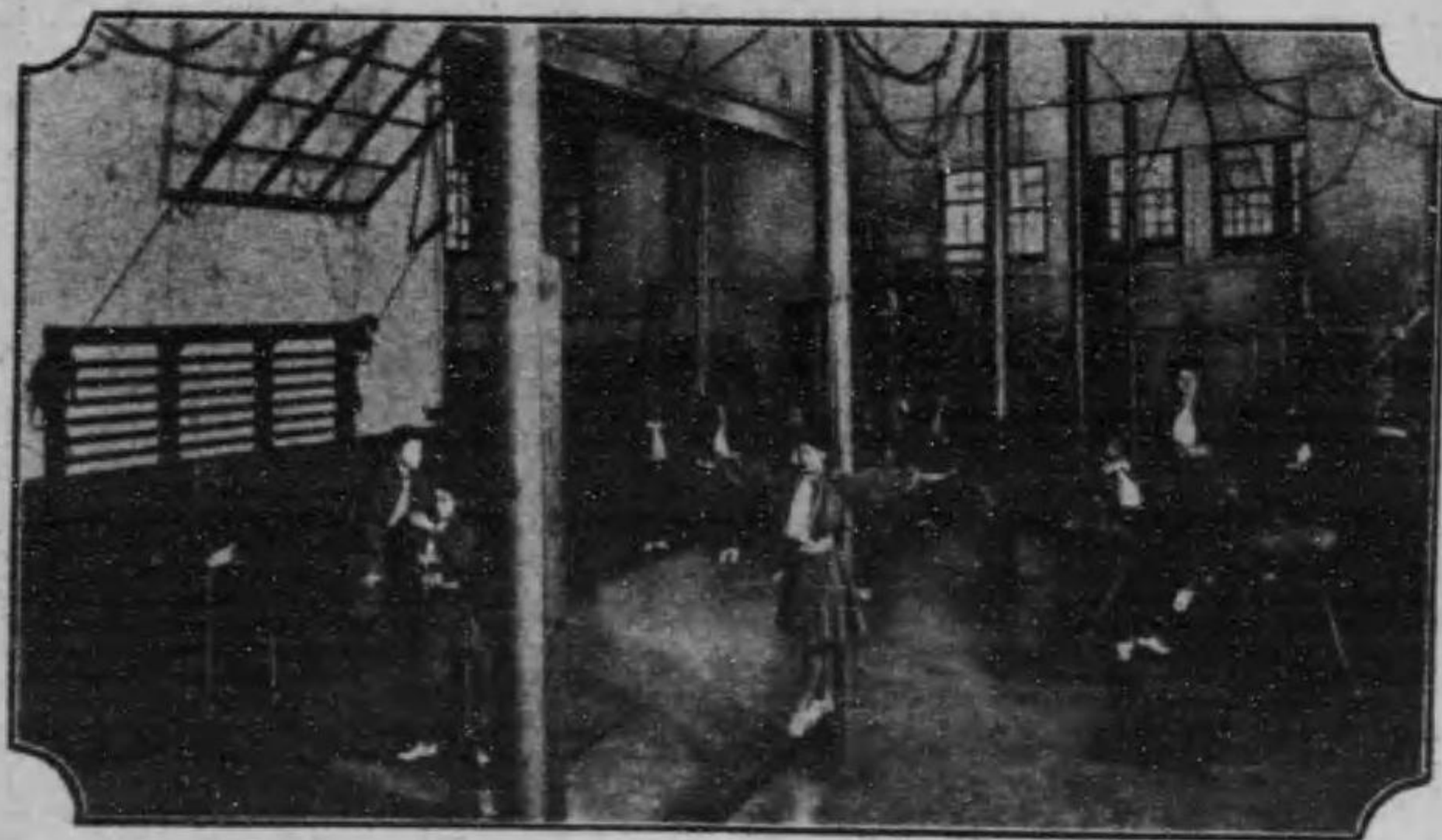
私が始めてドイツ式體操の正體を見たのは、倫敦バタスイー體專校です、こゝもチエルスイーと同様集合専門學校の一部ですから、大きな建物の一隅に割據してゐます。體操部の校長兼教授者が二人の助手を相手に校務を執つてます、二年制度で一組は二十人内外ありました、それから女工連から成る大きな夜學部の組が幾つもありました、晝の組の本當の生徒は、實は一組に六七人づゝしか在籍してゐませぬ、之等は卒業後檢定に依つて教師たらんとする者で總べて他の體專校と同様な所定の學科を履修します、その他は單に己の體育のために實地の一つ二つを特別生として

やる人々です、私が舌をまいて感歎したのは、校長が教授して居たドイツ式體操でした、又女工連の夜學部は他に比類無い程見事なものです、一組が實に五十人乃至七八十人の大勢から出來て居ます、此の如き大勢の女工連が熱心になつてワンス・啞鈴・棍棒・毬竿等を研究するのは寧ろ不思議な程めづらしく見なされました。

實に立派なドイツ式體操ではありますが、もはや世の趨勢として、より立派なスキーデン式にけおとされてしまひましたから、此學校の體操は蠟燭の盡くるに任せたともしびのやう、やがての運命があらはれにしのばれました、校長は集合専門部に奉職してゐる方ですが、「此體專部はつぶしてしまふか、又は根本的の改革をやるか何れにしても大仕事をやらねばならぬ機運になつた」と云ひました。茲の家政部校長は、宮川女史が嘗て、拔群の成績にて在學された事を話してました。體操部生徒のみの寄宿舎は、やはなれた別世界の實に貧乏らしい建物に假りのを設けてありました、私は一週間餘りこゝに寄宿しましたが、寄宿料のやすい事此れ亦驚く許り、外の三分一にも當りませぬ、けど其かはり貧民窟のやうな日常をせねばならないのです。

校長は何處かに若いところのある五十格好の背の高い方でした、生徒のからだをまるでゴム人形かなんぞの様に、自由自在にいぢくつて誠に巧な運動をやらせます、ですから校長に一寸手を

カキーン  
アレキサン  
ンドラハ  
ウス體專  
校の地下  
室體操場



かされるとどんな生徒でもわけも無く馬もとべる逆立も出来ると云ふ有様です、實に此腕前は恐らく天下一品、えらい體操家だと私は感心致しました。

倫敦の大音楽堂なるアルバートホールの近所に、クヰーンアレキサンドラ體操館と云ふのがあります、夫れはたつた一の地下室から出来てる類稀れなる體專校です、固より地下室なれば高い窓から一寸光がさし込むだけ、まるで夜の世界、實に息のつまる様な陰氣を覚えさせます、此處に電燈をつけて教授を行ふのですが餘程變なものです、こんな處へは非常なものすきでなければ来る者もあるまいと思ひの外、世間は廣いもの、結構来る人がございます、夫れと云ふのも、を経営して四十恰好の二人の姉妹がドイツ式體操に堪能だからです、己の體育のために此ドイツ式體操を週に幾度ときめて汗を流しに来る方が、さうですね、毎日三四十人は絶えませぬ、本式の在籍生徒は總べて、十人あるか無しです、夫れは心ばいものです。思ひきつた事には、こゝでは、理論の講義なんかちつともやりませぬ。

此學校では一般にドイツ式體操が巧みだと云ふ中にも別して棍棒體操が見事なものでした、英國の方々に随分上手な棍棒體操を見ましたが、其何れよりも、このが勝つたものです、こゝでは容易に參觀を許しません、夫れ故臨時に授業を受ける者と同様一時間に十圓の謝禮を拂つて私は三度見ました、後七回棍棒の教授を受けました、之れ迄つまらないもんだと許り思つてゐた棍棒體操は、非常に理窟のある面白いもんだと云ふ事を始めて教へられました。

鐵アレーで名をうったサンドウの塾は、倫敦目貫きの場所を占め、かなり宏大な構へでした、別にサンドウコ、ア店を設け、體育的飲食店と名づけてあまいものすきの學生を呼んで居ます、又自家發明の改良婦人コーセット賣店をも出しています。

コーセット賣店を右にして細い路次を少しはいつてゆくと、突き當りにサンドウの塑像があります、中に入れば大廣間の正面にはサンドウ夫人の大きな姿繪がかけてございます、看護婦が一人、助手が二人、夫れにサンドウと都合四人居ました。サンダウ氏は、打ち見たところ四十年輩の方でした、晝で見ると實際はもつと濃厚な風采です、カイゼル式の容貌、其色つやと云ひ

恰好と云ひ、實に偉丈夫、立派なものです、夫れは「あんな立派な身體になれたら」と見る人をして渴仰せしめる程です、然し私の行つた頃はさみしい時代になつてゐました、何でも七八年前は方々に會を催して、公衆に其身體と體力とを示し、サンドウ式體育法や體操法を盛に紹介したものだ相です、始め一寸はたいした人氣があつた様ですが、間もなく非常な攻撃を受け、四方八方に非難の聲が起り、顧る人はまれになりました。

體育に熱心な或る日本人がサンドウの塾に行かれました、瘦せてそして弱い自分の身體が、サンドウの前では如何にもなさけ無くなり「どうかしてあなたのやうな立派な身體になりたい」と懇望した相です、すると「よろしい、三ヶ月で其望をかなはせて上げやう、但し謝禮は三百五十圓也」と云はれました相な、随分高い月謝です事！ けど一時間の謝禮十圓若しくは十圓二十五錢拂つて種々の個人教授を受けてた私は、三ヶ月三百五十圓の月謝ときいて、實は餘り驚きもしませぬむだ。

サンドウの體操は、どつちかと云へば、醫療體操式の個人教授です、身體構成法外三四種の著書がございます。

ミュラー先生の塾は、サンドウのところから餘り離れては居ませぬ、矢張り目貫きの街です、レ

デー何々と稱する一老婦と若い一女教師と五十恰好のミュラー先生とが居られました、一寸見たとこのかまへは中々結構です、然し屋根裏の小さい日光浴體操室には驚きました、だが總べて個人教授ですから、廣い場所が入らないのでせう、若い女先生は此數年専らミュラー式で鍛はれた方な相ですが、實に理想の身體と偉大なる體力と女らしい動作とを備へてゐました、此理想的教師にひきつけられて私も研究して見たくなり、入塾を申し込みました、驚く勿れ、此月謝四百圓也、夫れも一週二度の教授で十週間の通學に過ぎませぬ、「單にあなたの身體の爲めのみならず、ミュラーが證明する教師適任證を與へん、此適任證を持つて斯界に立てば、四百圓なんか直にうまりますよ」とレデーは申しました、資格を賣るとはかうした事かとうなづかれました、私は資格を金なんかで買ひたくありません、夫れに其著作なる四五種は既に讀んだ事なり、又まのあたり實地の一と通りを、若い先生から見せられた事なれば、證明を得べく、研究はしませんでした。

ミュラー先生は、何やら沈んだ寡言の方です、そして何處となく穩な氣分を漂はせ、しかも君子的態度を持つて居られます「やまし」とはどうしても思はれませぬ、只下にはたらいてるレデー何々なんかがうまい事をするのではあるまいかと心私かに慨歎しました。

戰の騒ぎとなり倫敦の公園が悉く練兵場と變つてから、私は毎日公園めぐりをして、出来るだけ

多く兵士の體操を見ました、夫れは主に器械を用ゐぬスパーデン式體操でしたが、ミュラー式も大分交つてあります、又サンドウのも幾分か採用されてゐました、不斷男子の體操専門家が餘りないもんですから、戦になつてからさし當り兵士に體操を教へる人が無くて大困りの様でした、夫れ故ちつとでも體操を知つてゐる男子ならば、此際ドン／＼伍長位に採用せられて、新兵の體操教授をやらせられる有様でした、ですから随分なつてゐない體操があつた様です、之れぢや女に馬鹿にされても仕方がありませんね。

サンドウは開戦當時倫敦著名の新聞の一面を買ひきつて、「獨逸をほふらんとする英國男兒はわが塾に來れ、強建なる身體と偉大なる體力とを無報酬にて構成し與へん、英國に奉公のため」と云ふ廣告を出しました、でも一度落ちてしまつた人氣は恢復する事が出來ず、却てもの笑ひの種となりました、が沈黙のミュラー先生は可なり持てゐる様です。

英國文部省内の女役人中にはミュラー式崇拜者が中々大勢居るとの事です、實際ミュラー式體操は事務家の婦人に最もふさはしい運動だと思はれました。

スコットランドのさる中央師範學校へ見に行つた事があります、こゝは専ら中、小學校の教師を養成する所で男女併置です、但し男子の數は女子の六分の一に過ぎませぬ、改築されて間も無

い宏大な建物でした、惜い事には手工室の採光不完全、講堂の低い天井、喧囂なる街路に沿つた體操場との三が後に氣のついた此建物の缺點だと校長は申しました。

機關車仕掛の大荷車、自動車、馬車等がひつきりなしに通る街路のひゞきが容赦もなく體操場を侵襲します、どんなに大きな號令を出したつてどうせ夫れ等の騒音には勝て相もありません、夫れで教師は小さい聲して、加減にやつてゐました、キングスフールド校出身の才媛で身體も技も頭も申分ない若い先生なんです、やかましい所で授業をする苦勞の爲め、神經衰弱にか、つたとて、ほんとに力の無い状態で其美しい身體も、立派な腕前もさつぱり輝きがありません。

従つて生徒も過半神經衰弱患者らしい様子、頗る氣のりのせぬ體操を大儀相にやつてゐました。大勢の見學生中には何やらキョト／＼した者や考へこんだ者、又はノートを開いてぬすみ見してゐる者などがありました、私は白状します、此學校で豫定の四時間の參觀がやりきれなくて一時間早くきり上げました事を！ 實際之れ程おもしろくない授業や陰氣な状態を英國で見た事はございません、實に私はどんな時でも體操を見てゐて倦怠を覺えた事はありませんが、此時許りは降参しました。

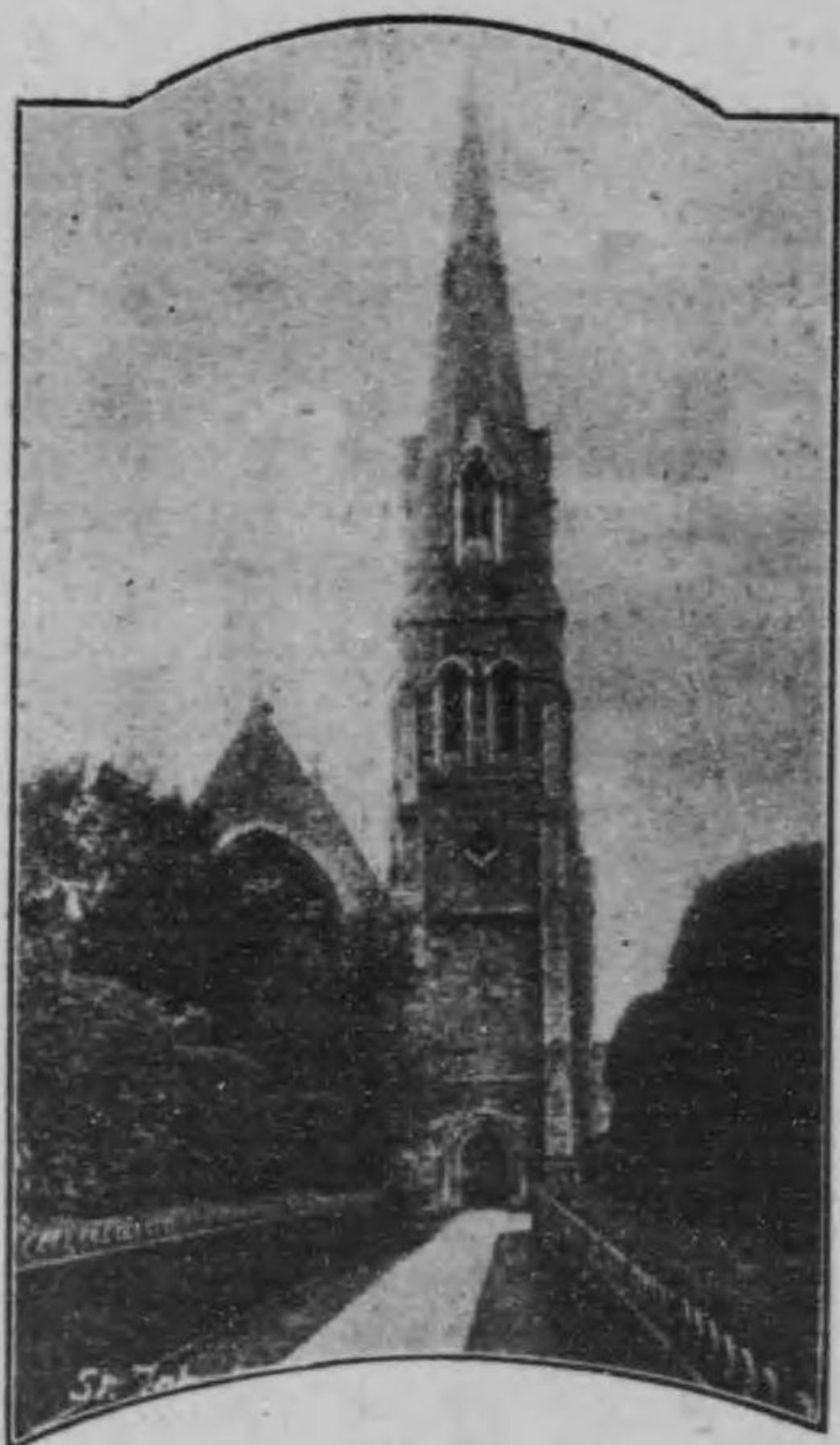
何しろ學科が多いので之等師範生は體操の時間が一週たつた二時間、辛うじて「己の體育のた

め、且つは教職についた時體操教師の妨害をなす事なからしめんために、體操科の一般を了解させるに過ぎないと云ふ學校の目的ですから體操科は見る價值がありません、一般に英國師範校の體操はさうしたものです、其上このは悪い場所にある體操場の影響に依つて一層成つてゐないのでした。英國師範生が此の如く體操教師としては價値の乏しいものではありませんが、多くの體操専門學校から大勢の専門教師が出來ますから、體操科は此人々の手に依つて、完全に行はれて居ります、どうしても體操は一専門を成すべき性質のもの故、此方が或は至當なものでせう。

フホルカツクの師範豫備校へ行きました、こゝでは生徒を三年教へた上中央師範校へおくり出し、二年の後小學教師にするのだ相です、この教師は前に紹介した神經衰弱の先生と同窓です、身體は頑丈一方、容貌態度は只快活熱心、而して一舉手一投足、すべて光輝のかたまりです、然るところ此方は學生時代に教師にはもてず、卒業成績もよい方では無かつた相です、夫れが不思議にも卒業以來非常な好成績をあげ、「本校のほこりは體操科也」と校長が申さるゝ程です、じつに此教師の六年間の努力は衆の感ずる所となり、期せずして金が集まり去年理想的體操場が出來たとの事です、しづかな所に小ぢんまりと建てられた體操場は、その形と云ひ、中身と云ひ、甚だ結構なものでした、生徒の活氣、教師の熱心、教授法の巧妙と、そして教材の見事なる、確かに

此種の學校としては比類もなく優秀です、かう云ふ立派な生徒達がやがてはあの中央師範校へおくられて、だいなしにされねばならぬと思つた時私は涙が出ました。

フ  
ー  
ト  
ポ  
ー  
ル  
の  
チ  
ヤ  
ン  
ピ  
ヨ  
ン  
を  
以  
て  
世  
界  
に  
名  
高  
き  
英  
國  
の  
イ  
ー  
ト  
ン  
カ  
レ  
ー  
ザ



ニューキヤツスル附近の有名な小學校へ行き、師範出の若い男教師が尋常二年の男兒に體操を教へるのを見ました、實に巧な模擬體操（拙著體操通俗講話に詳説す）です、五六十人の兒童は愉快と努力とで眞赤になつてゐました、一時間中體操の號令らしい號令もかけずに、しかも立派な體操を愉快づくめにやりとけた非凡の腕には少からぬ敬意を拂ひました。

フホルカツクの先生から體操器械利用法の秘訣を傳授していただいた私は、今また此處の先生から模擬體操の極意をきかされました、何れも長い時日の専門的研究になつたもの、夫れを一日や二日で何の苦もなめずたゞ教へてもらうのは勿體もないと感謝しました。

「私は師範出でして體操を専門に研究した事はありません、然し小學幼年級の兒童には智育よりも、徳育よりも、體育が先き立たねばならぬ事を自覺した以來、専ら幼兒の體操法を研究してゐます」と此若い男教師は話されました、體操教師の株は専門校出の女のものとして許り思ひの外、たまにはめづらしいかうした男子の方もあります、しかも夫れが體操科をい、加減にやつて來た師範出の方なんですから、驚歎すべきぢやありませんか。

倫敦で一番大きな舞踏塾は、倫敦大學の方面に當るウォルズウオス夫人のでした、木履踊り、繩飛舞踊を始め、いやしくも躍りと云ふ躍りは何でもやつてゐました、可なり大きな舞踏場は朝から晩までひつきりなし、十數人の教師と四名の伴奏者とは大車輪の活動で、十幾組かを教へて居ます。

こゝでも參觀は許しませぬ、スケピングダンスとカントリダンスとを學びたいから準備のため一寸見たいと云ふ條件で、漸く校長のクラス其他を一日見せられました。

生徒の多數は、自分の修養のために稽古する娘さん達ですが、中には特に舞踏研究を志してゐる體專校出の體操家もありました、總勢三百人、實に盛なものです、校長は宥かと怪しまれる程視力のにぶつた片目の方ですが、夫れにも減入らず、且つは六十と云ふ年にもよわらず、どの組にも檢閲的の教授をやられるのです、其精力驚くべきものがあります、確に大家だとなづかれました、そして「教へやうがわるい」とか「まちがつて覺えてる」とか云つては大きな聲で授業最中に教師を叱つたり、生徒に小言を云つたりしてゐました、教師も生徒もこの聲にはびく／＼ものでした、一同は本式の舞踏服で、白、桃、緋、青、なんかの綺麗な色に天人の舞をしのばせま

す。「日本婦人も折り／＼稽古に見えます」とこゝの給仕は私に話しました、それから又「體操教師と名乗つて參觀を申し込むから謝絶されるんですよ、全く何も知らないものが自分の體育のためにやりたいが……勝手が分らないから少し見せて下さい的にやるとうまく見せられます」と書記は内幕をあけてくれました、「素人がならつて覺えるところを體操家なら只見た丈で覺えられますからね、さう云ふ方に無暗に參觀させますと、つまり無報酬でドン／＼學ばれます、さうなつた日には舞踏塾商賣が出来ないぢやありませんか」と奥の手を見せました、な……る程、しかし之れではもはや教育的ぢや無い、全く商賣もの、藝人根性だといやになりました。

こんな藝人根性は、學校にはごさいません、しかし學校でも參觀人は無暗に受けつけませぬ、日本でのやうに行き當りばつたり行つたつて、多分は門前拂ひです、夫れ故必ず前以て申し込ま

ねばなりません、すると何時の公開日に来よと云はる、事もあり、又は特に都合をつけた日に呼んで呉る事もあります、一體何處の學校でも職員や事務員の手には隙はありません、總員が手一ぱいに仕事をしてゐます、其處へ突然參觀人があると勢ひ誰か、豫定の仕事をさしおいて案内せねばならぬ事になります、さうすると、豫定の仕事が不時に遅れて、學校の仕事が夫れだけ遅滞せねばなりません、此理由からしていきなりの參觀人は受けつけませんのです、又「見せる以上は特に見せるために用意をするが禮」と英國人は考へてゐますので、全く不用意の不意打は拒絶です。

又生徒は見せものにするべきものでない、特に外來參觀人の前で思ひきつたしつけをする事はよくないと云ふ事からしても、大事な教授の場合には參觀を許しません、而して見せると云ふ時には、萬事をちやんと準備し、誰かの手をあけて案内させ、生徒に小言を云ふ必要のない授業の美しいところ許りをやらせて、生徒もほめられ、學校も名を擧げる様にします、ですから實を云へば此種の參觀は、相撲の八百長を見るやうな感じが致します、夫れ故參觀だけでは逆も體操教授の真相に觸れ得ませぬ、殊に男子の參觀人に女生徒を見せる時には、餘程用心をしますから、猶更うはべだけしか分りませぬ、視察や巡歴なんかをする男子は、よく此邊の消息をのみ込んで置く必要があります。

ロガン夫人の舞踏塾は、小さい割には萬事が完全してゐました、そして格別トーダンス教授が有名なものでした、ですから、随分上手なトーダンスが居ました、一體トーダンスなるものは幼少の折から仕込まなければならぬんだ相です、しかし特別の努力をする時は年とつてからでも立派に出来るよと云ふのが校長ロガン夫人の持論でした、そこで私も特別あつらへのトーダンスを買つてもらつてやつて見ました、わけもなく立つ事だけは立てました。

實はいくら何でも一時間十圓二十五錢の授業料とは、ひどいと始めは思ひましたが、實際稽古して見るとかう高いのを拂はせられるのが當然だと満足しました、私一人のために立派に準備された舞踏場で手をとつてくれる教師が一人、伴奏者一人、監督者一人、つまり三人が、りで一分の無駄なく教へ込むのです、かうして私が一時間みつしりならひますと、體專校なんかで一齊教授の下にならふもの、一ヶ月分に相當するものを得られました、只ならふ方の私が一時間を通して一分ひまなしにはやりきれないので、三分一はいつも休んでしまひました、若しやすまずにやれ通せたら、もつと澤山學べたでせう、それでも英のホーンバイブ、スコットランドのスコッチリル、ウエールスのウエルシユダンス、アイランドのアイリツシユヂツグ等を何とか稽古する事が出来ました、然し此等の歌と曲とに不案内なる私には、到底眞の妙味は分りませんでした。



勿論一所懸命に歌の意味を解し曲に耳をなりましたけれど、英國民族魂を持たねば、根本的  
 了解が出来ませぬ、遂に「やかましい事を云はずに四拍子なら四拍子、三拍子なら三拍子として  
 かう手を動かす、かう足を踏む、かう頭をまけるとだけ簡単に教へて下さい」と教師ミスギルバ  
 ートに頼みました、「そりやいけません、苟しくも之をやる以上はこ、はかう云ふ表情、そこはこ  
 んな気分、又此文句のところだけは拍子をかへてなど、云ふ工合に舞はねばなりませぬ」とむづ  
 かしい説法、いやはや随分と困りました。

考へて見れば、日本の踊だつてさうです、たとへば勸進帳のうたと曲とを根本的には呑み込み  
 得ぬ外國人をつかまへて、勸進帳を舞はせやうとするには、教へる方でもならふ方でも、容易な  
 事ではありませぬ、つひに歌や曲にはおかまひなく只手足だけ動かすと云ふ事になりませう、之  
 れぢや逆ものになりませぬ、かう氣がついて見れば、日本人の私が英國真髓の舞踊に深入りす  
 るのは愚だと悟りました。

サウスケンスイングトンの保姆師範學校附屬幼稚園で調律教育と云ふのを見ました、夫れはつ  
 まり保姆が色々の調子に手を叩くか、又は樂器の合圖をするかして兒童にきかせ夫れをまねさせ  
 るのです、こんな事は何でもなく子供に出來相に思はれますが、どうして中々出來ませぬ、満足

兩手に兒  
 猫をか、  
 へて犬と  
 遊んでる  
 幼稚園の  
 幼兒



に眞似る者はまれでした、私は之れを見て非常な参考材料を得ました。

又一組の幼兒が残らず樂器を以て樂隊ごっこするのを興多く見ました、太鼓た、くもの、笛ふ  
 くもの、鐘をならすもの、立琴をひくもの等、十幾種かの音がにぎやかに起ります、固より音樂と  
 名づくべきものぢや無いでせうが、夫れでも  
 面白うございます、かうして銘々最善を盡く  
 して樂の音を出してゐる中には、自然に高尚な  
 る音樂趣味を養ひ、又共同一致の氣風を涵養  
 し、同時に正しい調子の訓練を試みる事が出  
 來ます、實に有益な事ではありませぬか。

其四十 七十日間の矜り

歐洲大陸巡歴が出来なくなつたかほりに猶英國に滞在してピアノを稽古しませうと思立ちまし  
 た。それには毎日八時間づゝ練習をせねばなりませんので、是非共ピアノをひとつ自分で持たね  
 ばなりません、かう自分のピアノで朝から晩まで毎日々々練習するには、之れ亦是非共特別なる

自分の一室を持たねばならないのです。

かくの如き理由で私は間借りをせねばなくなり、ピアノの先生ミスドツセルスミスに連れてられて、方々に貸間をさがしました、處が丁度に都合がよくてすぐ手近の街即ちクラブの向側に二階の間を見つけました、早速こゝにひっこし、そしてピアノは大商店ワイトレーより借り入れる事に致しました。

嘗てクラブの新聞室に居りますと、時折運動場をへだてた彼方で驢馬のなきごゑがします、夫れが何時も同じ調子にしかも何やら意味ありげに響きます、或日の事其なき聲をたよつて私は行つて見ました、すると汚いきもの、爺さんが、やせこけた驢馬に野菜の車をひかせて、賣りあるいて居ります、なき聲の主は此やせこけた驢馬です、ヴィンセントスコヤー九十八番地のお内儀さんが何時も角砂糖を此驢馬に二づ、御馳走するんだ相です、夫れで驢馬は此地先きへ來ると、お内儀さんと呼ぶために屹度なくのだと分りました、やさしいお内儀さん！「可愛らしい驢馬！と其後私は此處を通る度に思ひました、ところが不思議にも其二階をかりる事になりました、大卓をひかへた十二疊じき許りの室は、割合に閑靜で日當りよく、眺めもまたようございます。部屋が定まると早速先生に連れられワイトレーピアノ商店へ行きました、大廣間に並べてある

賣り物のピアノが大小數百、八千圓が一番高いのでした、然し註文によつては、一萬圓のでも二萬圓のでもこしらへると云ひました。

貸しピアノが五六十臺あります、先生は一々其音色をためしました、ピンと響く鋭いもの、トーンとなる穩なもの、さては陽氣な音、しんみりした音、又は上品なのや騒々しいのなどまあ何て色々の音色があるでせう、一つ／＼が銘々獨特の音色を持つてゐます、此中頗る穩な音色の賣り價八百五十圓と云ふのを月十圓許りの損料でかり受けました、頑丈の男三人ピアノを車に積んですぐにはこび上げ、ストーブを右手に卓をうしろに窓を左にしてすゑつけてくれました、人夫が歸ると私はすぐに花を飾り、美しい色のキャンドルをさし、樂譜を載せ、又日本の繪はがき二十枚ばかりを態よく並べ立てました。

私は國をはなれてから此頃まで一度も日本のもので室を飾つたためしはありません、どうせ日本のは生きた一生飾られる、故にそれよりも、こゝを去つたら最後二度と近よる事の出来ない外國品に親しまうと思つて、何から何まで日本には縁どほい品を用ゐました、又ひとつには徒に日本の品ものなかに目をふれて、故國を忍ぶ苦しい思にかられるのがいやだつたんです、いつその事何もしりぞけ遠ざかつたがよいと考へたのでした、ところが心機一轉日本のさる

友人からおくられた特別に美しい晝はがきを何だか此時飾つて見たくなりました、飾つて見れば矢張り日本のがい、と矢鱈にうれしく眺め入りました。

此夜二三度マツチを摺つては闇の中にピアノを見やりました、今まで持った事の無い寶を、始めて持ったほこりと、そして夫れに對する何とも云へぬ懸念とが、私に安眠を與へませんのです、まさか鼠にひかれはすまいし……と思つても、何だか妙に氣にか、つて！

日本の方が御出でになると、屹度「立派なピアノですね、そして此まあ美しい花、美しい繪はがき」とすべてほめました、中には「お求めなすつたの？」と念を押す方もありました、「ハイ」と立派に私は答へるのでした、假令かりたにせよ、求めたものに相違はありません。

此嬉しいピアノで、私は朝九時から夜の九時頃までに八時間を練習せねばならないんです、やりました、處が三四日経つと、手頸が腫れ上つて、しばらく休業の止むなき目にあひました、手がなほると早速またやりました、今度は肩が凝り背が硬ばつて身うごきが出來ぬ事になりました、そこで醫療體操家に施術してもらひました、かくてやつとよくなつて又始め出しましたら、此度は目をわるくしました、白いものと黒いものを毎日々々八時間もにらんだので流石に丈夫な私の目も、つひに煩ひ出しました。

マダムバ  
ヴローヴ  
ア一の舞  
ひすがた



なえらい」と私は常に感服して居りましたが、ならつて見れば、なる程之れちや三年も五年も稽古する中には、やれる筈だと思ひました、何にせ名家の教授法は實に巧妙なものです、此巧妙なる教授を受けますと、どんな者でも一通りはやれる様にならざるを得ませぬ、じつに先生は諄々

然し一月許り経つと、總ての身體的故障は消散してもう何とも無くなりましたので、大に勇み立つて練習致しました、でも八時間の苦業にうんざりする事が度々ありました、するとドツセルミス先生は、「そんな事ぢやいけません、どんな大家でも、一日六時間位は必ず練習するんですから、況して初學者のあなたは、さうした苦業を嘗るのが當然です、あなたは無論音樂者になるんぢや無いでせうけども、一旦やり出したからには、少くもやり通さねばなりません」と諭されました。

英國の私の友人は、「誰でもピアノを上手にひきました、あんなむづかしいものをようまあ出来るものだ、西洋人はみんな

と教へて倦むことなく、且つ其教ふるところに無理がありません、従つて決してむづかしい事を云つたり無理な註文をしたりしませぬから、學ぶ者は常に幸福です、尤もあたり前を越したところにはいるには、凡人以上の者でなければなりません、然しなみのところなら、練習さへすれば誰でもおそかれ早かれやり得べきものと、一般に認められて居ります、私なんかは無論お話にならぬ代物ですが、夫れでもおもしろいものだと思ふ感じだけは確に味ひながら稽古しました。

私が在英の折、舞踏者として名高かつたのは、露西亞の女流ダンサーバヴローヴァー、同じく青年ダンサーニヂンスキー、竝に佛蘭西婦人のヂエネーとの三人でございました。

バヴローヴァーのは、花賣りと白鳥の舞とを見ました、百花爛漫と咲きみだる、庭上に、群れる天女の間を「花めしませ」とうたひながら田舎の娘が花籠捧けて舞ひます、少女の舞の餘りに上手なのに見とれたる天使の二三人は、うつかりと羽を落します、少女は舞ひにまうて何氣なく其羽に足がふれました、すると忽ち天人の氣を得て娘は天使となります、そして手ぶりも自然變つた神仙界の舞をひとりでにをどり出すと云ふのが花賣り舞の仕組です。

よせては返しかへしては寄する浪間より、バラ／＼と現れ出でたるみどりの衣の美女十數人、白鳥に扮せる一人の天女を中にとりかこんで、浪を追ひ、波に追はれつ、した、かに舞ひ興す

るが白鳥舞の筋です。

ヂエネーのは、騎士のほまれと云ふのを見ました、荒城の庭で怪火と戦ひ、つひに勝を制した若武者を祝福すべく、一隊の侍女を引きつれて勝利の女神があらはれます、やがて女神は盃を取り酒を捧げて若者の勇を讚美します、かくて共に舞うて夜を徹し、のぼる旭に驚かされ、輝きの荒城を見上げる、と云ふ筋のものでした。

たとへばバヴローヴァーは春の精、而してヂエネーは秋の精と私は思ひました、又前者は牡丹、後音は水仙ともなぞらへました、一體大家の藝術は藝其もの以外に、何だかかう偉大なる印象を人に與へます、ロバートソンのハムレット劇を見た



時もさう思ひました、アレキサンダーのペラドンナ劇でもさう感じました、又ベンソンのテムベストでも同様です、とりわけ五十になるヂエネーが妙技を演じた時には、何とはしらぬ印象を與へられ感極まつて涙が出ました、舞踏其技が天下の絶品なるが上に、一種偉大なる心を刺す力を

マダムヂエネーの舞ひすがた

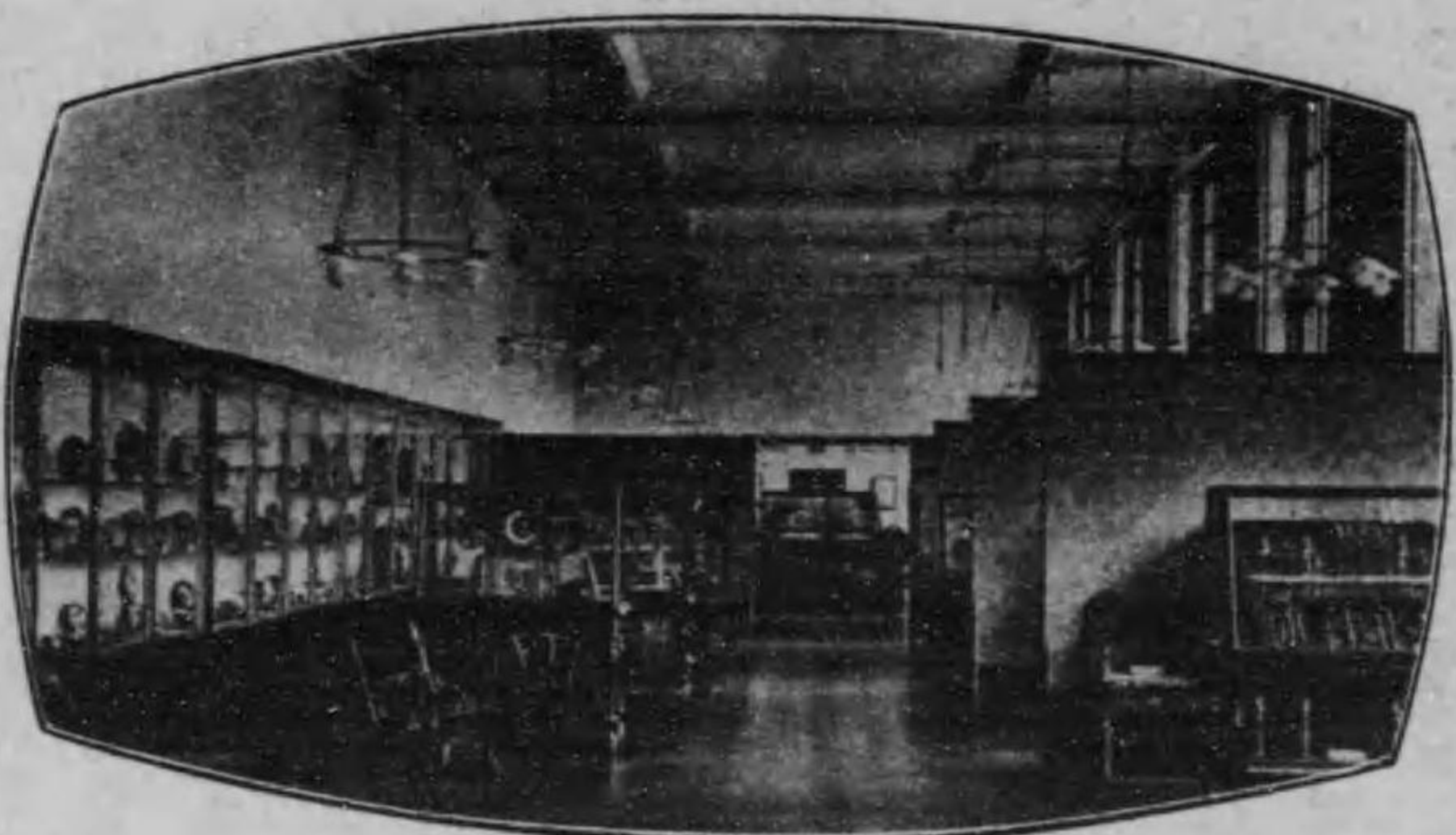
持つてゐました、「大家はえらいもの」と熱々感動致しました、此感動より得たるものは言葉に云ひあらはす事が出来ませぬけれども、時折一種のエネルギーとなつて私を刺戟します、八時間の練習にうんざりする時、元氣をつけてくれるものは實に此印象よりおこる處のエネルギーでございます。

かくて借りピアノをわがもの顔に練習致してゐますと間もなく、私は急に歸國せねばならぬなりピアノと訣別すべき時が来ました、ワイトレーからとりに来た三人の人夫に泣きの涙で渡してやりました、昨日にかはる其夜の淋しい部屋、矢張り二三度マツチをすつて見やりました、あはれ七十日間のほこりは夢と消えて、只手を腫らした事と背を痛くした事と、竝に目を悪くした事とが記念となりました、而して美しい繪はがきのみが、相も變らず徒らに美しく輝いて、果敢ない嬉しみをしのばせます。

### 其四十一 證明の入る女

倫敦中には、各種の公私博物館、繪畫陳列場、又は記念館等が夥しうございます、私は出来るだけ之れ等を見學致しました。

女權擴張  
運動者の  
一人なる  
狂女が亂  
暴をはた  
らいたヴ  
イクトー  
リヤ、ア  
ルバート  
記念館の  
一室



其四十一 證明の入る女

大抵は入場無料、唯でも勝手に出入する事を得ました、しかし女權運動者の亂暴が烈しくなつてから、女と云ふ女は誰でも男子から與へられた證明書を持たずには、何處へも行く事がなくなりました、「此女は決して女權運動者に非らざる事を證明す、若し萬一亂暴をはたらき候節は拙者に於いて一切の責に任すべく候」と書いた手形札を時の文部大臣秘書官から私はいたゞきました、男子は誰でも大威張りではいつて行く公共の建物に、女ばかりは一々其門衛で嚴重な取調を受けなければなりません、此ために私の滯英期の後半は少なからぬ不便を見ました、實際此頃の或婦人は始末に負へぬ代物でした、繪畫圖書館で四十五萬圓のヴィナスの畫を破つたり、ヴィクトーリヤ女王竝にアルバート皇配殿下の記念館で亂暴をはたらいたり、セントポール寺院に火をつけたり、キューガーデンの温室に爆裂彈を投げたり、倫敦塔の王冠に侮辱を與へたり、限りもなく悪い事を

致しました、此れ等の亂暴を防ぐために政府では頗る嚴重なる警戒を施してゐるんですが、其警戒の甲斐もなく、殆んど毎日のやうにかうした事件が起るやうでした、實に亂暴をする方ではあらん限りの智慧袋をしぼり頗る巧妙な手段に訴へて、人を「アツ」と云はせる様な事許りやります、かうした智慧とかうした勇氣とそして此苦心努力とを外の事につかつたら、どんなによい事業が出来たらうに！ さりとは惜しいもの！

英國の女は、良妻賢母として家庭にをさまりたいと願つても、男子の數の足らぬ事、並に經濟問題の困難なる事よりして、到底納りきれませぬ、是に於いてか是非共職務の人となつて男子と同様な權利の下に生きねばならぬ必要が起ります、そこで女權擴張問題が英國婦人の間に起つたものです、而して會員一同は、實際女子の實力が男子に劣りはせぬ故、必然男女は同權利の下に存在すべきものとの確信を持つてゐます、私の知つてゐる女權論者は、實に正しいえらい婦人方でした、けれども又一方には世を害し人を呪ふべく逆境が造り出した半狂亂の婦人が、甚だ多數會員としてゐるのだ相です、私は度々半狂亂的婦人達が人目をひく裝束して行列をつくり、二たぐせも三くせもある面魂をして、わざと人出の多い街をねりあるき、「正義は女權の擴張を主張せしむ」と絹を裂くやうな聲はり上げて叫ぶのを見ました、「哀れなるものよ」と私はうた、同情の涙

を禁ずる事が出来ませぬむだ。

外出の折には證明の手札を何時も手ばなせなくなつてから、私は痛切に半狂亂的婦人が恐しくなりました、公共の建物内でもそばの婦人に若しや半狂亂の女ではあるまいかと特別の注意さへはらひました、公共の建物中で私が一番頻繁に行つたのは、外科専門學校博物館です、こゝは金土が婦人日、他の四日は男子日でした、毎日數百の醫學生、看護婦、體專校生徒などで全盛でした、館内には骨格、筋肉、内臓、神經等の標本が陳列されてあります、之れを一通りざつと見てあるくのに私なら三時間かゝります。

私は嘗て日本のさる醫專校標本室へ參つた事があります、すると恐しいものが多くてほとほと目をまはしました、「迎も一人で標本室には居れない」と青くなつてとび出し、二度と再び行く勇氣はございませんでした、キングスフールド校在學中「明日は外科専門學校博物館へ連れて行く」ときかされた時「恐しいものを見ねばなるまい」と随分心配しました、處が行つて見ますと氣味わるい事も何もありませぬ、之れはと許り案に相違の驚喜を覺えました、標本はすべて出来るだけ小局部を示してゐるので、頭のたち割りや胴のまる切りなんか見たくてもありません、其上建物が至極陽氣に出来てゐますから、氣味わるいと事ふ感じか起りませぬ。

百聞一見に若かずとはよく云ふ事ですが、實際此精巧なる標本を見れば、一目瞭然どうしても分らないでは居れない程でした、どうしてこんなにくまなく標本がこしらへられたものでせうと私は寧ろあきれました、してまた其保存法が實に丁寧ですから、塚の底に何やら沈澱物があつたりアルコールがいやな液汁で色づけられたりしてものなんか全然ありません、毎年九月一ばいは閉館して建物と標本との手入れを行ふ相です、此時ちつとでもわるくなつた標本はずん／＼新しいのとかへられます、かくて毎年随分澤山の標本が廢物になる相です。

骨格室には、とんがり頭や、せまい額の日本人頭蓋骨が十許りありました、其傍には大けさに云へば輕石のやうになつた花柳病患者の頭蓋骨が三つ四つならべてございます、まさか日本人のぢや無いでせうね、出所は書いてありませんむだ、始めて私はかうした物を見たのですが、いはゆる骨がらみとか云ふもの、恐しさに身ふるひしました、己れ一代のみかは、子々孫々の末までも、恐しい害毒を流す處の病氣を、どうして人間が煩はねばならないんでせう？ ちつとも氣味のわるい事は無いと思つた館内で、此輕石の頭蓋骨が實は一番氣味悪いものでした。

館の入口には、二百年前にアイルランドに住んで居たと云ふ大人六尺七寸いくらかの骨格がありました、肉がついてた時は嘸お仁王様のやうだつたでせうと思はれました、これがシ、リー島

に生れた小人だと云ふ一尺七寸の骨と並んでる對照は實に珍しいものでした、其前には胎兒の骨格一月から十月までのが、押し繪のやうに、厚紙にならべてありました、一ヶ月のは、丁度小さい「メダカ」を干し固めたやうなものです。此外「これは誠に珍しい」と云ふものを私はこゝでいくつ見たか分りませぬ。

戦が始まつた年のクリスマスに近い頃でした、一日例の如く私はこゝで珍しいものを見まはつてゐました、すると突然「女權運動者の亂暴」と番人が叫びました、一同は「ドヤノ」と聲する方へ駆け出しました、私も行きました、館の入り口に一人の若い半狂亂的婦人が、二人の番人に捕りおさへられてゐます、其青い顔、凄い口元、實に此世の人とも思へぬものでした、やがて巡査に渡されました、かくて二人の巡査が右左から此女をか、へて連れて行かうとしますと、あるきませぬ、まるで小さい子供が駄々をこねる様な態度です、そこで警官は肩にかついで行きました、何とした淺間しくもはづかしい有様でせう。

此女は入口にある大人の骨を金槌で打ち砕かうとしたのだ相です、「かけがへのないもの許りに目をつける困つたやつ」と番人はつぶやいて居ました。彼れもひとの子なるべきに、あはれ憐むべき女！ 噫かゝる女を出したる社會は、社會自身が先づ内に三省せねばなりませんまい。

## 其四十二 同行二人

うっかり者の私は、大きな荷物を持つて汽車に乗る時には赤帽に荷を頼めばいい、さうすると手荷物とひきかへに、手札をくれるだらうと、日本同様に英國をも考へました。

或る時大きな荷物を赤帽にあづけて汽車に乗りました、いくら待つても手札を持つて来ませぬとう／＼汽車がゆるぎ出しました、此時大急ぎで窓ぎはにかけつけた赤帽は、「一番先きの箱に積み込みました」と申しながら手を出しました、私は手札を受けとるつもりで、先づ用意してた銀貨を渡しました、けど手札は私に渡りませぬ、「手札を／＼」と私は叫びました、「よろしい／＼確に積みました」と重ねての返答の終らぬ中に汽車はもうブラットフォームをはなれました、てつきり詐偽にか、つたと思ひました、次ぎの停車場でおりののでしたから、汽車がとまるや否やいきなり飛び下りて兎も角も一番先きの荷物車へ駆けつけました、すると丁度其處にゐた荷物掛りが、私の荷を無雑作に出してくれました、失くした子にめぐりあつた心地、不思議な事もあればあるもの、處變れば確に風が變がつてゐます。

それも其筈英國では小荷物とひきかへの手札なんかありやませぬ、乗客が勝手に積んで勝手

にとり出すのです、其簡便さ驚くに堪へたり、然し自分で何も彼も始末しなければなりませんから、非常に苦勞な事もあります、うっかりすると、飛んでもない箱に積み込んだり、又は人に間違へられたりする事が起ります、大抵は赤帽がしつかりやつてくれますので、減多にさう云ふ間違はありませんけれども、ひよつとして悪い赤帽に頼まうものなら、荷は積み込んだふりして實は積み込まずに客だけ立たせてしまひます、そして荷をぬきとりそしらぬ顔でわざと遠くへ送り出します、荷を失つた本人は、其筋の人々にかけ合ひ、漸くの事で荷を手に入れたは入れたものの、大事な物は失せてゐると云ふやうな事が起ります、尤もこんな事は減多とはありませんが、滯英中二度かうした出来事を友人の上に見ました、實は赤帽をよく監督して積み込ませさへすれば、間違はありません、私がマンチエスター市からレークサイドに行く時、赤帽はどうしても荷を積んでくれませぬ、どうも怪しい男でした、もうゆるぎ出すと云ふ間ぎはになつても積みませぬ、そこで私は汽車から下りて警官をさがしました、あやにく見つかりませぬ、困りはて、猶そこらをめぐつて居ますと、警官と赤帽とがやつて来ました、さつきにから見はりをしたる警官は私があやしいと思ふ前に、ちやんとにらみをつけて其邊の警戒を怠らなかつたと見えます、「此婦人の荷物はどうした、早く積み込め」と私の前で警官は赤帽を叱りました、すると赤帽は「思



ひ違ひをして別な箱に積んだ」と云ひ譯しながら、次ぎのプラットフォームから荷を持って来ました、汽車はもう發車しました、私は乗りおくりてしまひました、けれども荷物に間違がありませんでしたから、のりおくれた恨はさう大きいものではありませんでした。

英國の警官は實に親切です、「あ、ありがたい」と幾度私は心から感謝したでせう、若しも私が金持になれたなら、是非とも英國の警官に慰勞をしたいと思ふ程私をしてその親切を肝銘させました。

或時私が夜學のかへりに、ヴィクトリア停車場前の混雜したところで、どうしたものか手さけの口が開いて、體操靴や服や紐なんか、ごろ／＼と落ちました、落ちたら落ちたでかまはず白分だけ街を横ぎつてしまへばよいのに、殆んど無意識に落ちたものを拾ひ上げやうとしました、此時疾走して來たいくつかの自動車の一つがあはや私に突き當らうとしました、夫れと見た私は立ちすくみました、此時間髪を入れず、矢庭に巡査がとび込んで手をあげました、幾十の自動車はピタツと止まりました、尤も私の踵のところには自動車の輪がくつついてゐました、警官は失神したやうな私を片手にか、へ、そして片手に落ち散つたものを拾ひ集めて、安全なところへ出してくれました、「命の親」に對して厚く禮を述べやうと氣がついた時、警官はもうあつちに行つ

街を横ぎ  
る人のた  
めに車馬  
の往來ど  
めをやつ  
てる倫敦  
の警官



てしまはれた、私は眞實此時手をあはせて其後姿を拜みました。

話は前にかへりまして、警官の御親切で荷物を汽車に安全に積み込み、マンチエスターを立つて四五時間の後ウキンドミヤと云ふ湖の湖畔亭へ参りました、時は九月の末旅客は殆んど引き上

けた後とて實に閑靜、而してあたりは悉く山紫水明、晝も及ばぬ絶景です、氣澄み空晴れた夜、星を宿す湖の上には其精の女神が舞うてるやうに思はれました。

寝ぬるには餘りに惜しき湖畔の夜、何とはしらず夜ふくるまで詩的の時を旅亭の窓に楽しみました。

翌日は小舟にて湖上十三哩を乗りきりました、舟の中からの景がまた一入に勝れたものです、湖畔にチラホラする美しき建物、さては雅致ある湖上の島々、又はあたりの山々など迎へ去り迎へ來りて、身は只美しい景色の中に融けるやうに覺えました、小舟にはたて琴の樂手がゐりました、折柄にふさはしいしづかな曲をかなで

滿艇の遊客を酔はせました、嘗て私が倫敦ヴィクトリア築堤からグリニツチへ行く遊散船に乗つた時も、此たて琴の曲をき、ました、又チエスター市のデー川を遡つてウエストミンスター伯の東の御館に行く船でもき、ました、けれども前のは皆お祭り騒ぎでした、ところがこゝのはしづかなる曲を以て彌やが上にも景色を美化するもの、如く、此景ありて此樂あり、此樂ありて此景絶佳なりです。

一日湖畔に沿うてうねりくねる小徑をあるいて見ました、折柄秋氣澄みて空ほがらか、爽なる風は無韻の樂を奏で、まさに紅葉せんとする木々を祝福してゐます、自分の足音以外にきこゆるものはありませぬ、實に此處には浮世の聲も、悪魔のさ、やきも、又は俗のひゞきもございませぬ、一切の音からはなれて、私は神仙境にうつと立ちました、而して心よりほゞばしり出る祈りの聲は、大自然の耳に吸ひとられて行きます、今こそ私は大自然の耳に口あて、思ふ存分祈るべき時だと思ひました。

ケンケンホロ／＼とすぐ後の方で雉子がなきました、人の氣はひととも無い此山里で、かうした折りにかうした叫びを投げかくるとは！ 實に神祕、何だか謎のやうな感じもしました。

祈り且つ歩み、且つ眺めて行きゆけば、大きな栗の木が一株湖畔から水の上に枝をひろげてゐる

ます、今しも實がゑみそめたところです、人魚のお姫様が栗拾ひに嘸やお忙しい事です。

猶進めば一面に黒いちごが熟してゐる廣場に出ました、豊なる大自然の食卓！ 澤山の小鳥が啄んでゐます、私もならう事なら、かう云ふテーブルから命の糧をもらつて、生の限りこゝに棲み絶えず大自然と眞の談話を交換して見たいと念じました。立札によつて計算すれば私はもう四哩あるきました、日は中天を過ぎて更にしづかなる光に輝いてゐます、私はもと來た路をより大なる感興にてひきかへしました、此夕食堂でさる造船技師老夫妻と知り合ひになりました、「私の造船所で日本の軍艦を二つこしらへました、私は日本が大すき、従つて日本人を非常になつかしく思ひます」と此方々は申されました、それから「五六日間此處で静養する都合なれば、御差支ない限り御一所に方々へ行つて見ませう、實は私共は娘を三人もつてゐましたが、上二人を失ひ貝下の一人になりました、處が其一人も此間婚禮してエヂプトへ行きました、かくて多くもあらぬ子等と死別生別の數々に、世の中が味氣なく思はれてなりませぬ、折も折り、たつた一人でかうした處に來てるあなたを見てはそゝろに親御がおいとしく思はれます」と語られました。

終日忘れてゐた浮世の聲をこゝにした、か聞かされて、私も悲しくなりました。

翌日此夫妻と共に自動車に乗つて湖畔をめぐるりました、何を見ても何を聞いても哀調に化して

しまふので、私は慰めやうも無く、折角の景色は空しく涙にとざされました。

聞けば此紳士は、造船社會に其人ありと知らる、知名の士で、夫人はサー何某の息女、大變に金持な相です、かう地位があつても金があつても、矢ッ張り浮世の悲は免れる事の出来ないもの果敢なきは人の世と今更の如く歎かれました。

然し果敢なき人の世にも、猶能はざる無き大自然の力が満ちて居りますから、此力に頼つて生くれば、人は誰でも安心立命が出来るものだと私は信じます、夫れ故私は何時も能はざる無き大自然に頼つて何をするにも大自然と二人連れ……つまり同行二人ですべて頗る幸福な行路をたどつてゐます、氣の毒なる此二人の爲めに、私は最早同行二人の清遊を湖畔に試みる事が不可能になりました、非常に残念でしたけど、臨機に自分の計畫をすて、私は此人々と共に泣きました。

### 其四十三 新聞

日本の出来事の大きなのは、其翌日の倫敦新聞紙上、電報欄で知る事が出来ました、先づ行つて間もなく知つたのは神田の大火です、其後も可なり色々の事を知りました。

海外萬里の異國にありながら、故國に起る出来事を其あくる日に知る事が出来るとは、便利な

世の中ぢやありませんか、文明の力は恐しいものです。

さて大正二年五月廿四日は、ヴィクトリア女皇の記念日です、此日ヘンリー親王の銀婚式が挙げられ、而してカイセルの一人子なるヴィクトリヤリス内親王は大婚されました、晩春の梢は緑ふかく、歐洲の空は榮にみち／＼たる其頃、我が皇帝陛下は、御不例に渡らせる、由新聞にて知りました。

此日の倫敦諸新聞には、陛下の御肖像を掲げ、御聖徳のほどをた、へ、而して御不例を悲み奉る記事が出てゐます、恐れ多い事ながら、何事も手につかぬまで驚き悲みまどひました、學友も先生も非常に同情をして色々と慰めてくれました、さりながら、人の親切に慰めらるゝには餘りに大なる事柄です、猶惘然としてゐますと、「此際日本國民たるあなたの覺悟は？」と校長から問はれました、「心から御平癒を祈り奉ると共に、自己のなすべき仕事をはげまんのみ」と答へました、「日本ではかゝる折にお身がはりに死ぬ人もある相だが、あなたが今此處で死んでくれば困る」と申されました、此事あつてもまもなく御平癒あらせられた記事が出ました、其夕先生や學友が非常な喜びで祝ひの花束を私におくられました。越えて翌年皇太后陛下の御大喪、夢かと許り驚きまどふも恐懼の極み、此日許り悲しい事は留學中またとありませんでした。

英國第一  
位の大學  
の圖書室  
此隣りに  
は新聞閱  
覽室があ  
ります



桂内閣の焼打騒ぎの折もかなり詳しく新聞に出てゐました、自治問題で騒いでるアイルランドの一女學生は此記事を見て、「面白い、たんとやるがい、之れと問題は違ふけど私共も英政府に向つて大にやるんだ」と云ひました。夫れは兎も角も、頻繁にかはる其頃の日本内閣につひうっかりして、あらぬ文部大臣の御名を届書に書いたものは私だけではありません。

戦になつてからは、毎朝大急ぎに新聞をひらいて極東及日本の部を拾ひ讀みました。青島の戦争が始まる餘程前、「日本艦隊活動を始む」なんと大みだしの記事が出ました、其後餘り大した記事もなくして宣戰の詔勅が出ました、かの伊太利がドイツの甘言を退けてきつぱりと中立を宣言した時、倫敦市民の歡喜は非常なものでした、ドヤ／＼と群集が伊太利公使館に押しかけて、伊英兩國歌をうたひ、萬歳をとなへておさへきれぬ喜をあらはしました、此日の新聞は大半此事で持ちきり挿畫な

んか無論之れに關するものが主でした。日本は同盟の規約に依つて開戰を宣したのですから、餘程の感謝を拂はねばならぬ筈です、然るに私の見聞に依れば、甚だ馬鹿らしい程、彼等は何とも思つてゐませぬ。

一つ街の二十番が伊公使館、その十番が日本の大使館で、兩々軒並びに立つてゐました、然るに其中立を宣言した時の有様と、其開戰を告げた時の有様とをくらべますと、實に不思議なほどちがつたものです、日獨開戰後や、あつて「日本は同盟のために戦ふ」と云ふ餘程長い記事が出されました、之れに依れば日本は東洋に於ける獨逸の植民地を征し、英の植民地を保護すると云ふ重大任務のために、義軍を起したのだと云ふ事が明に分ります、之れでは如何な事でも感謝せずには居られまいと思ひましたら、矢張り駄目、私の知つてゐる人で此記事を「讀んだ」と云ふ者は極めて少數でした。

愈々青島が陥つた時、「青島陥落せり」とほんの二三行記事が出たきりです、私共日本人は甚しく手持不沙汰に感じました、然し恰も肉薄して來る敵の勢にのまれて、彼等は他事を考慮する餘裕が無いのかも知れませぬ、自分の身體に火がつかうとする時、はるか向ふの建物が燃えやうと崩れやうとそんな事はどうでもいゝやうなものです。

かくて極東の戦争は、つひに英國の人氣を左右するまでに至りませぬむだ、然るところ征青島軍が、青島をひき上げて歸英した時、「青島を陥落せしめたる英雄軍の凱旋」として、新聞は申すに及ばず、人々は盛に熱狂しました、そして其凱旋式が甚だ盛に舉行せられた事を書入り新聞で見ました、私共の手持不沙汰が今度は少々くすぐつたい感じに變りました。

人をおだて上げて、仕事をさせて、犠牲を拂はせて、しかも其出来上つた仕事は悉く自分の手柄に歸着させるのが文明人の手腕かと、甚だ屢々私共は感じました、夫れも夫れ相應に他國を尊重し他人を尊敬する考を持つてゐるならまだ恕すべきですが、國を見れば何處でも屬國と思ひ、人を見ればすべて奴隷だと思ふやうに思ひあがるに至つては、寧ろ氣の毒なものです、滿つればかくるは世の習、傲る平家に二代はありませぬ。

夫れにつけても私共は、外國人からチャップとかチャッペーとか輕蔑した呼び方をされて、奴隷あつかひされないまでに、發展をとけねばなりません、日本は申す迄もなく一等國です、文明の國民です、東洋の覇權を握る勇者です、而して世界無比なる大和魂を有する優良なる人種です、さりながら内に省みて此名に恥つべきものがありますまいか？

玉江女史から度々東京大阪の新聞をまとめては送つて下さいました、二三ヶ月前のものですか

ら新聞とは云へませんけど、故國の様子になつかしさに、何時も熱心に讀みました、しかし残酷なる若しくは悲惨なる人事上の出来事の多い三面記事には、ひどく頭を刺戟せらるるのでした。

四百四病の夫れより多い人の世の悲惨中で最も悲惨なるものは、節操に無頓着なる夫を持つた妻の苦しみです、妻を打つ夫には法律の制裁を施してゐる國もあるのに、日本ではそんな事が何とも思はれて居ない様です、甚しきは殺しても猶平氣でゐます、私が半年間外國で見た日本新聞の三面記事によれば、夫の不品行がもとで自殺した女が三人、外に未遂者が一人、喧嘩の結果家出して自殺したものの五人、外に未遂者が一人ありました、そして母に殉死した子供が都合三人です、之れ等は下等社會の出来事かは知りませんが、兎に角日本人の間に起つた事です、何と悲むべき状態ではありませぬか、然るところ之れ等の記事の筆つきが誠に冷淡で猫一疋死んだ程にもあたりませぬ、中には茶化してゐるのさへありました、況して春秋の筆法で「何某妻を殺す」と書いて不徳の夫を律するものなどは一も見えませぬ、悲むべき日本の状態！ 災なる哉節操に無頓着なる夫を持つた女！ 之れあるに依つて日本男子は西洋人からビースト、即ち「獸」と呼ばれねばなりません。

ビーストたらざらんと欲するものは、少くも婦人を尊重する事を知らねばなりません、佛法に

依つて悪まれ、武によつて卑下された我が國女性は、男子に尊重せらるべく餘りに價値の無いものかも知れませんが、どうして／＼實際はさうしたものではありませぬ、男子が尊重の念を致すに足るべき婦人は、何時の世にも大勢あります。

次ぎに悲惨だと思つて見る日本新聞の三面記事は、厭世自殺をする青年、不品行に陥る學生、竊盜を犯す壯もの等の多い事です。

一體人間は誰でも十七八の頃から非常に人なつかしくなるものです、ですから此際親兄弟親友が眞の愛をそ、いで此念を満足させねばなりません、處が修業のために家をはなれて知る人もなき他郷にさすらひ、利益一途の下宿屋や殺風景得意の寄宿舎などに生活すると、多くは飢ゑたるものが餓死の國に行つたやうに、益々のぞむ物に飢ゑざるを得ませぬ、ですからいつしか健康を損し、學力をにぶらせ、かくて厭世の念にかられたり、不品行に陥つたりするのです。

之を救ふには固より之れに對する周密なる父兄の配慮によらねばならませぬが、一に専ら眞より出づる師のなさけに訴へねばなりません、實に眞より出づる師のなさけは遊子の飢ゑたる胸を癒し、ゆくての光明を愈々明ならしむるに足るものです、夫れ故か、る子弟を教育する者は、單に知識の傳達と試験の採點とをのみ任務とする事なく、宜しく慈母の位置に立つて彼等を愛さねば

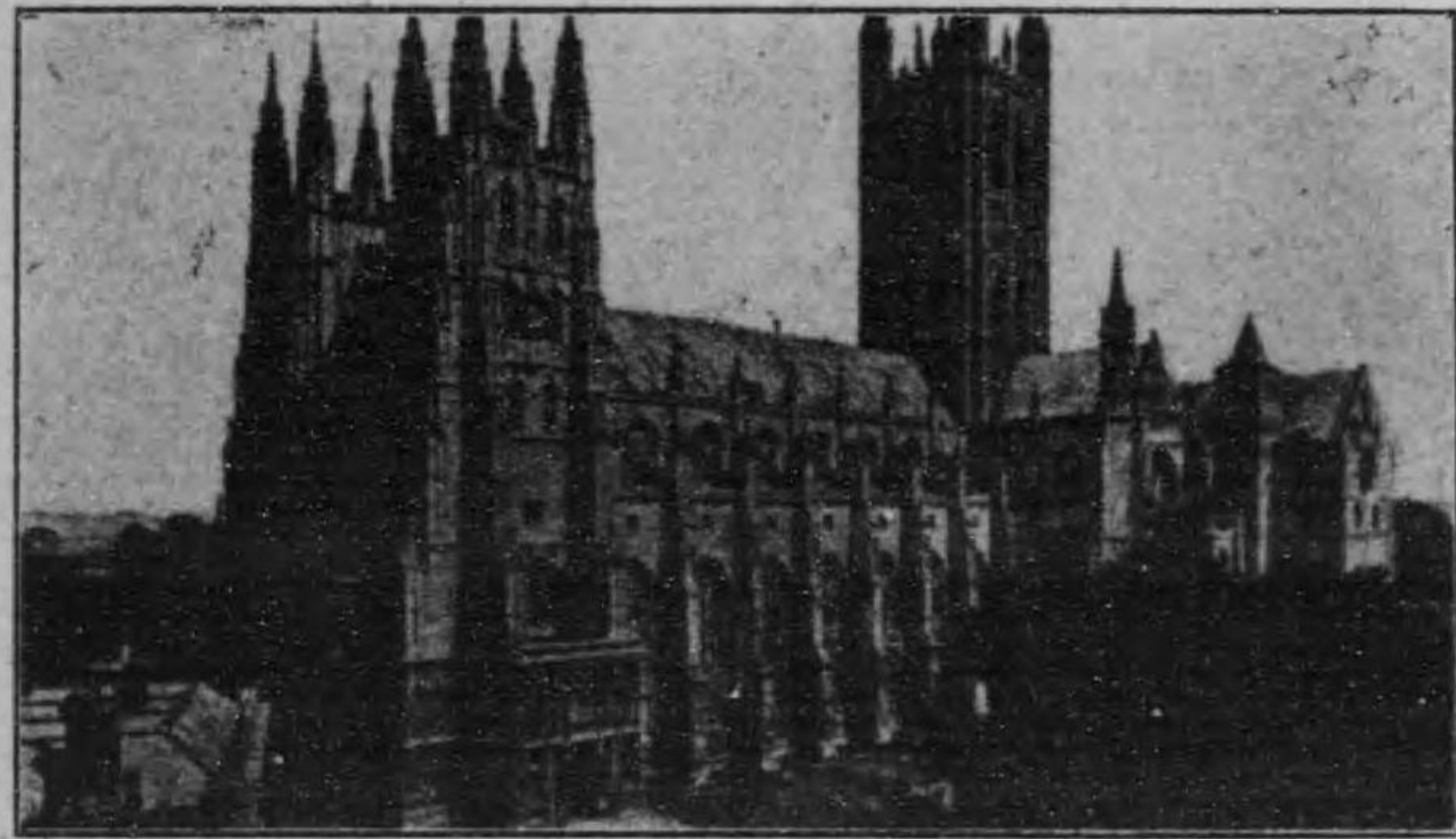
なりません、此意味からして男子の中學校にも女子の教師がはたらくがよいと私は信じます、年の功を積みて多くの經驗を有ししかも學徳共に人に渴仰せらる、やうな女流教育家があれば、さう云ふ方はドン／＼男子の中等學校にはたらい、或は寄宿舎々監たるもよかるべし、又は學科を擔當するもよかるべし、かくて殺風景極まる間に荒みゆく彼等青年の心を、慈母の慈愛に似たる女流教育家の誠にて潤澤し、以て、すさまぬ生涯をさせたいものです、さうさへすれば必然、青年の上に取りつ、ある慘劇の數を今よりずつと減する事が出来ませう。

かくの如き事は、單に青年を救済するのみならず、實に女子の救済です、即ち彼の學徳兼備の女流教育家を知りたる青年は、おのづと女子の價値を認め、女子を尊重するの念を有する事になります、男子が此念を以て女子に對する時、女子亦おのづから語るに足るべき者に發展します、かくてよく和合した夫妻が出来ませう、然る時に夫の虐待に命を縮める妻や、猫にも劣つた殺し方をさる、妻君が餘程少くなるでせう。

かくなつた時、日本男子はビーストの域を脱し、日本婦人亦ビーストの妻たる厄災を免れ得て始めて西洋人にうしろ指さ、れぬ事になります。

あ、醒めよ日本男子！ 立てよ日本婦人！ そして日本新聞三面記事の悲惨と殘酷とを根本的

カンタベ  
リー寺院



足掛四年

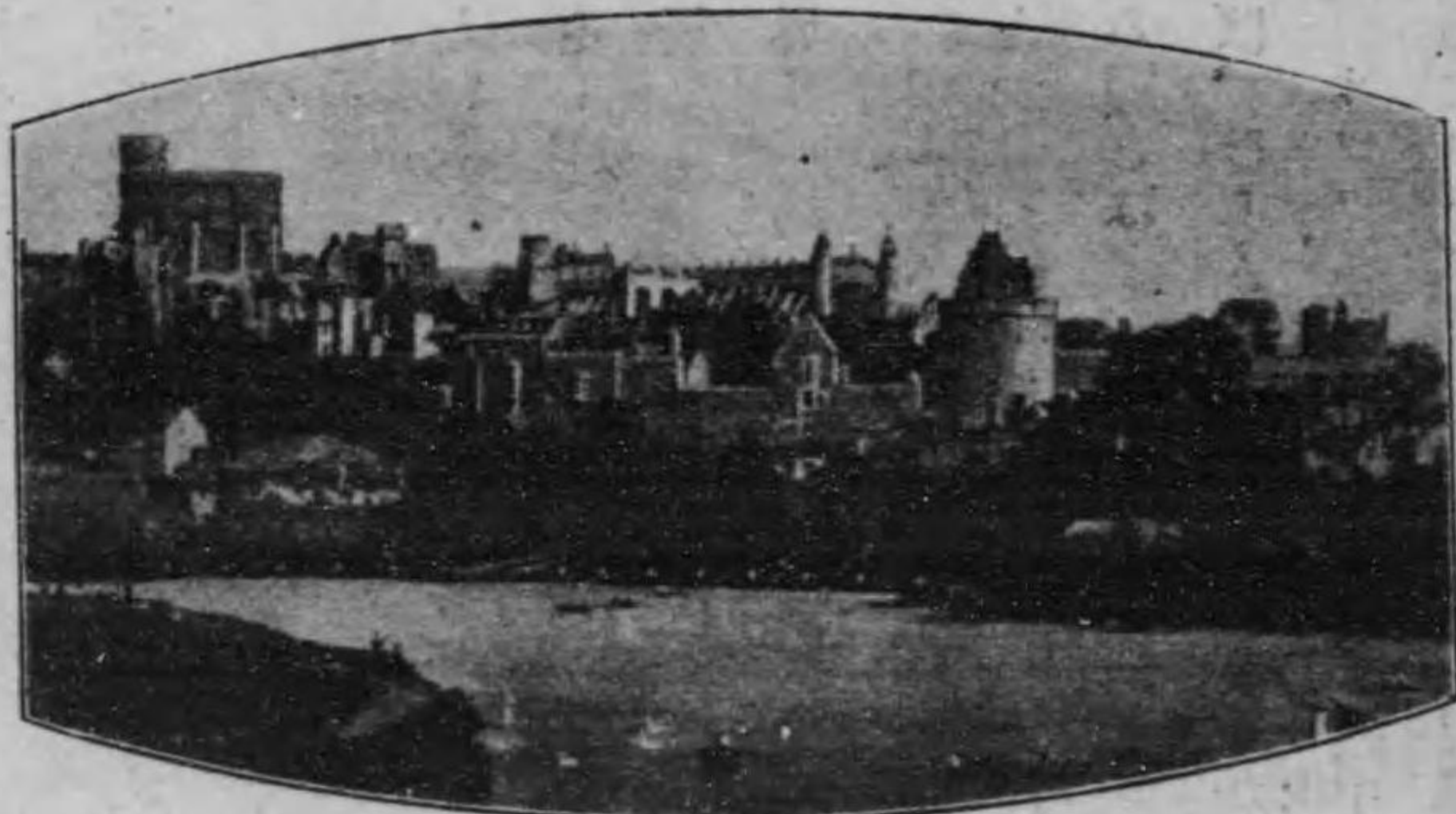
三四八

に退治せよ、之れかけがへの無い大和民族の自衛法也。

### 其四十四 名残りの旅

急に歸朝せねばならぬ都合になつた時、どうしても行つて見ねばと云ふ所が六つありました、私は夜を日について旅行を致し、首尾よく此目的を遂げました、あはれ此お名残旅行、いささか記して思ひ出の種に致しませう。倫敦ヴィクトリア停車場からカンタベリー寺院へ詣りました、名高い歴史の數々を藏する立派なお寺を見て、私は實に本懐を遂げました、寺門を出ると間もなく綿のやうな雪がふり出しました、市街の事なれば人家はいくらでもあります、けれども全く知らぬ土地で思ひがけぬ雪にあふた時、「駒とめて袖打ちばらふかけもなし」と思ひました、裏町のとあるのき下に雪を避けました、やがてガチャツと鍵の音がして私の立つてた後の戸は内からあけられました、

ウキン  
ンゾ  
ル城の遠  
景



其四十四 名残りの旅

十五六の少女がちと出て来て、「おはいりなさい、雪にお困りですえう」と如何にも親切に云うてくれました、其うしろから、「どうか御遠慮なく」と母親らしい方も見えました、實にもうれしい人のなさけ、お寺詣をして聖い心地になつたところを、かう嬉しい厚いなさけをかけられて、彌やが上にも聖い気分になりました、三四十分此家にはいつて此母と子とから非常に親切を受け、雪の晴れ間を急いで、倫敦行の列車に乗りました、六時頃着倫しました、しかし着いたはよいが、まるで停車場が違ひます、之れはと許り當惑致しました、私の下るべきヴィクトリア停車場につくには、途中で二度乗りかへねばならなかつた相です、さうとは知らず、「倫敦のき」と云ふのを早や合點して来て見れば、とんでも無い處へ運ばれました、此夕八時にさる會へ出席の都合でした、夫れ故六時にかへつて夫れに間に合せの豫定でしたが、かう妙なところへ下りた爲めまごついてしま

三四九

ひ、とう／＼會に遅刻致しました。「お寺詣での御利益はさうしたもの？」と口の悪い人々からひやかされて大に面目を失ひました。

ウキンズルに行つた日は、い、お天気でした、牧場に乳をのんでる兒羊、空に囀るひばり、丘邊に咲く挑の花、みな春の心を語つて居ます、巨大なるウキンズル城を見た時、ほんとうに城らしい城だと思ひました、此處でヴィクトーリア女王陛下のお墓を拜み、千古に輝く女王の御生涯をしのびました。ウキンズルから町續きになつてゐるイートンカレッジには、丁度一同窓生の弟が居りましたから、其案内で教場や禮拜堂を拜し、學生のフットボール競技を見ました、流石は世界に名高いだけあつて實に見事なものです。

お城のぐるりを遠くとりまいてる田舎みちが趣味の多いところでした、私は一人例の如く足にまかせて散歩しました、實に長閑、見るもの聞くもの皆太平の面影をたゞよはせ、現在戦争してゐる國とはどうしても思はれませぬ、城の上高きさへづる雲雀の樂に拍子そろへてうたひ且つ歩めば、ひし／＼と「離愁」の念が湧き出で、「英國を去りたくない」と思ひました。

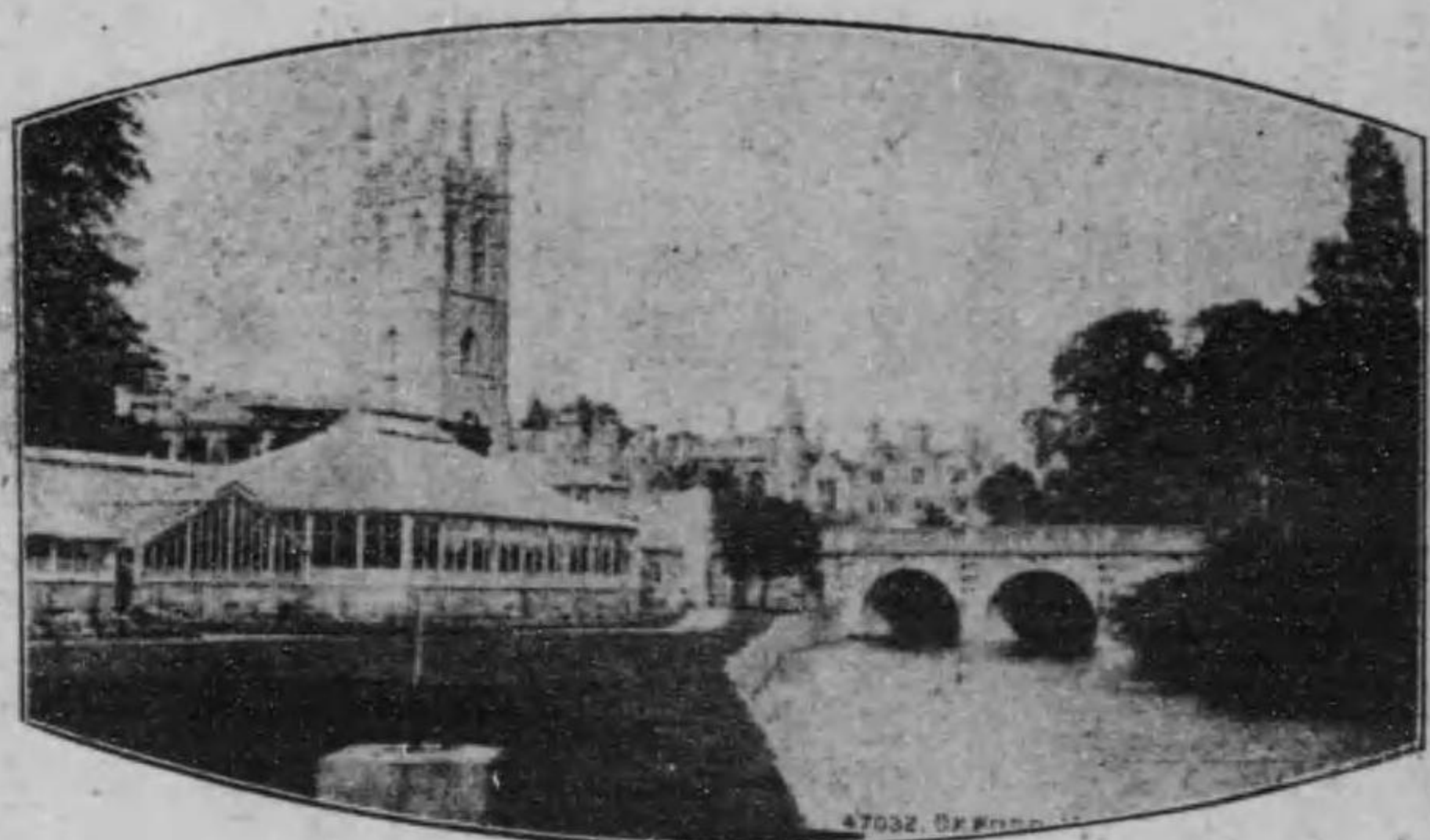
オックスフォードに行く途中、汽車の窓から圖らずも廣い花畑を見ました、之れが嘗て住んでゐたクラブの前の園藝館で、陳列會の度毎によく優賞を得るサットン氏のです、まだ見ぬ知己に

始めてあつたやうな心地がして大變嬉しく眺めました。

英吉利蔓に裝飾された大きな學校許り並んでるオックスフォード市は、又となく私をひきつけました。

例の如くたどりたどつてモーダレン塔の前なる植物園にいこへば、遠く見やらの、前の運動場には、重り鬼をしてゐる女兒の一組、フットボールの競技をしてゐる一團の青年と並に婦人連のテニスとがあります、少しはなれた森蔭には、騎士の乗りすてた馬六つ七つが香氣相に草をはんでゐます、耳をすませば何處からともなく進軍ラッパの音が戦争の秋らしくひびきます、更に歩を轉じて有名なるボートレースの場所に行けば、實に清い小川、之れがあの大きな汚いテムスの上流かと驚きました、丁度之れは聖い赤ん坊が悪い大人になるやうなものだと思ひました、艇庫には百許りのボートがはいつて居ります、「金のある學校は違ふ」と羨まざるを得ませんで

モーダレン塔、左側なる植物園温室の一部



其四十四 名残りの旅



した、此年ケムブリッチがオックスフォードをまかしたボートだと云ふのが二つ特別に飾られてあるのを見て、O黨の私は大に残念がりました。

オックスフォードから歸りの汽車は夜に入りました、折しも月かけ清く氣沓えて、ハムレットが父王の靈にあつた夜をしのばせました、線路警戒の兵士が處々にかかり火焚いて屯してゐます、青い芝生に白い食卓を設け、月下に夕食してゐる兵士はみやびなものでした、春ながら秋の趣そゞろに湧いて「蟲の音ほしや」と私は汽車の窓から野邊を見やりました、しかし英國には秋の野をにぎはす蟲が居りませぬ、又夏の夜を彩る螢もるませぬ、之れのみはまことに殺風景な國だと、物足らなく思ひました。

ケムブリッチは危険區域に近いだけ、戰の騒ぎがひどうございました、敵兵上陸した時の注意書きを市役所の前で見えて來たと云ふ同胞人もありました。

こゝにある世界に名高いトムソン博士の實驗場を見ましたが、夫れは實に小規模のもので、こんな汚い小さなところから、宇宙を左右する斯界の權能を發揮するとは、實にえらいものぢやありませんか、此處で一人の同胞が電子の研究に餘念のないの見受けました、外にも澤山の實驗装置がしてありましたけれども、此電子の一番むづかしいものだときいて、私は鼻が高うござ

いました、何處で聞いても同胞人の成功はうれしいものです。

それからまたつひ此間渡英された許りの同胞の一人がすっかりケムブリッチ兒になり濟まして居られるのを見て感慨無量でした、人はかく發展してゆく英國を、私は何等發展した事もなく空しく去らねはならないんです。

マンチエスター、リヴァプール等を三夜二日きのみきのみ、靴のひもさへとくひまなしの晝見夜行をやりました、此邊は二度目でしたから、あんまりまごつく事なく、旅行の目的をとけました、總じて英國の旅は實にらくです、汽車賃は高うございますが、其疾い事倫敦からマンチエスターまでたつた四時間で行けるんですもの、夫れから毛布や空氣枕なんかを持つてあるく必要は更にありません、各停車場では毛布一枚五十錢、枕を二十五錢で誰にでもかします、其貸し方が實に簡單なものです、名前さへ聞かず、行く先きもたゞさず、只金とひきかへにドン／＼かします、かりた者も亦使用した上、其ま、其處へおき去りにして下車します、ようまあ無くならなにもんですね、此點實に感服に堪へませぬ。三等の汽車でも中々立派です、日本の二等よりはるかにましです、ですから人さへこんで居なければ寢臺汽車のやうにして眠れます、私が歸朝する折、我が政府からの招聘によりて、さる高等の學校へ赴任すると云ふ英人夫妻と同航しました、

イトン  
カレイヤ  
の禮拜堂



此方々は上野から随分遠くまで汽車に乗らねばなりませんの  
です、同航のよしみで私は上野へのき種々御手傳申し、望み  
どほり一等寢臺車を買って上げました、列車にはいると二人  
はさもくびつくりした様に「よもや此處が、一等寢臺車で  
はあるまい」と云ひます、成る程さう見たも無理ないと恥し  
い思をしました、でも何とも致し方がありません、こんな  
に乗つたら、私は行く先きへ着かない前に屹度病氣になるで  
せう」と泣き顔して夫人はした、か不平をこぼしました。

英國の列車には、必ず喫煙許可室と婦人特別室とがありま  
す、長時間乗らねばならない者などは、前以て停車場の事務所  
へ申し込んで隅のよい席をとつてもらひます、私がお名残り  
旅行の際は總べて豫約で席をとり、婦人特別室に入れてもら  
ひました、此部屋には無論男子が入る事を許されませぬ、而  
して乗客係りが絶えず見廻りに参ります、大々的に英國の警

官に感謝してゐる私は、矢張り同様汽車の乗客係りに感謝致します。

ドイツの飛行襲撃が行はれるやうになつてから、英國の夜行列車はあかりのもれない様に厚い  
窓おほひをしてゐました、窓おほひの中のおかりさへも、車掌の合圖に依つて、いざと云はゞ全  
部消す様にとの注意書をはつてありました、かうした汽車に乗つてゐる時、「あ、戦時だ」と非常に  
おちつかぬ気分にもなりました。

何處のホテルへ参りましたが、姓名年齢なんか聞かれたためしはありません、實に呑氣です、  
あんまりぐるりが呑氣すぎて心細いやうな事もありました、一體英國では十年に一度戸籍調査を  
するだけな相です、何と悠長な事ではありませんか、かう云ふのが大國民のやり方なんでせうね。  
私のお名残り旅行は、頗る楽しく済んで夫れ々目的を遂げました、もう思ひ残す事がありま  
せぬ、此方面には。

### 其四十五 さらばよ、英國

俄然歸朝すべき飛電に接しました、實は命ぜられた歐洲大陸巡歴が、戦争のため不可能となつ  
たので、其かはり英國に滞在致しませうと考へ、夫れ々手続きをして腹をすゑました、處が間

もなく總べて瓦解、私は早速歸路に就かねばならなくなりました、折しもドイツが英海岸を封鎖して、毎日平均六つの船を沈めてる時なれば、私は此命には接したものの、立つと云ふ氣にはなれませんでした、其上夏休までの月謝を都合三百五十圓拂つて、三ヶ所に通學して都合でした

ウキン  
ル城の城  
門



から、愈々以て立つ心地はしませなむだ同胞人も英國の友人方も先生も、誰もが立つ事に不賛成です、海上危険、暫時見合せ」と電報打つて、此場は先づ落ちつくべく勸告せられました。

然し海上危険は日本だつて承知の筈、夫れを承知で呼び返す以上、其處には死を犯させても歸らせねばならぬ必要があるのでせうと、私の心はさ、やきました、死ぬるも生くるも亦命なり、仕官の身は命令に服従せねばならぬと衆議を排して、私はつひに歸國の決心を致しました。

英國にあますところあと二週間、此間に恩師知己友人に暇乞をせねばなりません、又役目上是非

行かねばならぬ六ヶ所へ旅行もせねばなりません、又買物をして邦へ心許りの土産をと、のへねばなりません、而して又仕事のきまりをつけ荷物をまとめて英國を引き上げる事もせねばなりません。

夜を日について之れ等の事に當りました、しかし間に合ひませぬ、暇乞と買物とはとうとう殆んど全く出来ませんでした、そして英國の恩師知己親友には申譯もないわかれやうをし、又日本の恩師知己親友には、此れ亦申譯もないあひやうをせねばならなくなりました、歸國する前にはせめて一日ゆつくり御目にか、つて」など、互に約束してゐた事が反古となり、又何かめづらしいものを必ず求めてかへり、夫れ々々恩師知己友人へおわかし申してと存じて居りました事もすべてあいなのだのみときえました。

大抵の店は晝頃から夕方までしか、商賣を致しませんから、日中旅行をしてる者はほんとに何に一つ買物する事も出来ないのです、實に残念な事でした。

それでも行くべき處へは行き、滞りなく仕事を片付け旅装をまとめて英國を引き上げる事が出来ましたが、せめてもの満足です。

三月十四日晝頃、つひに日本の船に乗つてテリペリー港解纜、こゝに愈々英國と訣る、事にな

りました。テリベリーはロンドンから汽車で一時間餘り行つたところにあるテームス下流の船つき場です、日本の船は常にローヤルアルバートドックから出帆するのですから、此處から乗せてくれ、ば誠に便利なのですが、テームスの兩岸には戦時の防備をしてあるので、外國旅客は一切通過せしめず、故に英國人ならぬものは、悉くテリベリーにまはらねばなりませんのです。

此時實は「十三日の夜中にテリベリーにて本船に乗るべし」と會社から通達せられましたから私は同日の晝すぎ倫敦を出發致しました、停車場でビヤノの先生ミスドッセルスミスに訣れる時は、實に斷腸とも何とも云へませんでした、「氣をつけてね、恙なく航海を……」と先生が申さるるに、「ハイ、大丈夫です」と答へては見るもの、目の前に敵の潛航艇の厄災をひかへてる事なれば、恙がないやらあるやら、或は沈むのかも知れないと云ふ考が「ハイ」と答へる下からひらめき出で、二の句もつけず、先生も亦氣をつけてと云つては見るもの、どう氣をつけられやう筈もなし、可哀相に見す／＼かうして殺さねばならぬとも思はれるのでせうか、目をしばた、いてあとは無言、互に無言でちつと向ひ合つてると、云ひしらぬ悲哀がこみ上げるのでした、もう發車と云ふ時あわて、先生は雜誌と菓子とを賣り子から買ひ求め、黙つて私のポケットに入れて下さいました、私はあふれる涙をとゞめかねました、「國についたらすぐに練習をなさいよ、大丈

夫一人で出来ますから、私があけた本は皆練習する様になさい」と云はる、言葉を最後として、汽車は私を先生からはなしてしまいました。先生は六十を越した一人者です、天才肌のビヤニストです、十數年前迄は隨分名聲を斯界に轟かした方な相ですが、「下り坂にならない中に勇退するのが藝術家の藝術に對する義務だ」と主張して、ヤンヤと云はれるところを退き、爾來氣なりにビヤノを友とせる生涯を送つて居られます、かう云ふ方はや、もすると、天才肌のことを愛しあたりまへの者なんかは顧みぬと云ふ風があるものですが、先生は全く之れと反對、「出来る者には教へるに及ばない、出来ない者にこそ教へなければならぬ」と云はれて、實に尋常ならざる苦心をして、出来ない者に教授せられました、此意味で私は先生に非常な御ひいきをいただきました、先生はもう公には弟子をとらないと堅く門戸を鎖して居らるゝにも係らず、教を請ふもの門前市を成す有様でした、大抵は拒絶されましたが、幸にも私は、一番に出来ない故を以て、一番に歓迎せられました、そして、八時間の練習の結果、手頭がはれ上つた時、「慰勞をして上げやう」とて、當時の呼びものであつた「ドイツのまはしもの」と云ふ芝居に連れて行かれました、又目が悪くなつた時、フハーザーアンドルーと云ふ名僧の説教を聞きに伴はれました、夫から背が痛くなつた時、雉子の蒸しやき、うで卵、魚のフライなどを自分で料理して、私の宿に持つて来て下

さいました。

先生は随分奇行の方でした、私も亦かはり者です、此奇行と此かはつたところが妙に調和するものだつたと見えて、日ならずして母と娘とのやうなつきあひになりました、あ、此母に私はかくて訣れてしまひました。

汽車がテリベリーに着いた時、私は猶盛にミスドツセルスミスの事を考へてゐましたが、赤帽を呼んで荷物の始末をたのむと共に、何を心の中から消散せしむべく餘儀なくされました、折りから日はとつぶりくれて、重つくるしい雲がひく、垂れ鼻をつま、れても分らない闇です、なれた路とて赤帽は六つの荷物を車にひいてズン／＼テリベリーホテルへ行きます、私は手さぐりにやう／＼歩を運びました、ホテルは可なり大きな建築です、私は一人客間の椅子にくつろぎました船に乗るべき十一時半まで、猶四時間もありません、疲れきつてゐる事ですから、何とかして眠りたいものだ、更に長椅子に横はりましたが、どうしても眠られませぬ、益々心は興奮し、益々目は鋭くなる許り、そして取りとめも無い事を種々断片的に思ひ煩ひました、「こんなにしてるよりは日本へ手紙でも書かう」と思つて、「例令身體は海底に沈むとも心は日本に歸るべく候」といきなり書きつけました、それから「母上様始め弟妹……」と次ぎを書き流しましたが、これから先

倫敦から  
グリニツ  
チヤキン  
グスフヒ  
ールド邊  
へ行く線  
路の起點  
になつて  
るチャ  
リング  
ロツス停  
車場



きは何とも彼とも筆が動きませぬ、思ひきつて、「御身御大事になさるべく候」とくつつけておしまひにしました、此手紙を自分で出さなければ気が濟まない心持がするので、幸ひ時間はある事なり、ホテルからマツチすり／＼停車場に出て投函しました。

夜十一時旅券検査場へ呼ばれました、中川校長様の御高配に依つて賜はりたる留守宅扶助料支給の書きつけ、及び其他の公文書四五通入れた大封筒の中から、旅券をひき出して見せました、直に認可されましたが、大封筒があやしいと思つたらしいのです、何だか變な目つきして二人の役人が私の手もとを見てゐましたつげが、いきなり一人が手を伸して私から大封筒をもぎとりました、あはやと見る間に一々ひろげて見てゐます、私は其無禮を怒りました、鬼の首でもとつたやうに勇んで開いては見たもの、さつぱり讀めない日本文字なものですから、役人はまが悪くなり平あ

やまりにあやまつて返しました。

夫れから渡しの小蒸汽に乗り、テームスに浮んで、倫敦から来る船を待ちました、ボート、ボートと夜陰の空気をゆるがして殆んどひつきりなしに、幾多の船はのぼり又下ります、けれども私の待つ船は一向に参りませぬ、空しく一時とすぎ二時とすぎ行きます、はて面妖な!

夏の遊山船見たやうな渡し船には固より暖室の用意がしてありませぬ、そこを容赦もなく川風がふきつけますので魂も冰る許り寒うございます、まさか私共を置いてきばりにしたわけではあるまいが……どうしてかう船が来ないのか誠に不思議な事です、若しや船員のストライキでも起つて船が出せないのか、又は飛行機に襲はれたか、乃至は水雷にでも觸れたか、或は傳染病患者發生で解纜期日が延びたのか、又は時節柄の政策上、何か急に事が變つたのか、何れにしても何ぞわけが無くてはなりません、其わけを徒にあれやこれやと思ひ煩ひつ、とうとう夜が明けました、渡し船に一夜をあかした十数人の船客は、徹夜の疲勞と寒さの苦しみとで半病人の態です、夫れでも元氣を出して一同テリベリーホテルに行つて朝食をした、め、大急ぎで渡し船にかへりました、すると間も無く、「昨夜霧深くて船がドックを出る事が出来なかつた、今日午前十一時を待て」と云ふ電報が、會社から旅客一同へ来ました、なんだそんな事か、そんな事なら、もう一晩倫敦に眠れたものをと實に残念に存じました、然し夫れは「今更愚痴だ」と自ら制する時、テ

印度洋航  
海中上陸  
して見た  
熱帯植物

ームスの川面をかすめて彼方から響いて来る時報、夫れは丁度一年この方、聞きなれた倫敦の議事堂のと同じ音階です、實になつかし! かくて耳は昨日にかはらぬ響きを感じずれど、目に映るものは、最早舊觀をとめず、變り果てたる眺めです。



かう思つて、テームス河の岸にた、すめば、遠く近くチャーチのベルが響いて來ます「お、さうく、今日は日曜だった」と心づきました、英國に於ける最後の日曜と思つて此前お祈りをウエストミンスター寺院で行ひ、夕の説教はセントポールのカセードルでき、ました、然るに今日こ、で思ひがけなくも又日曜にあひました、私は川べりを歩みながら、小聲で讚美歌をうたひ、心からの感謝を大自然に捧げました、日は穩に輝いて寒い風は少ないだやう、私は大變に心持が晴々しくなつて河上の壯觀を眺めました、實に出船入船の數知れず、流石は大英國なり、かくて英國は如何に封鎖せらるゝとも決し

て、飢うることあるべからずと頼もしいと思はれました、出る船は何も積み出さねば、高く浮いて船底を見せ、入船は沈む許りの満載に豊なる供給をしのばせてゐます、解纜に遅れたおかげでかかる壯觀を眺め得る事を嬉しく存じました。

やがて豫定の時刻に日章旗の船がやつて來ました、嬉しいと云ふよりは寧ろ恨めしい心地でした、しかし見上ぐれば日本の船員が見えます、なつかしからざるにしもあらず、同胞人は何處であうても嬉しいものです、高い梯子をのぼつて船に乗り移り、自分の部屋へはいりました、船外の空氣には全くふれる事の出來ない穴ぐら式の船室です。

あしかけ四年ぶりに、日本人の給仕で船の晝食をいたゞき、それから萬一の折に乗るべく、指定されたボートを見たうへ、私は慾も得もなく船室で休息しました、かくて夜になつたのも知らず、明けたのも夢中うつ、心に起き出でた時は、「最早や危険區域を通過せり」と云ふ航海第二日目の夕方です、餘り安全なので少しあつけにとられました、夫れにつけても死なねばならぬものやうに考へて大騒した事の今更恥かしくも亦面目なく、一昨夜の手紙が日本へついでくれなければよいと念じました。

英國に着いた時上陸が出來なくて苦しい一日を過した私は、立つ時また船に乗れなくて、一夜

を苦しみました、之れも何ぞの因縁よく、業が悪く生まれついたらと見えます、しかし難なく危険區域を通過出來ましたのは、何と云ふ有り難い仕合せでせう。

邦を出る時は日一日と涙がへりましたが、英國を去る時は日一日と離愁のなやみが深くなりました、あはれなつかしの英國、よしや私は去んでも忘れはしませぬ、さらば！

### 其四十六 歸り路

歸路五十日の船の中では、ノートの整理とピアノの練習とをする豫定でしたが、何れも其目的を果す事は出來ませんでした。

ピアノは倫敦から上海までの乗客なる男子宣教師團に占領せられて、外の者はそばへも寄りつけませぬ。

私の暗い船室では、ノートの整理が出來ませぬ、さりとて階上の喫煙室では之れ亦不可能、無論デッキの上では駄目、只僅かに食堂の一デスクが、之れに都合い、状態です、けれども食堂はピアノもろ共、宣教師團の専用と云つた鹽梅、朝食後には禮拜、晝前にはバイブル研究、晝すぎには説教、夕食後は祈禱會が催されるので、外の者は食事以外に食堂へはいる事が出來ませぬ。

私はかう云ふ集まりに出るのは大すきですけれども、此人々の行動を見て居つては、行く氣にはなれませんでした、何にせ此人々の船の上の日常が實にわがま、で、傍若無人のふるまひ許りです、私が西洋で見た宣教師はかうしたものではありません、名實相伴つた立派な宗教家でしたが船であつた人々はどうも種が違ふ様でございました、集會の時だけ、口の先きで、神をた、へ、道を説き正義をさとしてゐますが、集まりが終ると、其言行は、すべて、没道義と不禮とに立ちかへります、惟ふに之れは固より種の劣等なるものに相違ありませんが、又一つにはぐるりが遠慮の入りぬ日本人なので道徳の標準を下げるのかも知れませぬ、何とした偽善者！ こんな人々にどうして宗教のはたらきが出来ませうぞ、恐らくは彼等自身も亦宗教のためにはたらくと云ふのでは無くて、只バンのためなる事を自覺してゐるのでせう。

かう云ふ人々の跋扈してゐる船の中は、實に不愉快なものでした、其上倫敦よりボートセツトまでは酒をあふつて亂暴する壯者の一行七人が乗つてゐました、獨逸から捕拿した船が、ボートセツトに繋いであるので、夫れを受け取り更に艤装して貨物船とし、遠くオーストラリア植民地がよひをやるために、其船員として此人々が行くのです。

一行中二人は温厚らしい比較的酒を飲まぬ人でしたが、夫れでもみんな一所になつて、絶えず

酒宴を催しました、スモークングルームは、強い酒の香で以て、侵蝕されてしまいました、飲みながら、唱ふ、笑ふ、ふざけるは極つた事、更に酔うては亂暴を始めて自分が怪我をする人に迷惑をかけると云ふ有様でした、船は十時の消燈でしたが酔人には時の考も何もありませぬ、夜更けてから眠つてゐる者の船室を襲うて時ならぬスモークングルームをやつた事もあります、又は殆んど夜中假裝舞踏で騒ぎ通した事もあります、私の西洋で知つた壯者は、こんな者ではありませぬでした。

目の前に同國人のかうした亂暴を見ながら、宣教師連は何とした事！ 之れは面白いと許りおだて上げ、其狂態をうしろ指さし、なぐさんで居ました。

また船員なる者が之れに向つて何等の制裁を施し得ないんですから、驚くぢやありませんか、潜航艇にも見つからず、難なく來は來たもの、此の如き人々を以てみたさる、船の中には、連も居る事が出来ませんので、私はマルセーユでおいてしまひ、次ぎの便船を待たうと思ひました、しかし我れも人も殺氣立てる戦争の世の中なれば、一難免れて一難來るは知れた事、まあ、と胸なでおろして乗り續けました、幸に生命もとられず怪我もせず、何事もなく濟みましたが、中々恐ろしい事でした、戦時女の一人旅なんかやるもんぢやありません。

四年前、往航の時には、連れはよし、旅費は豊なり、至極幸福に上陸見物をやりましたが、今



私がわざ  
わざ見に  
行つたス  
コツトラ  
ンド兵の  
コスツチ  
リルダン  
ス



度は連れも無し、金も不足なれば、あまり上陸はしませぬ、留學期限通りに歸れば、やらずに終つた歐大陸巡歴費の莫大なものを懐中する事が出来ましたから、何でも自由な事をやられたのですが、あと半年英國に止まらうと思つたが身の災難、さつさと月謝に拂つたり何か致しましたので、突然飛電に接した時は立つにも立てぬ財政困難の有様でした、やつとの事で旅費萬端の都合をつけ、又ドツセルミスから特別を以て月謝の半分返へされたのを、船の小遣としてやう／＼にしのぎました、一體英國あたりの學校では、月謝はすべて前納、そして半途退學者には、如何なる理由があつても返附せぬ規定です。

コロシボ、ベナン邊から、デツキバツセンチャーとして百數十人の熱帯土人が乗りました、之れ等は甲板の上に荷物同様の態で、船の上に野宿生活をするのです、尤も天井には日

おほひをしてありますが、敷きものも何も與へませぬ、食物は彼等の自炊に任せます、ですから船では水を與へ、そしてデツキを貸與しさへすればよいのです、之等の人々はスイングボール邊へ移住するのだ相ですが、老幼男女主人僕婢打ち混じて非常ににぎやかです、食物としては茄子に里芋などの野菜を幾種もまぜてゴタ煮をやり、夫れに一種のカレー粉を入れ、米の御飯にかけておじやの様なものにします、夫れを芭蕉の葉に盛りあぐらをかいて、手でいたゞきます、かう申すと如何にも野蠻の様ですが、實際は之れでもなか／＼禮儀があり秩序が立つてゐます、此方々は何か匂のするものを持つてゐるのか、そばに行くときつい一種異様の香がします、而して多くは腰服きりです、けれども人前をはゝかる時は、シャツ見たやうなものをもとひます。丁度此頃月夜でした、若い男の土人がい、聲で月に數番うたひました、夫れが實に單調で、日本人がお經を読む様です、單調な海をしづかに船がすべつて行く時、かゝるうたを聞くのは實に妙を得たものだと思ひました。此歌のふしが日本人の讀經に似た外、此人々のする事爲す事の多くが、日本人に似てゐます、行きの折りセイロン島の處々で「日本の田舎に似てる」と思つて眺めた私は、此度は「日本人に似てる」と思つて、此土人方の群に交りました。

スイガボールで土人と入りかはりに船に乗つたのは日本婦人約三十名です、此中威張つて一等

に乗つた者二人、得意氣に二等にはいつたもの八人、あとは三等にみじめに収まりました、之れは何れも英領植民地を汚して賤業婦です、之れあるに依つて日本人はビーストの域を脱する事が出来ないのです。而して私がラモアベーバークでいぢめられた次第です。

心ある英人が、之れ等の撲滅を絶叫してゐるにも係らず、猶其目的を達しかねてゐる處の手にあまる代物です、私は之れ等の魔物につとめて接近しました、色々と話し合つて見ました、驚くべし彼等の多くは、「人の悪い人間」ではありませぬ、何處となく田舎臭い純朴なところがあります、そして更に驚くべきは、殆んど無學無藝な事です、彼等は蟬の羽の様なきものを着、胸には金鎖を飾り、指には寶石指輪を嵌めて居りますが、其顔には云ふに云はれぬ陰氣な相をたゞよはせ、しかもやせ衰へたる者、病人らしきもの、魂をとばした様なもの許りです、ですから折角の美しいきものも輝く裝飾品も悉く此慘たる暗黒色に包れて「ぼろ」よりも汚穢うございます。

彼等自身も、亦よくかう云ふ事を自覺してゐると見えて、「私はもう眞人間ぢやありません、此指輪此鎖が、如何に淺ましい歴史を語つてゐるでせう」と愁然たる者もありました、「此度歸るのを機として職業をかへたらどうですか」と試みに私が申しましたら、「さうしたいは山々ですが、何をしやうにも何も知りませんから、今更どうする事も出来ませぬ、夫れにひと様がもう相手にし

ては下さいますまい、夫れ故自然また出かけて行かねばなりません」としんみり申しました。

無残なる哉彼等の運命、彼等は十三四にして誘惑され、三十越す今日まで只ビーストの生涯をして來た者です、之れから先きも生きながら畜生道に葬むられねばなりません、噫あはれ！

久方ぶりで生れ故郷の日本に歸る時、彼等は最早や罪惡の塊と化し去つてゐるのです、けにもいたましの我が同胞！

かゝる同胞を持つてゐるうちは、例令何が何でも私共は他國人からビースト扱ひにされねばなりません、口惜しの状態！ 口惜しくば立て！ 立てよ日本の男女、立つて之れ等の同胞を救へかし。けに職業もあらうに、世界無二なる大和民族が、異國の空でビースト的の營業とは噫！

### 其四十七 悲しや神戸嬉しや東京

「櫻花既に散る」と四月十八日熱帯の海に浮んでる船へ日本から無線電信が通じました、此たよりを得た日本人は、花が散り世が青葉になりゆく様を心にゑがいて「今年の花には間にあはなかつた」と述懐しました、すると外人等は、「櫻は日本の名花とはきけど、わざわざ電信で知らせるとは何事か？ 恰も國家の一大事のやうだ、どうした理由？」と不審がりました。

英國のさ  
る田舎に  
ある水仙  
ばたけて  
す、夫れ  
こそ見渡  
す限り只  
水仙の世  
界です、  
私が此處  
を汽車で  
通つた時  
よいかを  
りが列車  
の中には  
いつて來  
ました



花鳥風月に趣味の高い西洋人には、此間の消息がよく解せるだらうと思ひましたら、矢張り分りませぬ、櫻が咲いた、……櫻が散つた……に對して味ふ一種獨特なる日本人の氣分は到底外人には不可解のものと見えます。

香港を出た翌夜半、何やら非常な苦痛に私は目がさめました、苦痛の中から恐しい病名が頭にほとばしり出ます、折りから大しけで船のゆれがひどございます、やうやくの事で人を起しボーイを呼び醫者を迎へました「あなたは不斷心臟病でもあるんですか」「い、え」「どうも脈が……」と、ドクトルは腕中脈をさぐりまはつて居ります、私は死にかけてるのかしらと思ひました「脈が無いんですか」「まさか……さうでもありませんまい」「……早く此激痛をとめて下さい」と頼みました。

「手足がまるで冷たくなつてる」と云ひ、ドクトルは室を

出て行き、やがて湯タンポとブランデーを持つて來られました、ブランデーをのみました、間もなく胃の中が綺麗に掃除されました、流石はブランデーの效驗の著しいのに驚きました、それから段々に痛みが減つて疲勞が加はり、曉頃には前後も知らず寢入りました。

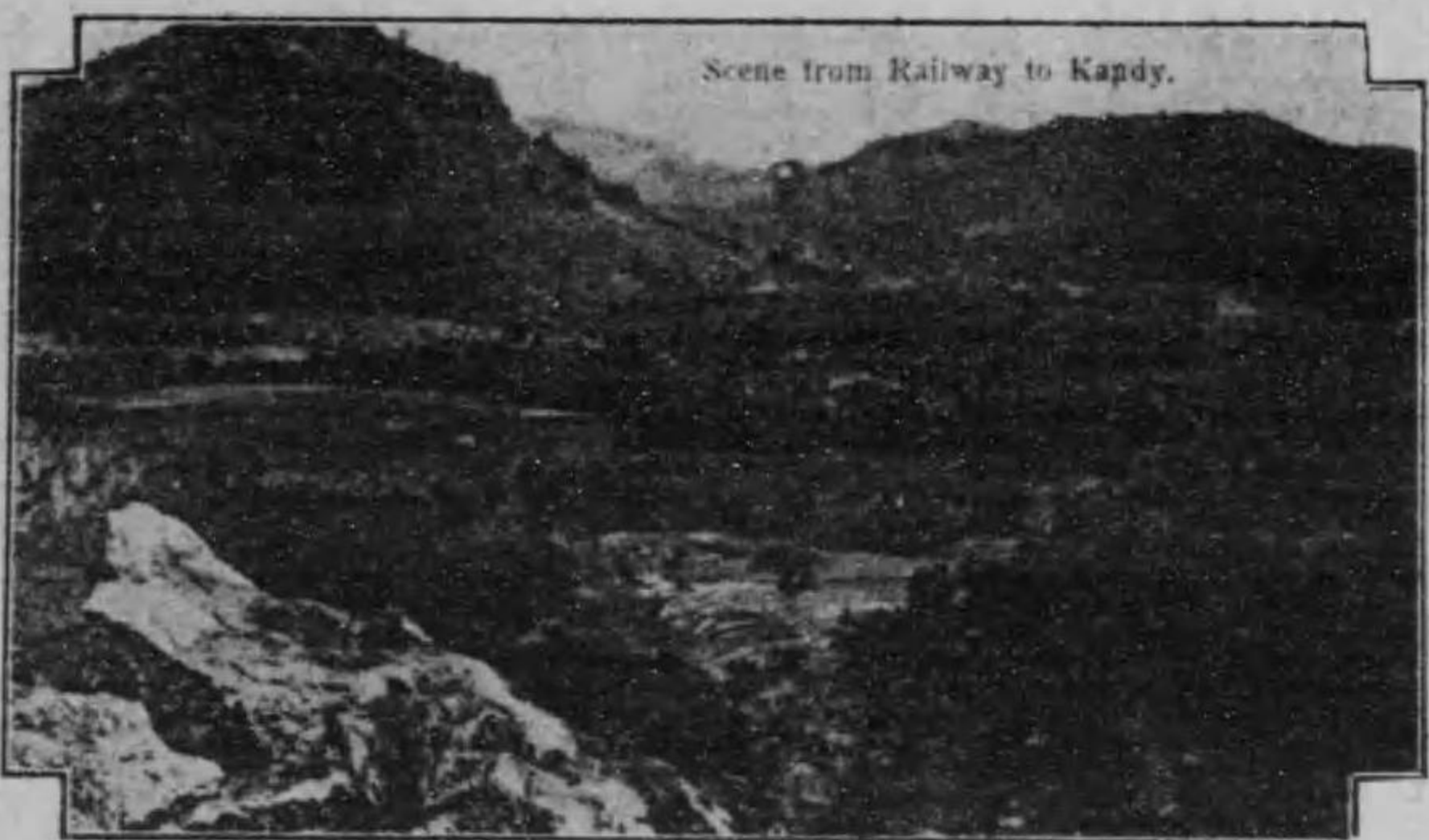
晝頃重苦しい眠りから醒めると、神経のせいか心臟が時々コトコトコトツと亂調子になるのを覺えました、痛みは幽かに残つてゐるだけです、手足がだるくて動かさせませぬ、身體が随分疲れてゐます。

聞けば船客の八分、船員の半分が昨夜來かうした惱みにか、つてる相です、船客は「香港から仕入れた『えび』に毒があつた」と不平を申しました、「そんな事はない……陽氣のかはり目の祟り」と船員は辯解致しました「陽氣がどうあらうと、昨夜のロブスターサラダさへいたゞかなかつたらこんなくるしみにあはなかつた」と、私は心の中に自分の意地きたなさを恥ぢました。

上海につきましたけど、私は此間のなやみの續きで頭が上りませぬ、夫れから進んで「日本の燈臺が見える」所へ船がさしかゝると、人々はコロンブスが始めて陸地を發見した時のやうな氣分で騒ぎ出しました、でも私は未だ病床です。

ひとゆすり／＼船が日本に近づくと共に、しげがひどくなつて参ります、「恐らく之が此航海中

日本の田舎に似たと  
思つて眺めた  
イロン島の  
一部



での最も悪い天候なるべし」と、外人等は申しました、今夜は神戸に着くと云ふ日の晝すぎ、私はやう／＼に起きて荷物を片付けました、ローヤルアルバートドックに上がる時、大元気で荷物を片付けましたが、今度はさつぱり元氣が生まれぬ、私の心はまだ英國にさまようてゐます、夜十時愈々神戸に着きました、けれども風浪高き夜陰の事とて、はしけは生まれぬ、私は此程中、寝あきる程寝た事ではあり、夫れにいくら何でもかう故國に船がついては、流石に眠る心地にもなれず、一人しづかに食堂に腰かけて、あらしの神戸を窓ごしに見やりました、「悲しや神戸」……と二三首の腰折れをものしてゐるうちに夜はあけました。

雨は少し小やみになりました、早速上陸致しました、小やみになつたとは申せ、猶降りどほし吹き續けの中ですから、すぶぬれになつてはしけを出ました、再び「悲しや神戸」としほれ

ました。

拙き我れを友なればこそ「是非とも歸りには」と仰有て下さつた方は、神戸に澤山あります、けれども私は人騒がせが大きらひです、一切おしらせ致しませぬ、されば知つた顔に迎へらる、事もなし、全く知らぬローヤルアルバートドックに上陸した心地です。

汽車の都合によりひとまづミカドホテルにいこひ、まづ第一にミストツセルスミスに長い手紙を書きました、夕方雨が晴れましたので、諏訪山へ上りました、見れば八重の櫻が茂る葉かけにしぼんだま、くつついて居ります、「夫れでも櫻が見られた」と喜びました、山を下りると麓でひよつこり袴をはいた婦人にあひました、片手に雨傘を持ち、片手に包をか、へ、そしてあしだを引きすづて行かる、スタイルは、どうしてもお仲間と違ひありませぬ、私は思はず立ちどまつて其後姿を見やりました、「なつかしの同業者」と思ふ心の下から、「あ、」と歎息の聲がもれました、袴の先生は丁度アラビヤの砂漠で私が味つた様な「生氣の無い影」を私の胸に投げつけました、終日の授業に疲れたのでせう、或は又何ぞむづかしい會議でもあつて頭をつかたのかも知れませぬが、實にみじめな程力の無い様子です、かう云ふ女教師は、西洋にはあるませぬ、「陰氣な女はどんなに學徳が優れても教育者には向かない」と彼地の人は相戒めてゐます、「別して體操教師なる